

# 令和３年度 第１回

## 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

日 時：令和３年８月２３日（月）１３：３０～１６：００

場 所：ウェブ会議システム「WebEx」

## 次 第

### １．開会

### ２．議事

- （１）対象区域内におけるシカ生息状況及び対策の実施状況
- （２）令和４年度重点方針（案）の検討
- （３）地域別意見交換
- （４）その他

### ３．閉会

#### 【配布資料一覧】

#### ○議事（１）

- 資料１－１ 令和３年度尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策報告（年次レポート）
- 資料１－２ 日光国立公園日光地域生態系維持回復事業計画
- 資料１－３ 群馬県植生保護柵について

#### ○議事（２）

- 資料２－１ 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（概要版）
- 資料２－２ 令和３年度実施計画
- 資料２－３ 令和４年度重点方針（案）

#### ○議事（３）

- 資料３－１ 栃木意見交換会の導入
- 資料３－２ 群馬意見交換会の導入
- 資料３－３ 福島意見交換会の導入

- 参考資料 令和２年度実施計画の課題と整理、評価及び改善案（ヒアリングシート）

令和3年度 第1回 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 出席者名簿

令和3年8月23日(月)

所属	役職	氏名	会場(web)
関東森林管理局 計画保全部保全課	野生鳥獣管理指導官	菊池 毅	福島
	保護係長	糸永 亘児	福島
会津森林管理署南会津支署	総括森林整備官	高木 晃	福島
	首席森林官	田部 大輔	福島
日光森林管理署	地域林政調整官	泉田 利明	栃木
	主任森林整備官	町田 次郎	栃木
利根沼田森林管理署	森林技術指導官	須藤 洋一	群馬
	森林技術普及専門官	中村 聖子	群馬
中越森林管理署		欠席	
栃木県 環境森林部自然環境課	課長補佐	丸山 哲也	栃木
	主事	石川 雄一	栃木
県西環境森林事務所環境部環境企画課	副主幹	渡邊 智佳	栃木
	室長	田中 佑典	群馬
群馬県 森林環境部環境局自然環境課 尾瀬保全推進室	企画推進係長	西嶋 弘満	群馬
	主任	大澤 康生	群馬
地域創生部文化財保護課	主幹	茂木 誠	群馬
	主事	相川 直気	福島
福島県 生活環境部自然保護課			
教育庁文化財課	文化財主査	篠田 有希	福島
新潟県 県民生活・環境部環境企画課		欠席	
		欠席	
教育庁文化行政課			
日光市 農林課	課長補佐兼林政係長	千葉 達哉	栃木
	副主幹	蜂須賀 博史	栃木
片品村 農林建設課	主事	小泉 好徳	栃木
		欠席	
南会津町	環境水道課長	遠藤 知樹	福島
	農林課 主事	千本木 洋介	福島
檜枝岐村 産業建設課	課長	星 公二	福島
	副主査	井上 宏司	福島
魚沼市 生活環境課		欠席	
東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部 水利・尾瀬グループ	課長	大江 一彦	群馬
	副長	菊池 史郎	群馬
尾瀬山小屋組合	組合長	清水 秀一	福島
公益財団法人尾瀬保護財団 企画課	課長	白石 光伸	群馬
	主事	矢島 知佳子	福島

【有識者】			
宇都宮大学	名誉教授	谷本 丈夫	栃木
群馬県立自然史博物館	生物研究係 主幹	大森 威宏	群馬
広島修道大学	人間環境学部 准教授	奥田 圭	福島

【事務局】			
関東地方環境事務所			
国立公園課	課長	井上 綾子	栃木
	生物多様性保全企画官	青柳 信太	福島
	自然保護官	池田 一穂	栃木
野生生物課	課長	佐藤 大樹	群馬
	所長	千田 純子	栃木
	国立公園保護管理企画官	二神 紀彦	栃木
日光国立公園管理事務所	生態系保全等専門員	吉川 美紀	栃木
	国立公園管理官	桑原 大	福島
	生態系保全等専門員	奥村 修	福島
檜枝岐自然保護官事務所	自然保護官	石井 桃花	群馬
	自然保護官補佐	尾池 こず江	群馬
	生態系保全等専門員	小林 春香	群馬
片品自然保護官事務所	代表取締役	淵脇 智博	群馬
	取締役	宮本 留衣	福島
	技師	坂本 祥乃	栃木
株式会社テンドリル	取締役/部長	奥村 忠誠	福島
	主任研究員	瀬戸 隆之	群馬
	主任研究員	後藤 拓弥	福島
	研究員	榊 葵	群馬
	研究員	羽根田 貴行	栃木
	研究員	吉田 真悟	栃木
株式会社野生動物保護管理事務所			

# 令和3年度尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策報告 (年次レポート)

2021(令和3)年8月23日

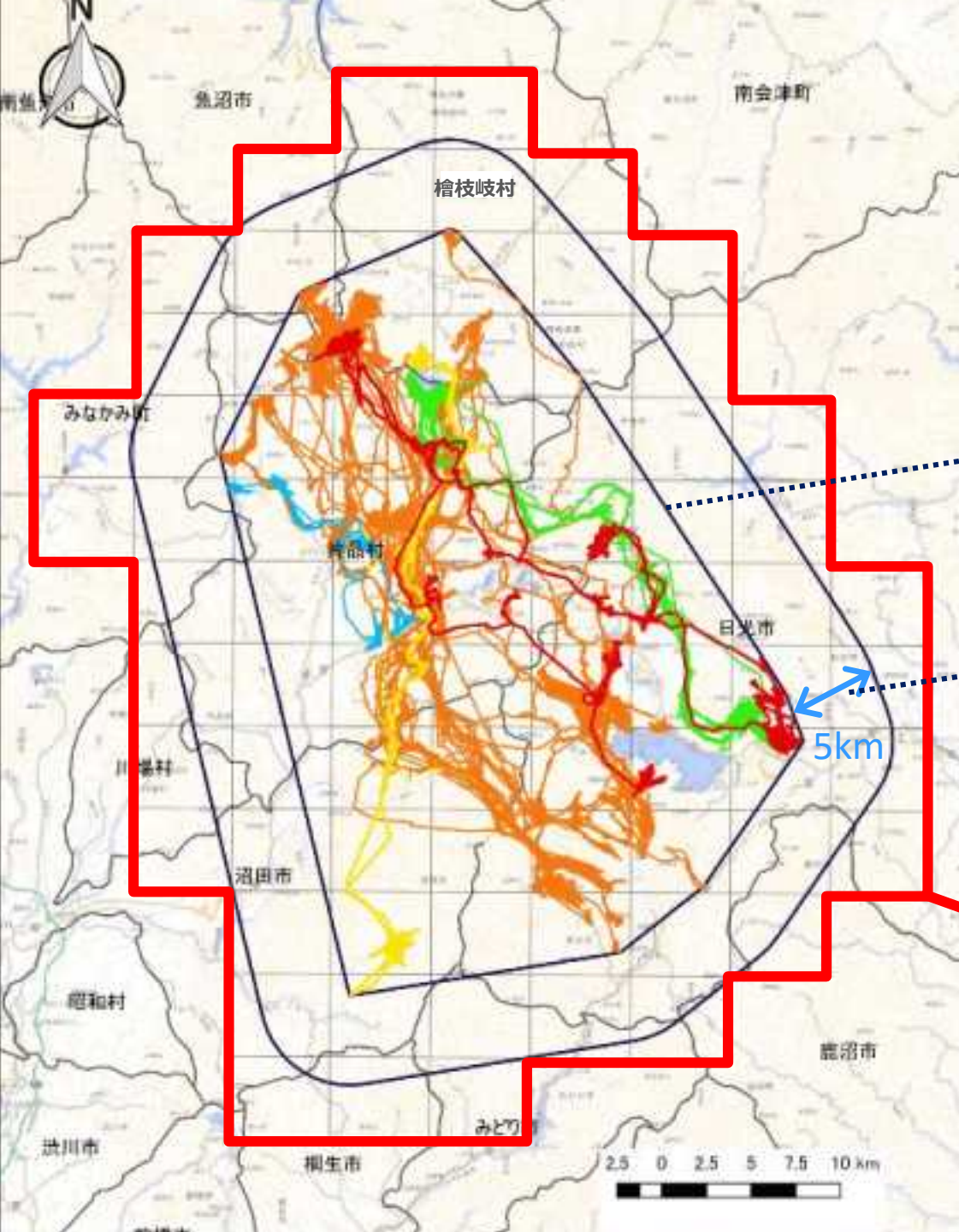
尾瀬・日光国立公園二ホンジカ対策広域協議会

# 目次

- 1. 地域の概要**
2. 植生被害と対策の効果
3. 捕獲とその効果
4. 地域ごとのまとめ



# データの収集範囲



- ・尾瀬日光集団の行動圏(最外郭)を算出

日光利根地域個体群の  
行動圏最外郭

- ・行動圏（最外郭）から5kmの余幅を算出

最外郭 + 5km余幅

- ・5kmの余幅が含まれるメッシュ

行動圏（最外郭）から算出された  
余幅が含まれる5kmメッシュ

**= 解析範囲**

# 地域区分について

**(1) 奥日光・足尾地域**

⇒主たる越冬地

**(2) 片品・檜枝岐地域**

⇒季節移動経路

**(3) 尾瀬地域**

⇒夏季の生息地

**(4) 会駒・田代帝釈地域**

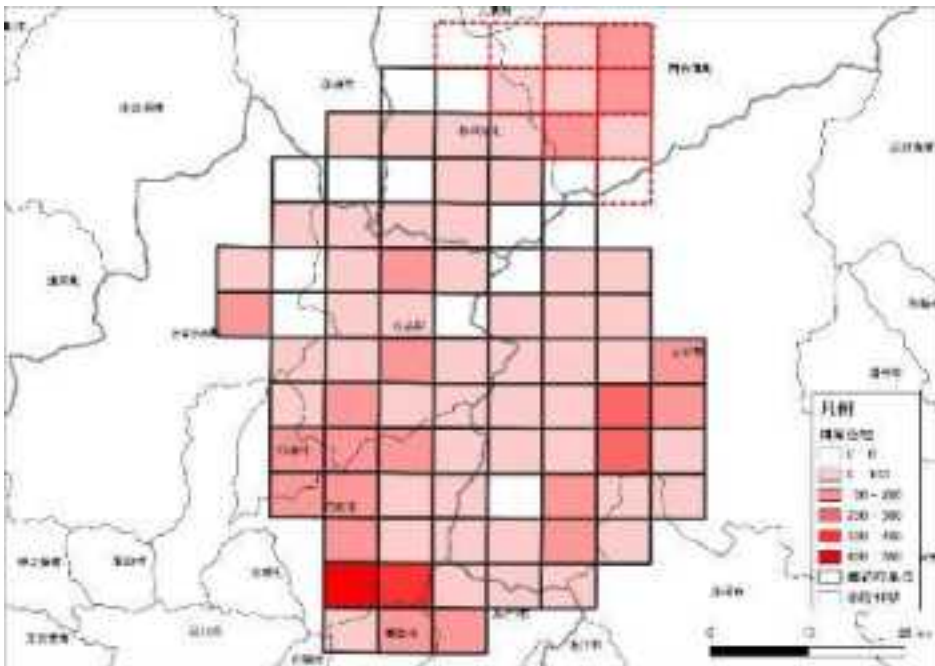
⇒分布拡大地域



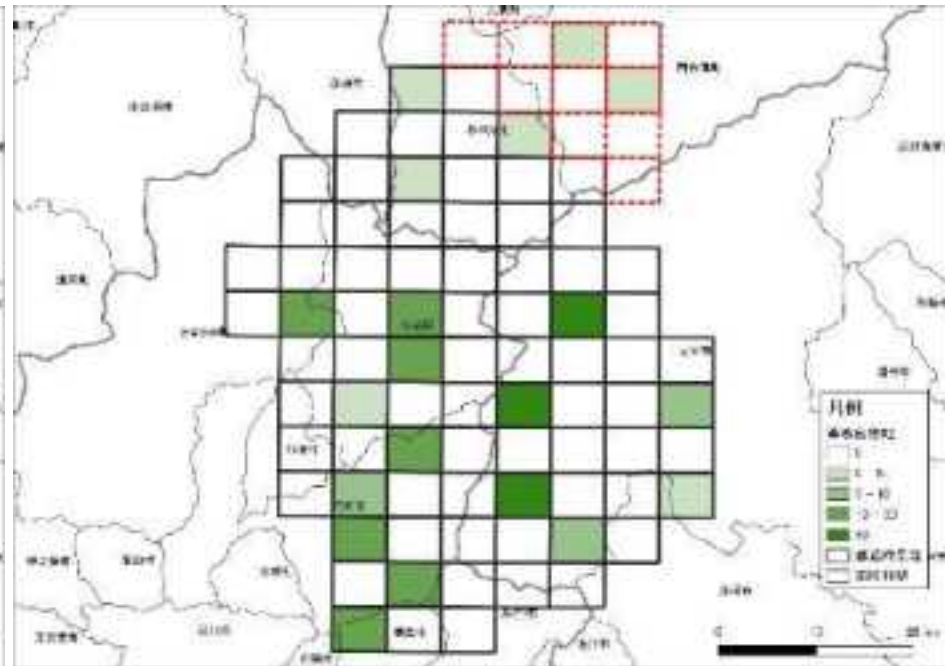
# 近年の生息状況（R2年度）

- 対策エリア内の捕獲数は、南西部が多い。
- 対策エリア内の糞塊密度は、中央部が多い。

## 捕獲数



## 糞塊密度

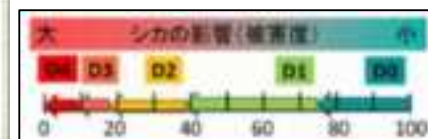
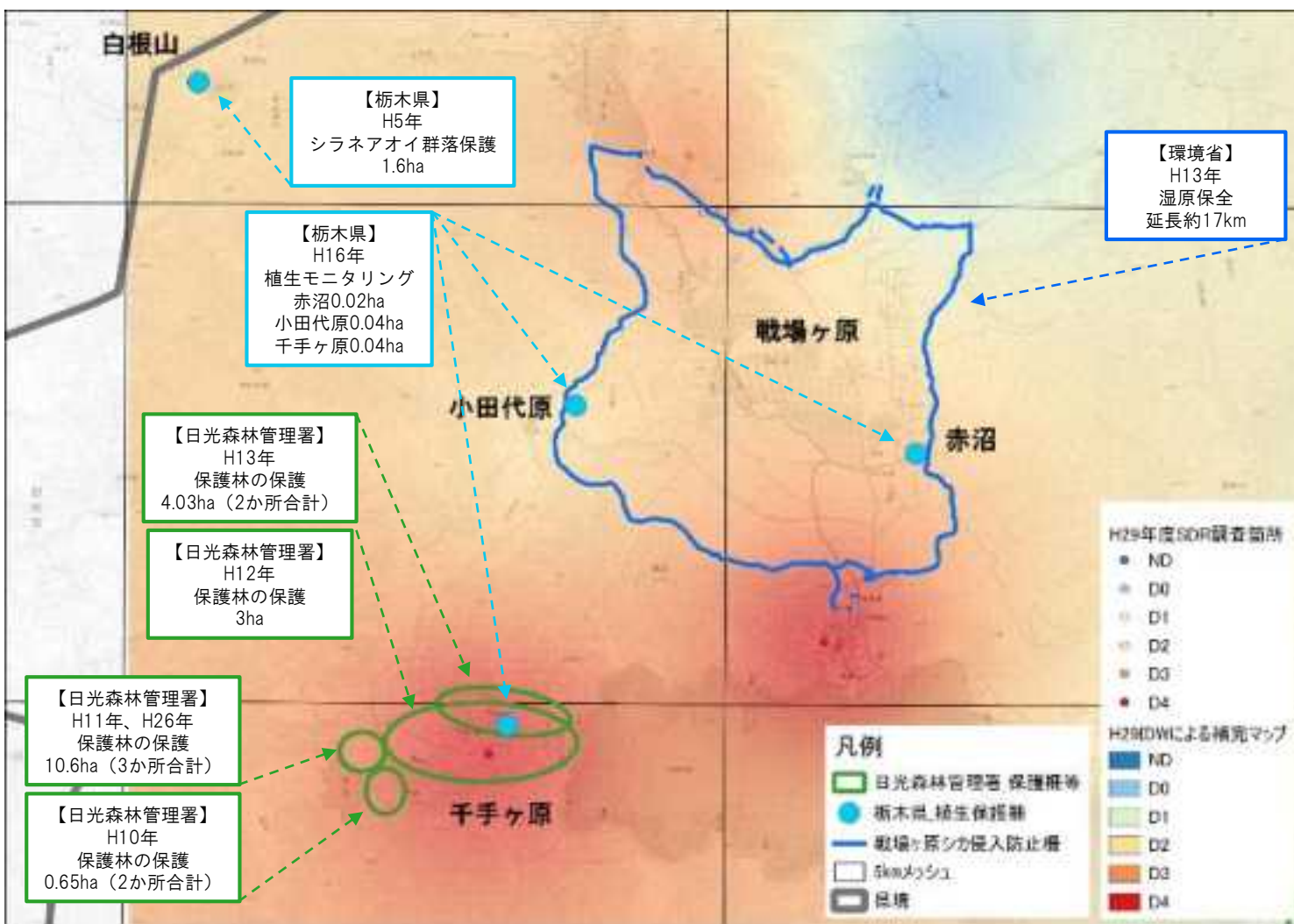


# 目次

1. 地域の概要
- 2. 植生被害と対策の効果**
3. 捕獲とその効果
4. 地域ごとのまとめ

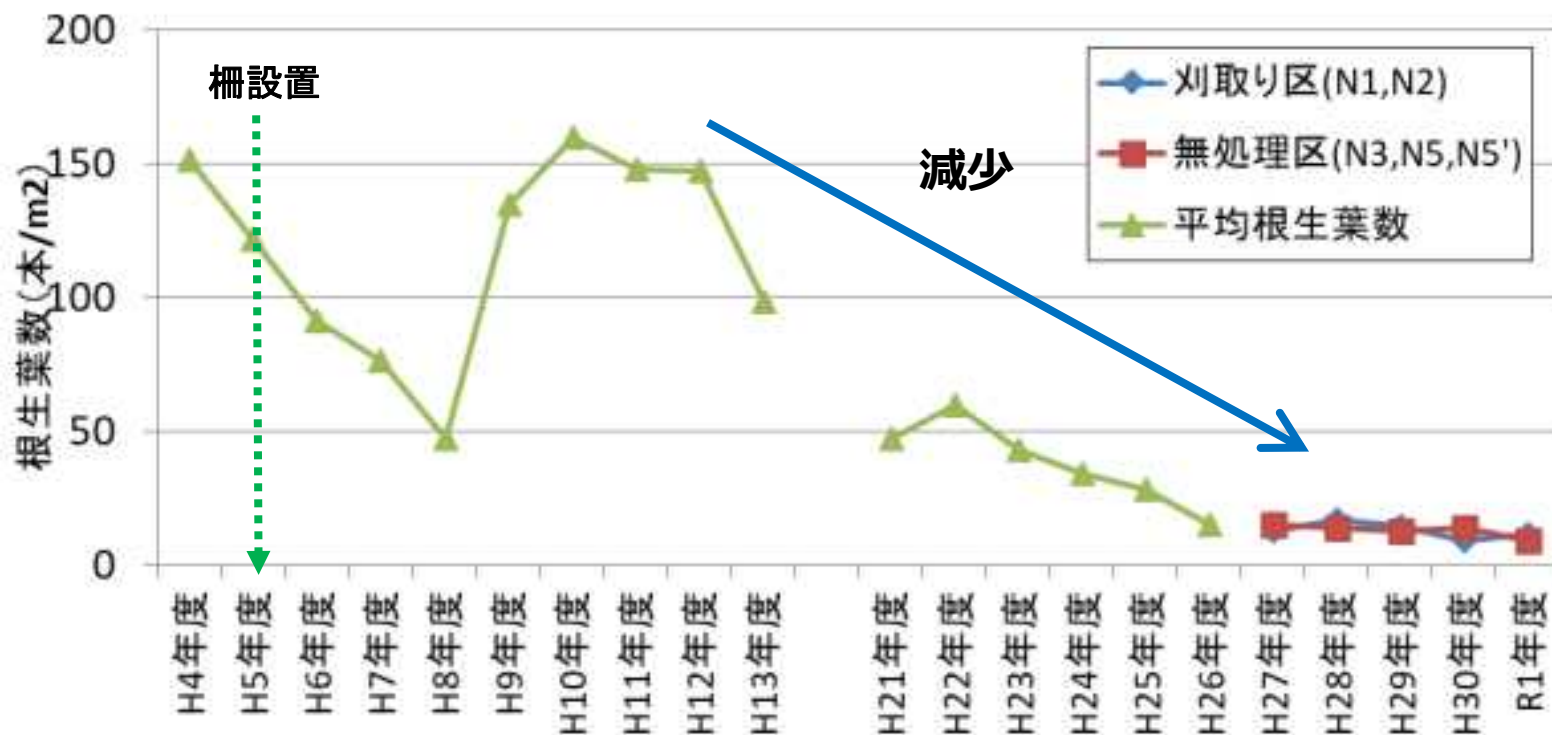


- 日光・足尾地域では、H29年度の下層植生衰退度調査（SDR）で千手ヶ原周辺と戦場ヶ原の南側でシカの影響が強くなっていることが分かっている。



- シラネアオイ：柵内でのみ見られ、柵外では確認なし（R1）。
- 根生葉（茎の基部についた葉）数：H10年度以降大きく減少し、その後回復傾向は見られない（柵内平均8.7本/4 m<sup>2</sup>）。

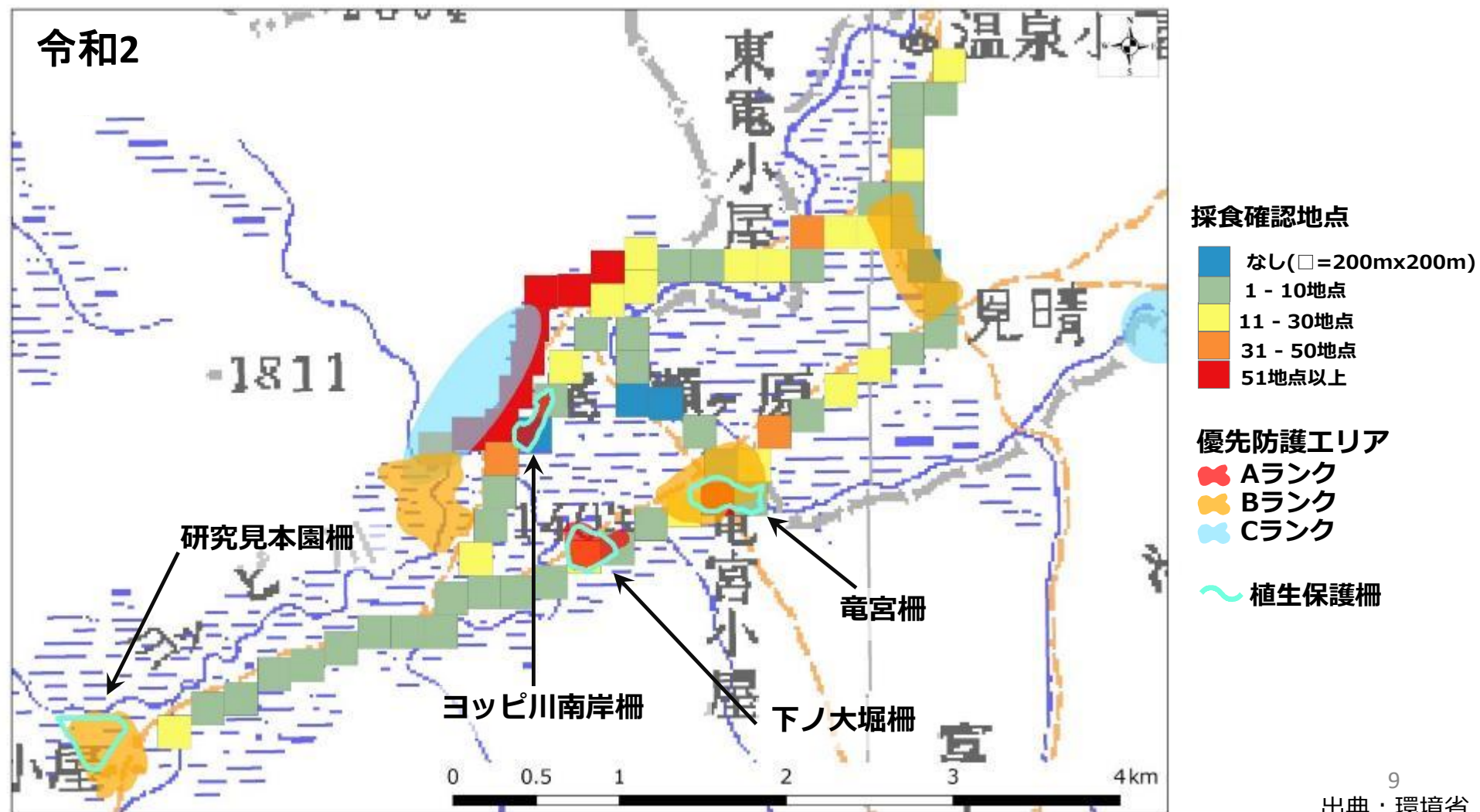
### 根生葉数の経年変化（柵内）





- ヨッピー川、竜宮周辺では採食確認地点が多く、H30年以降、継続して採食圧は高い
- R2年度は、御池田代・下ノ大堀・研究見本園・オヤマ沢田代に新規設置。

令和2

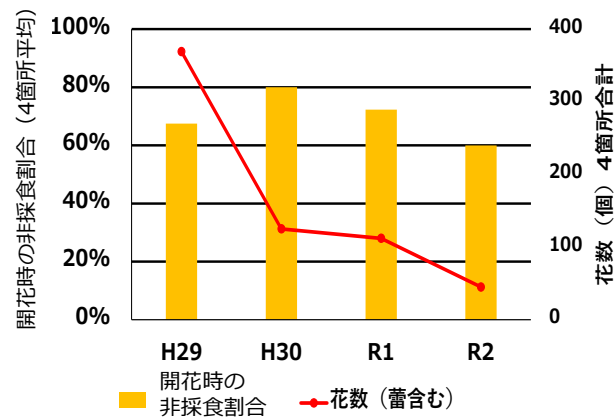




# 尾瀬ヶ原 植生保護柵設置の効果（ヨッピー川南岸）**湿原**

- 柵外では開花時の非採食割合、花数が低下。
- 柵内の花は採食されず、開花時の非採食割合は100%。花数が増加・回復。

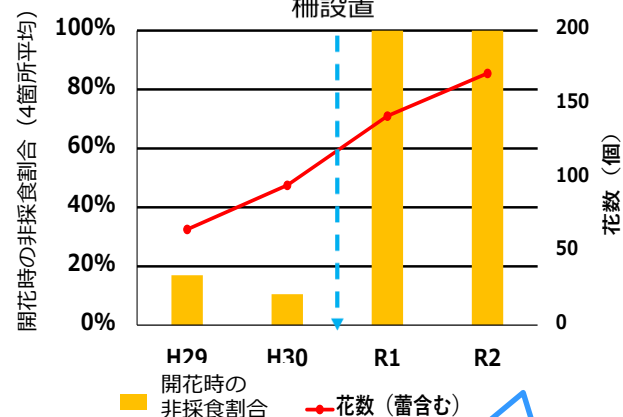
柵外調査区（4箇所）



柵外

柵内

柵内調査区（1箇所）  
柵設置



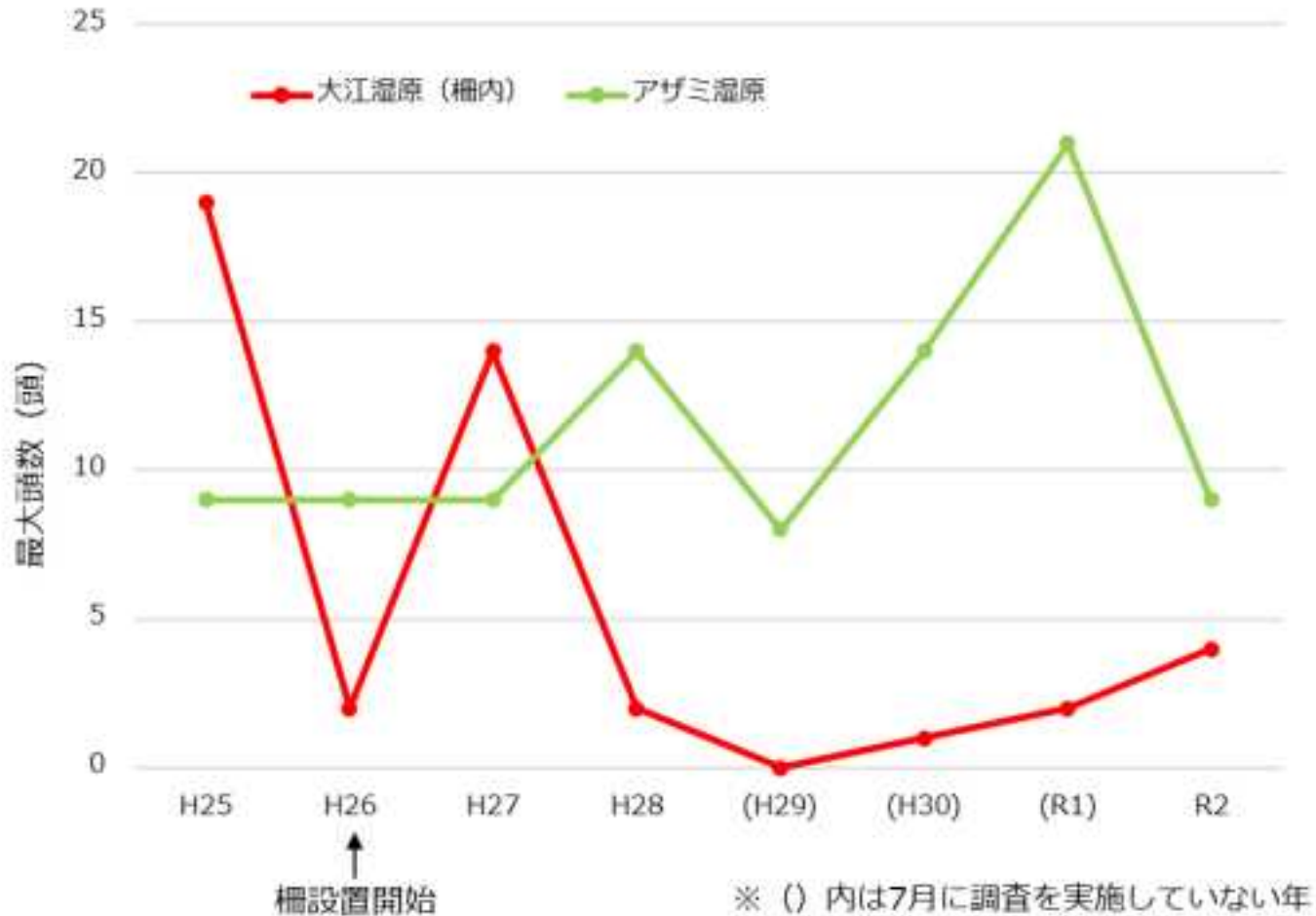
**花の採食なし  
開花時の非採食割合100%  
花数増加**





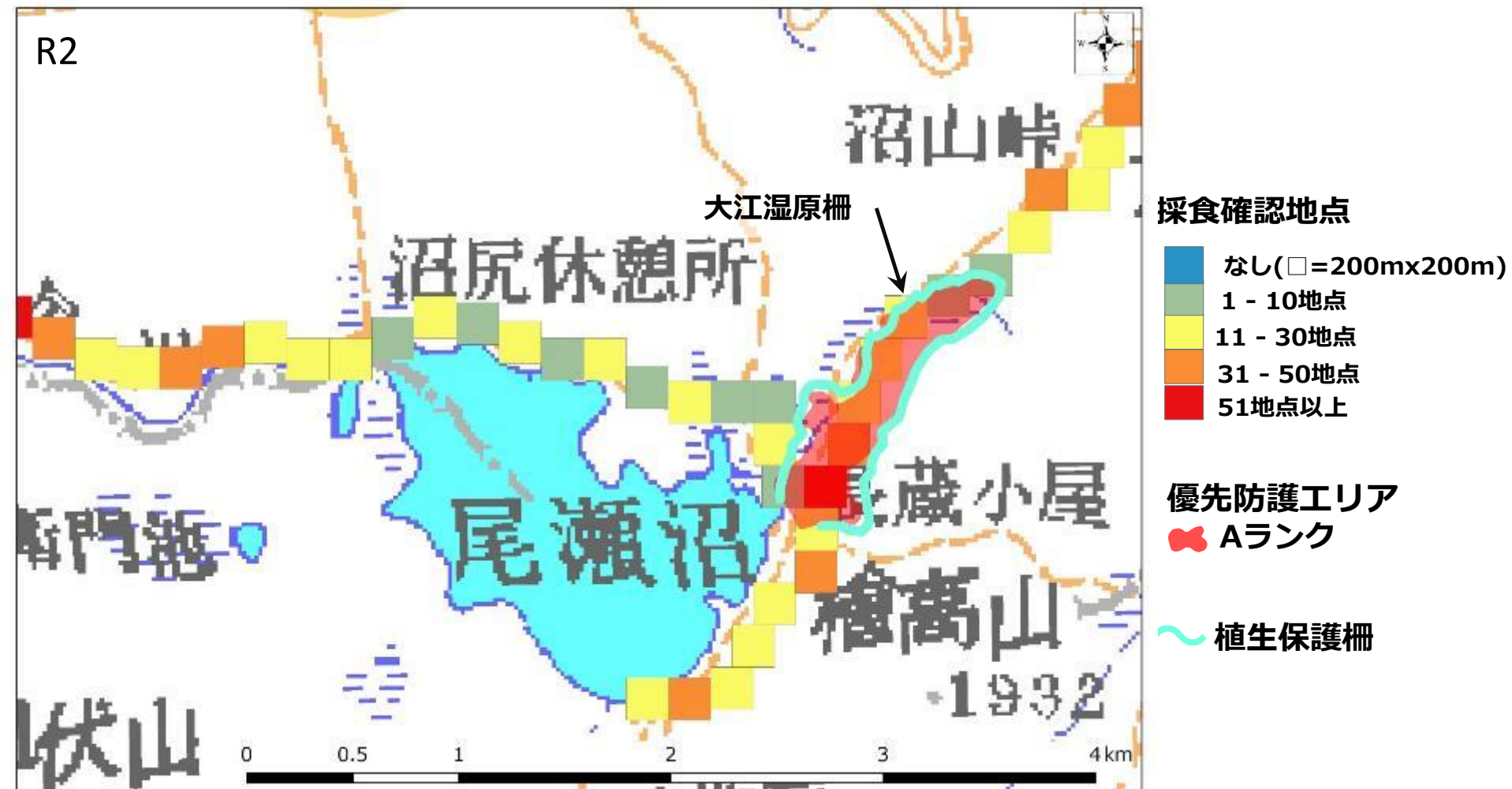
# 尾瀬沼 植生保護柵設置の効果（大江湿原） 湿原

- ライトセンサスの柵内外の比較では、H26年の防護柵設置後は柵内での確認は少ないものの、H30年以降、柵内での確認がやや増加傾向。





- 年により増減が見られるが、全体的に増加傾向。
- 大江湿原とその周辺で採食が多い。





- H26年度以降、食痕が増加、範囲の拡大が見られる。
- 近年は山頂付近で継続して採食が確認され、御池近辺の食痕が増加している。



### 採食確認地点

- なし(□=400mx400m)
- 1 - 5地点
- 6 - 10地点
- 11 - 15地点
- 16 - 20地点
- 21地点以上
- 調査ルート

### 優先防護エリア

- Aランク
- Bランク
- Cランク

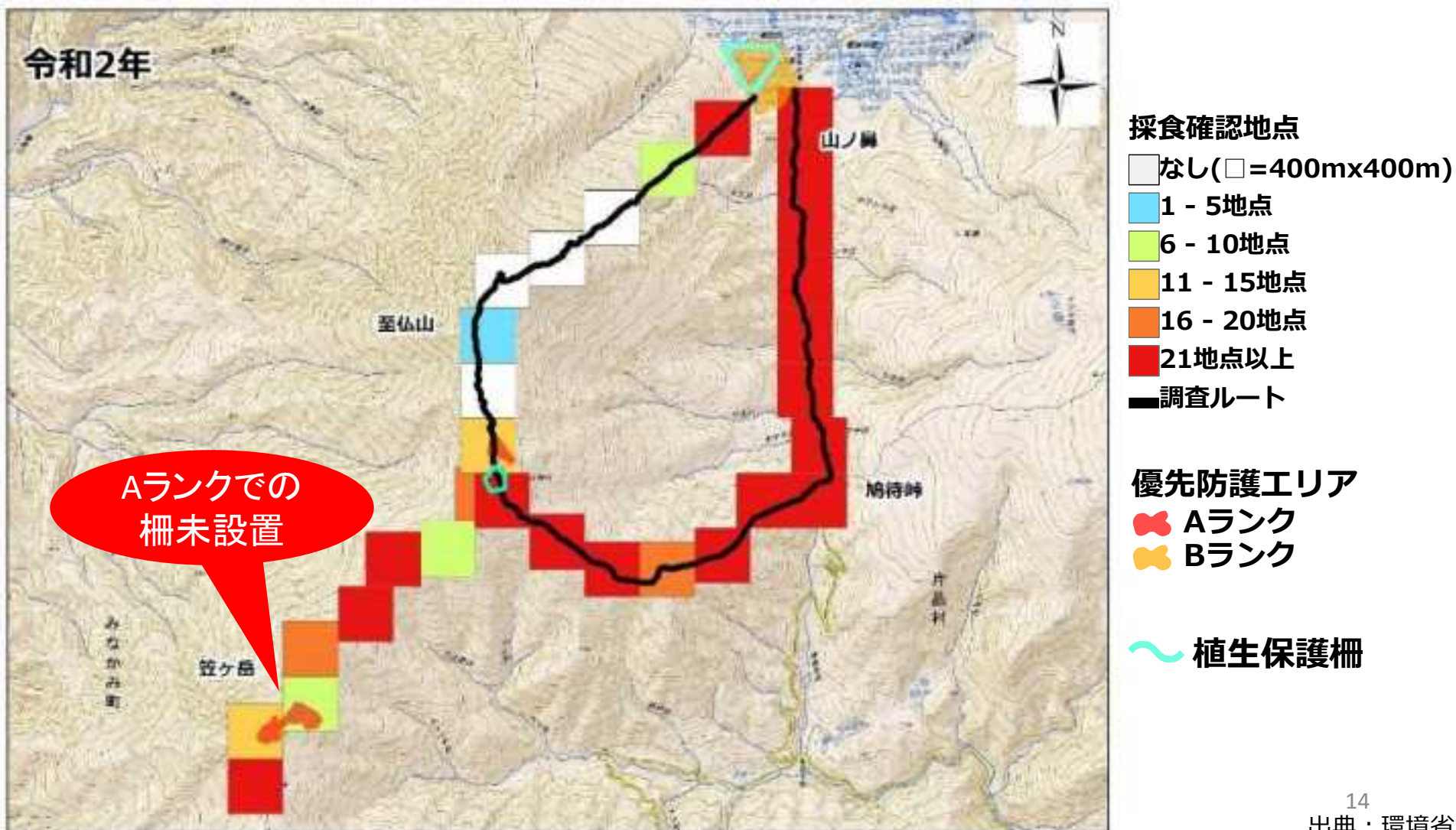
植生保護柵

Bランクでの  
柵未設置





- H24年度以降、食痕の増加・範囲の拡大が見られる。
- H30年以降は鳩待峠周辺で採食圧が著しく高い。



- 山頂や山頂周辺の雪田植生での被害はなし。
- 御池から大津岐峠の区間（会津駒ヶ岳西側エリア）では採食痕跡が多い。
- 大杉岳から駒の小屋区間に点在する雪田植生では、R1年より裸地の分布が拡大。



### 採食確認地点

- なし(□=400mx400m)
- 1 - 5地点
- 6 - 10地点
- 11 - 15地点
- 16 - 20地点
- 21地点以上
- 調査ルート

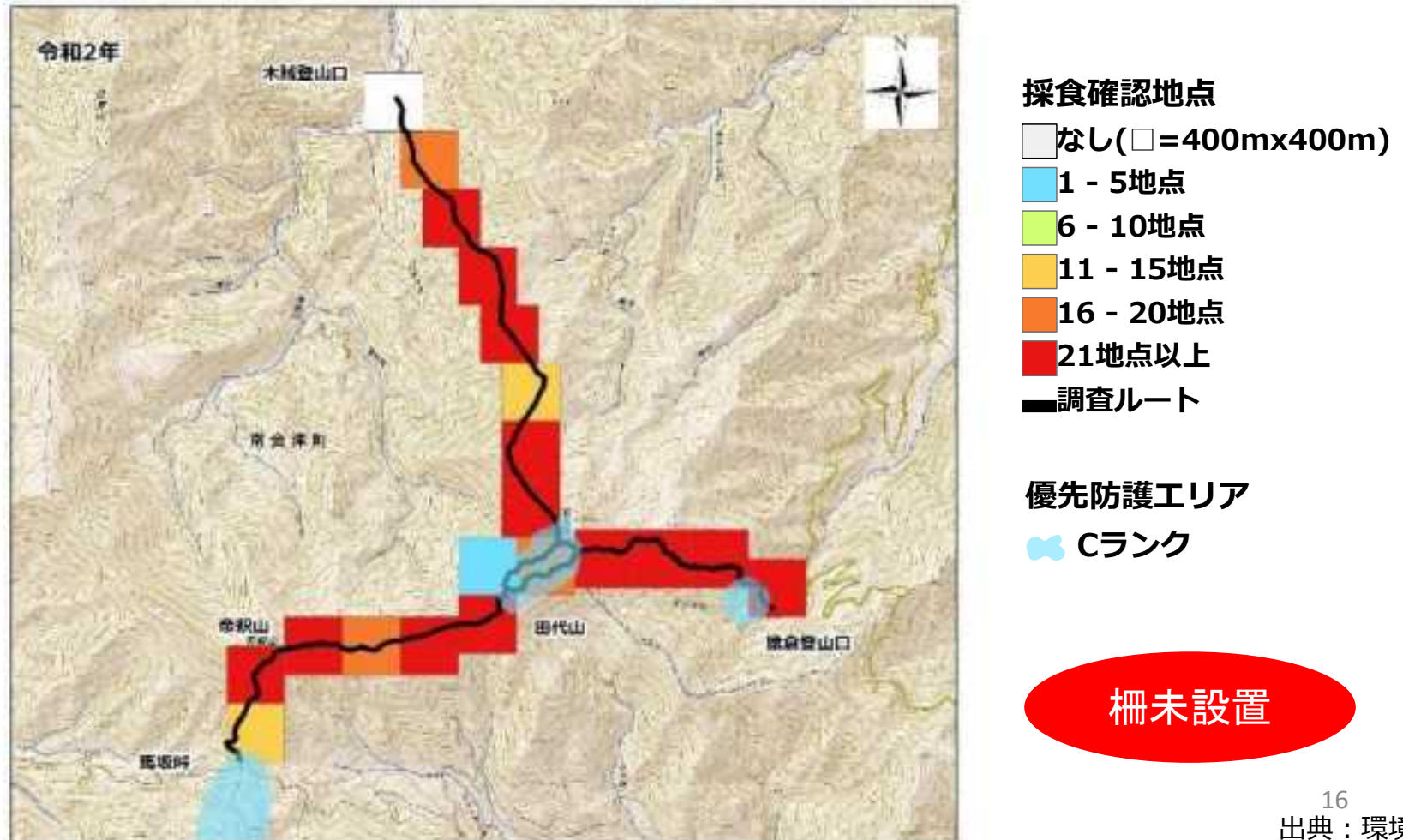
### 優先防護エリア

Cランク

植生保護柵



- 田代山周辺の登山道上は、断続的食痕が認められるようになり、食痕の増加、範囲の拡大が認められる。山頂湿原では、ニッコウキスゲが多く採食されている。
- オサバグサ群生地周辺においても食痕が多く、オサバグサへの直接的な採食が確認され始めている。



# 目次

1. 地域の概要
2. 植生被害と対策の効果
- 3. 捕獲とその効果**
4. 地域ごとのまとめ

# 対策エリア全体における生息状況

- 対策エリア内（対策範囲隣接地域を除く）の総捕獲数は増加傾向。
- 糞塊密度（群馬県・栃木県の平均値）は増減を繰り返している。



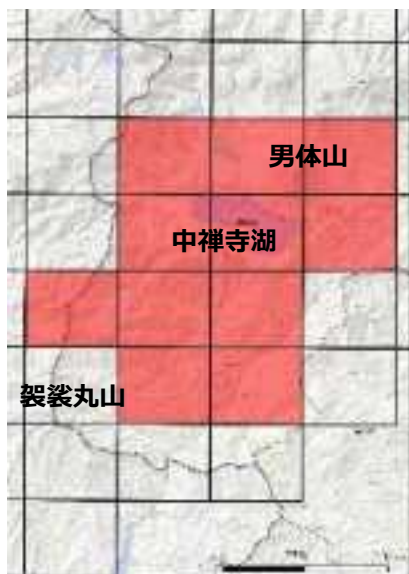




# 奥日光・足尾 (主たる越冬地)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 主たる越冬地での捕獲数（12～3月）は、H26年度をピークに減少傾向。
- 糞塊密度はR1年度まで増加傾向。



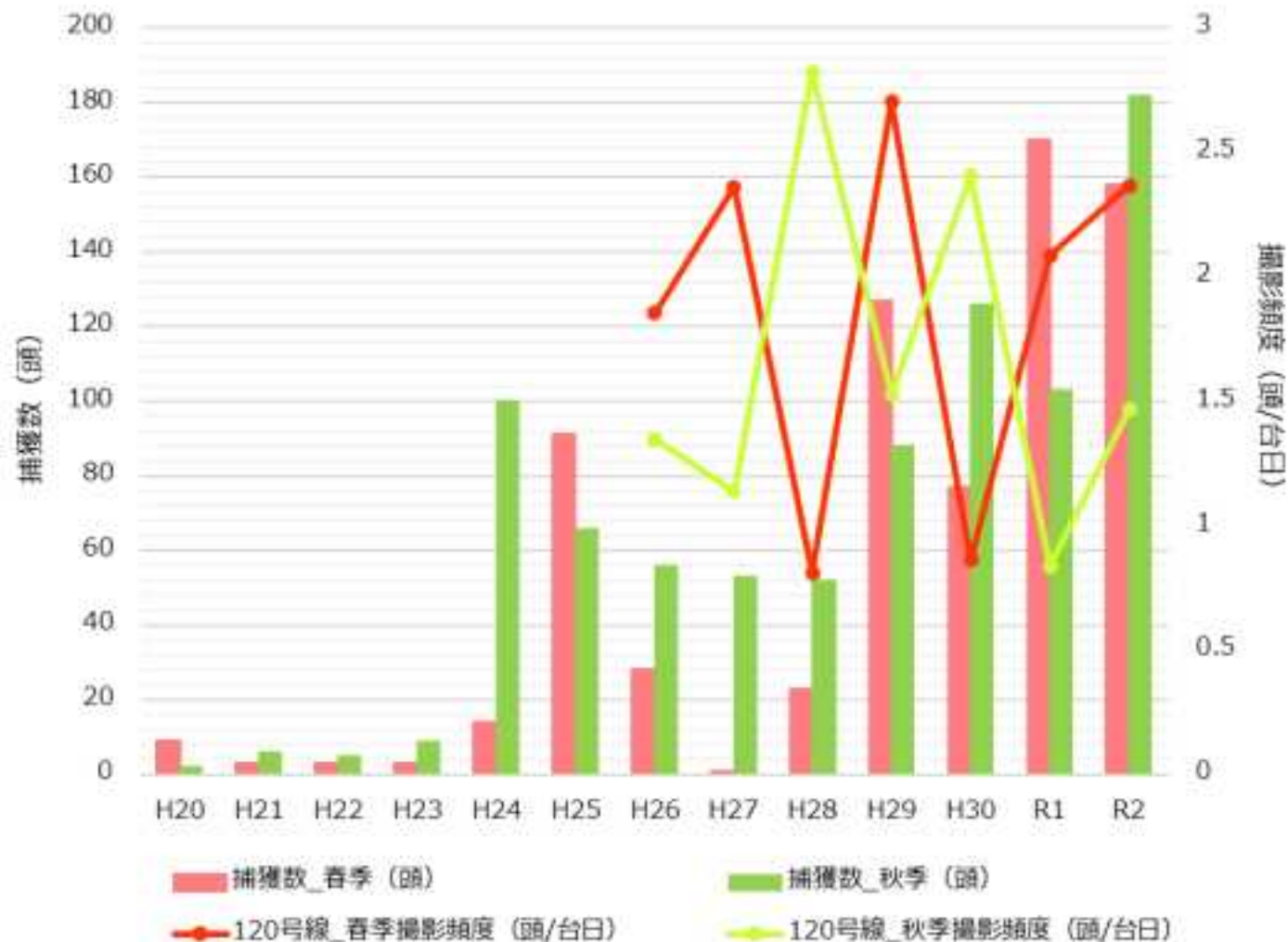
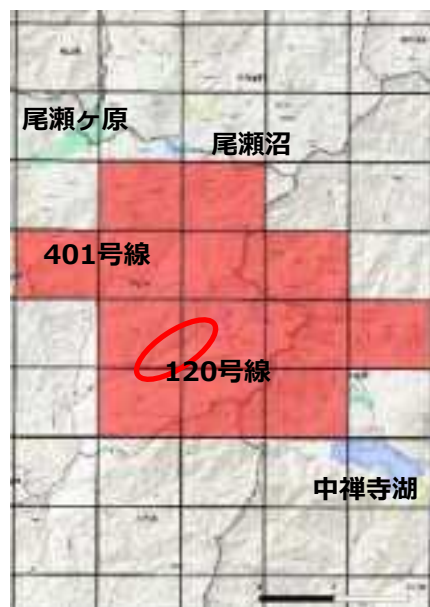
※捕獲数は、一部季節移動経路と重複。



# 片品・檜枝岐 (季節移動経路)

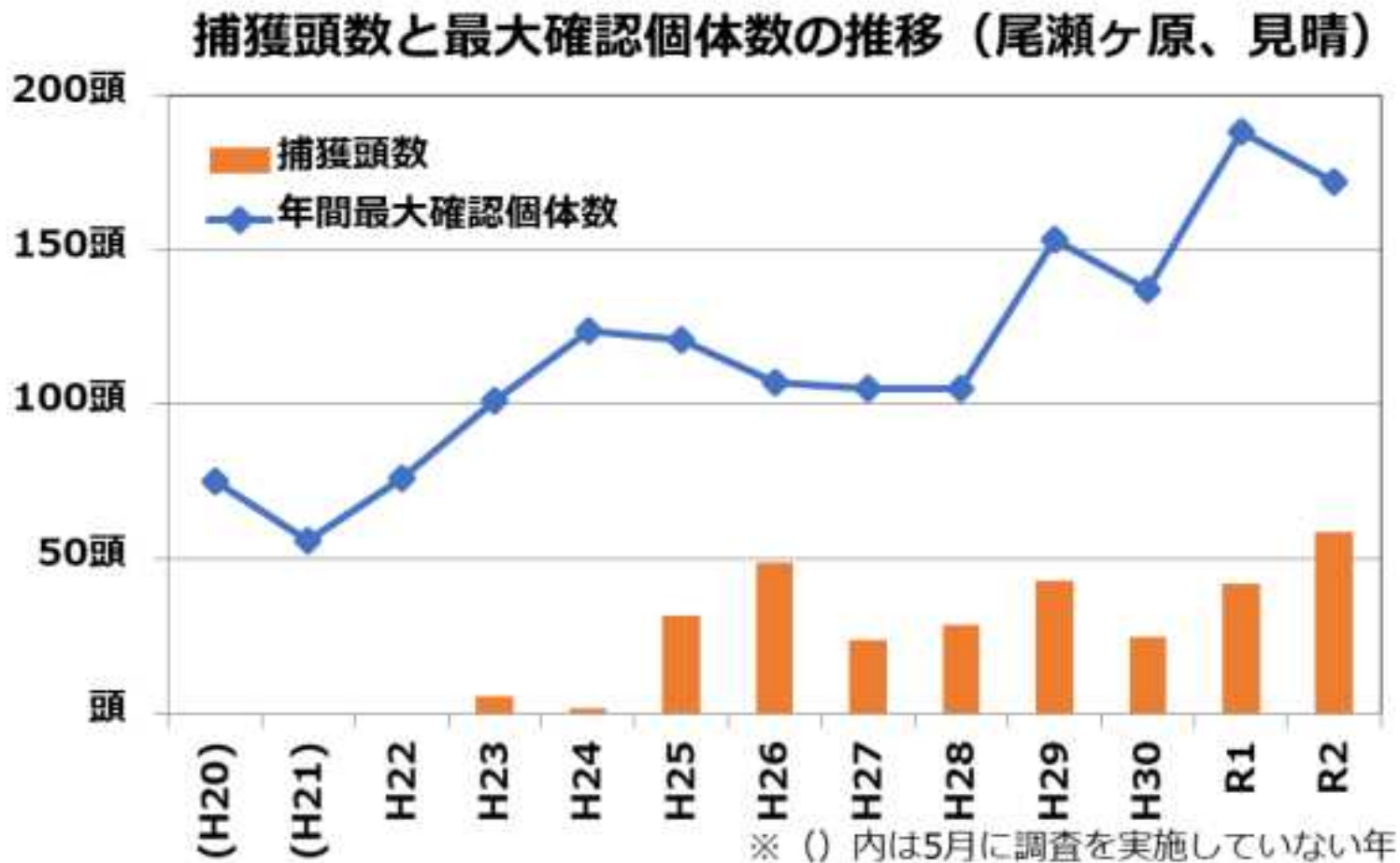
## 捕獲数と生息状況の推移

- 季節移動経路での捕獲数は春季（3～5月）、秋季（10～12月）ともに増加傾向。
- 撮影頻度は増減を繰り返している。





- 尾瀬ヶ原での捕獲数はH25年度以降増減を繰り返している。
- ライトセンサスの年間最大確認頭数は増加傾向。



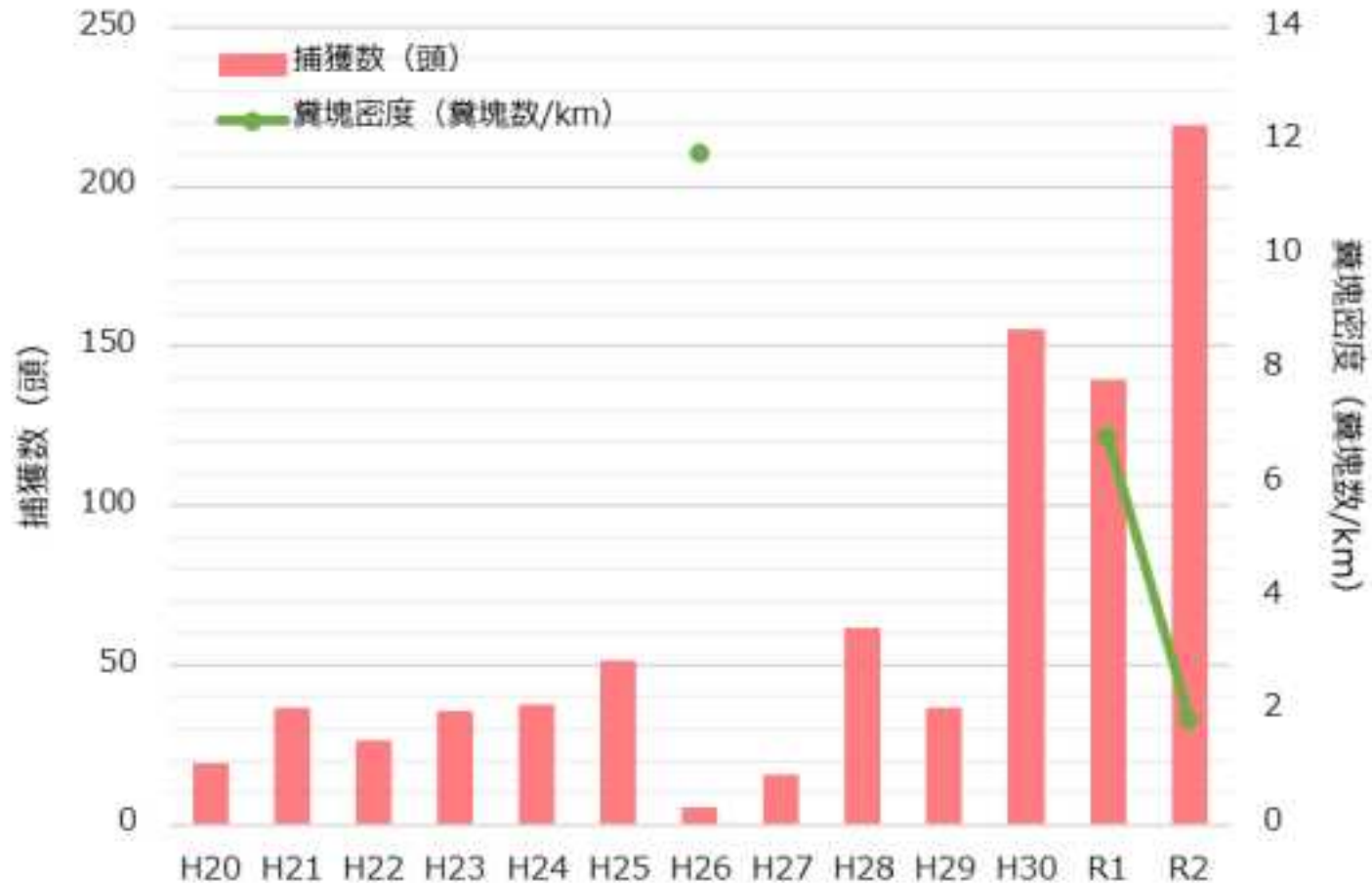
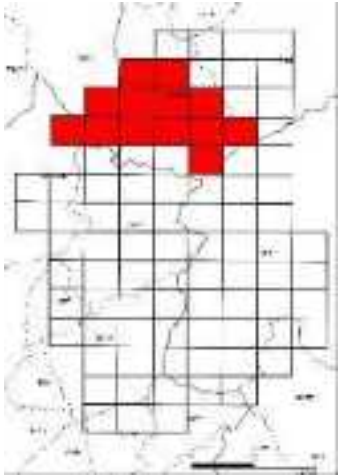


- 尾瀬沼での捕獲数は増加傾向。
- ライトセンサスの5～6月の最大確認頭数はH28年度以降やや増加傾向。



# 捕獲数と生息状況の推移

- 分布拡大地域での捕獲数は増加傾向。
- 糞塊密度は減少傾向。





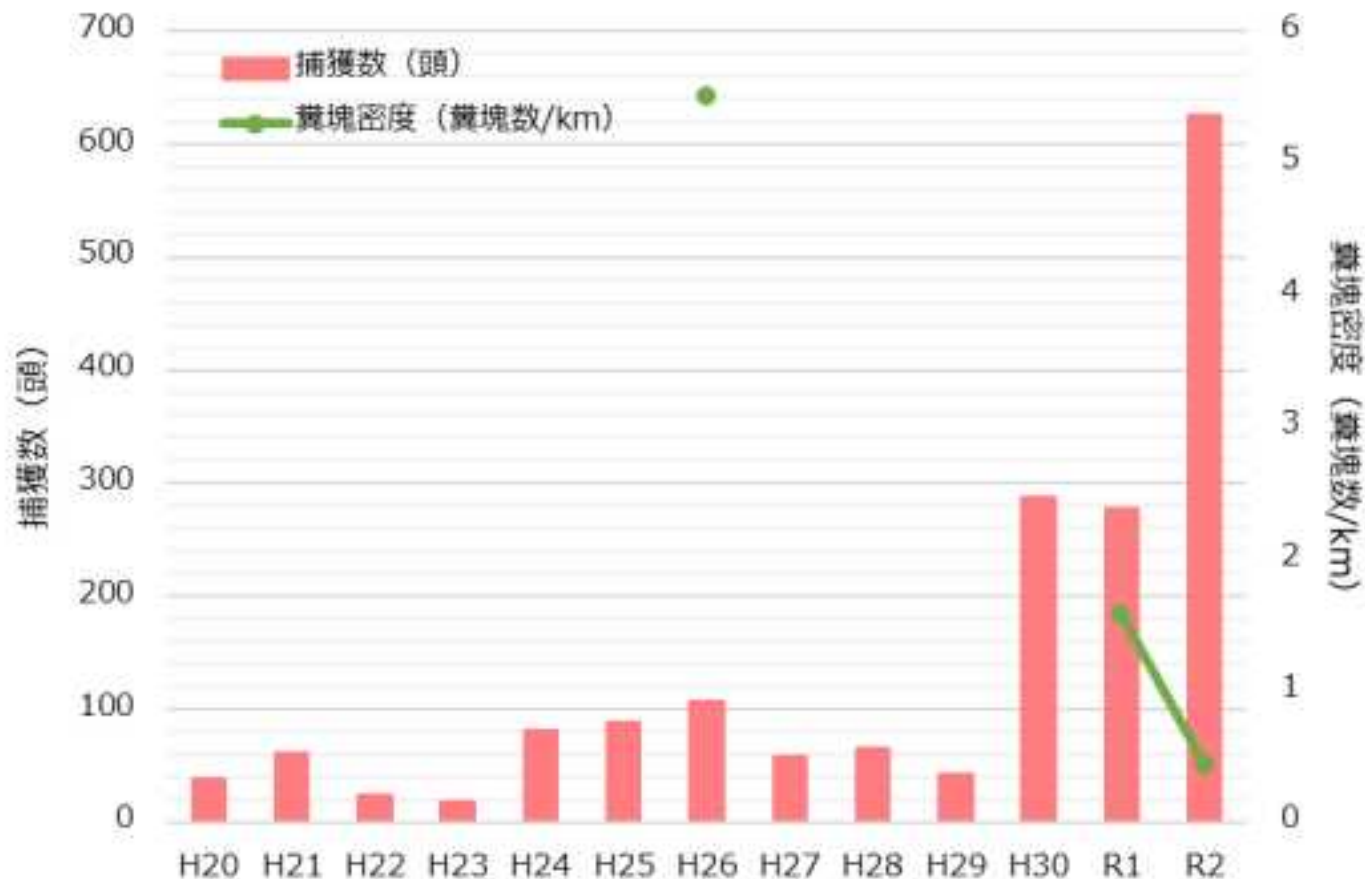
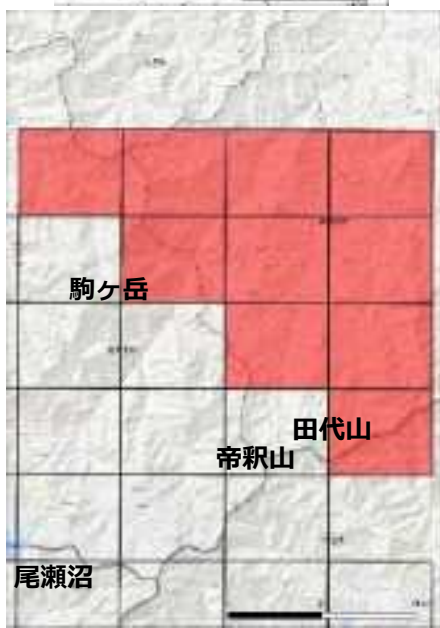




# 対策範囲隣接地域 (南会津地域)

## 捕獲数と生息状況の推移

- 対策範囲隣接地域での捕獲数は増加傾向。特にR2年度の捕獲数は多かった。
- 糞塊密度は減少傾向。



# 目次

1. 地域の概要
2. 植生被害と対策の効果
3. 捕獲とその効果
4. **地域ごとのまとめ**





# 考察

## 地域ごとのまとめ



### 現状・課題

### 対応案



#### 主たる 越冬地

- 足尾地域等の高標高域での調査や植生保護対策が不足している。

- 密度をモニタリングしながら捕獲を強化する。
- 植生保護対策の見直し。



#### 季節移動 経路

- 捕獲数増加のためか、密度指標の急増を食い止めている。

- 指定管理鳥獣捕獲等事業などを活用して、捕獲を強化する。



#### 尾瀬地域

- シカの密度指標や被害状況は増加傾向。
- 植生保護柵の設置が進んでいる。

- 捕獲範囲を拡大し、努力量も強化する。
- 効率的・効果的な柵の維持管理を推進する。



#### 分布拡大 地域

- シカによる顕著な食痕増加、範囲の拡大が見られる。
- シカの移動経路が不明。

- 優先防護エリア中で、設置する優先順位を検討する。

日光国立公園

日光地域生態系維持回復事業計画

令和 3 年 4 月 9 日

農林水産省 環境省 告示第 6 号

1. 生態系維持回復事業計画の名称

日光国立公園日光地域生態系維持回復事業

2. 生態系維持回復事業計画の策定者

農林水産省、環境省

3. 生態系維持回復事業計画の計画期間

令和3年3月5日から下記の目標が達成されるまでとする。

4. 生態系維持回復事業の目標

日光国立公園日光地域（以下、「日光地域」という。）は、栃木県日光市及び群馬県片品村にまたがり、日光国立公園の西部に位置し、尾瀬国立公園と接している。本公園最高峰の白根山をはじめ、男体山、女峰山など 2,000m を超える山々が連なり、針葉樹林やミズナラ林等の森林に覆われているほか、中禅寺湖、湯ノ湖等の湖沼、我が国を代表する名瀑である華厳ノ滝をはじめとした多数の瀑布、貴重な湿原植生が見られる戦場ヶ原、小田代原等の高層湿原等が相まって、特色のある傑出した景観を呈している。低山帯から高山帯までの間に、溪畔林やミズナラ・ハルニレの巨木林、ズミの林、高山性草地等の変化に富んだ美しい植生景観が見られる。また、湯ノ湖から戦場ヶ原・小田代原にかけては「奥日光の湿原」としてラムサール条約湿地に登録されており、オオジシギ、ノビタキ等の主に湿地帯に生息する鳥類の繁殖が確認されている。

日光地域には、古くからニホンジカが生息しており、定期的な大雪等の環境的要因によって、その生息数は一定に保たれていた。しかしながら、昭和 59 年の大雪でニホンジカが大量死したことを最後に、積雪量の減少等によって、ニホンジカの個体数が爆発的に増加した。これにより、シラネアオイをはじめとする希少な高山植物や湿原性植物が減少・消失するとともに、林床のササ類等の減少、森林の低木層の消失、樹木の実生の採食、樹皮剥ぎによる樹木の枯死等の森林植生への影響が生じた。

平成 13 年に、環境省が戦場ヶ原を囲む全長約 17km の防護柵（以下、「戦場ヶ原シカ進入防止柵」という。）を設置し、柵内に進入したニホンジカの捕獲等を継続的に実施している。この取組により、柵内の植生は回復傾向が見られているが、柵外のニホンジカの生息密度は依然として高い状況となっており、ニホンジカによる採食等によって、森林の下層植生が衰退している状況が継続している。また、日光地域に生息するニホンジカの一部は、春から秋にかけて隣接する尾瀬国立公園に季節移動し、尾瀬ヶ原及び尾瀬沼の湿原植生や燧ヶ岳及び至仏山等の高山植生にも影響を及ぼしている。

本事業では、尾瀬国立公園との広域連携を図りながら、関係機関が相互に連携・協力することにより、日光地域におけるニホンジカの生息密度を低減させ、適切な生息密度を保つことにより、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持することを目標とする。

## 5. 生態系維持回復事業を行う区域

日光国立公園日光地域全域

## 6. 生態系維持回復事業の内容

### (1) 生態系の状況の把握及び監視

日光地域の生態系を特徴づける植物の生育状況及び攪乱要因であるニホンジカの生息状況を把握するための調査を行い、その動向を定期的にモニタリングする。

#### ① ニホンジカによる植生影響の把握

ニホンジカによる植生への影響を把握するため、森林群落における下層植生衰退度調査、湿原及び高山における植生調査等を実施する。また、戦場ヶ原シカ進入防止柵内外における植生調査等を実施し、防護柵による植生の回復状況を把握する。

#### ② ニホンジカの生息状況の把握

ニホンジカの推定生息数、増減傾向、分布域、季節移動ルート及び越冬地を把握するため、ライトセンサス調査、自動撮影、発信器の装着による追跡調査等を行う。また、日光国立公園及び周辺地域におけるニホンジカの捕獲数等の毎年のデータを集計・分析する。

### (2) 生態系の維持又は回復に支障を及ぼすおそれのある動植物の防除

ニホンジカを現状より低密度にすることで、植生への影響を低減するため、銃器、くくりわな等によるニホンジカの捕獲を行う。日光地域においては、尾瀬地域との季節移動を繰り返す個体群と日光地域に定住する個体群が生息していることから、上記(1)の調査及びモニタリングの状況を踏まえ、それぞれの行動特性に応じて、捕獲適地及び適期を設定するなど、関係機関が連携して、効果的かつ効率的な捕獲を行う。

戦場ヶ原シカ進入防止柵については、森林及び湿原植生へのニホンジカによる影響が生じないよう適切な管理を継続し、植生の回復を図る。また、ニホンジカの採食圧から植生を保護し、回復させるため、上記(1)により把握した森林、湿原及び高山における植物の生育状況を踏まえ、必要に応じて、防護柵、樹木保護ネット等を設置し、適切に管理する。

なお、ニホンジカの捕獲、防護柵の設置等に当たっては、公園利用者の安全及び快適性の確保並びに植生及び他の動物への影響を最小限に留めることに努めるとともに、国立公園区域と隣接する近隣区域における対策と十分に連携を図り、効果的なものとなるよう適切に取り組むこととする。

(3) 動植物の生息環境又は生育環境の維持又は改善

ニホンジカによる攪乱後に植生の回復が見られない箇所については、上記(1)の調査・モニタリングの状況を踏まえ、効果的な生育環境の改善手法の検討や実証試験等を行う。

(4) 生態系の維持又は回復に資する普及啓発

当該生態系の保護の必要性、ニホンジカによる被害の状況、捕獲等の対策の必要性、本事業の実施状況等について、インターネットやパンフレット、ビジターセンターでの展示等を活用し、地域住民や公園利用者等に普及啓発を進め、本事業への理解と協力をはたらきかける。

(5) 前各号に掲げる事業に必要な調査等に関する事業

対策の効果を適正に評価するためのモニタリング手法や新たな防除手法の開発など、より効果的な事業実施に必要な調査研究、実証試験等を行う。

7. 生態系維持回復事業が適正かつ効果的に実施されるために必要な事項

(1) 生態系維持回復事業計画の評価及び見直しに関する事項

本事業計画については、5年を目途に事業の進捗状況について点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととする。

(2) 生態系維持回復事業の実施に関連する計画との連携に関する事項

本事業の実施に当たっては、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき栃木県及び群馬県が策定した「鳥獣保護管理事業計画」、「第二種特定鳥獣管理計画」及び「指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画」、鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律に基づき日光市及び片品村が策定した「鳥獣被害防止計画」等との整合を図る。

また、国有林野の管理経営に関する法律に基づき関東森林管理局が策定した「地域管理経営計画（鬼怒川森林計画区、利根上流森林計画区）」等との整合を図る。

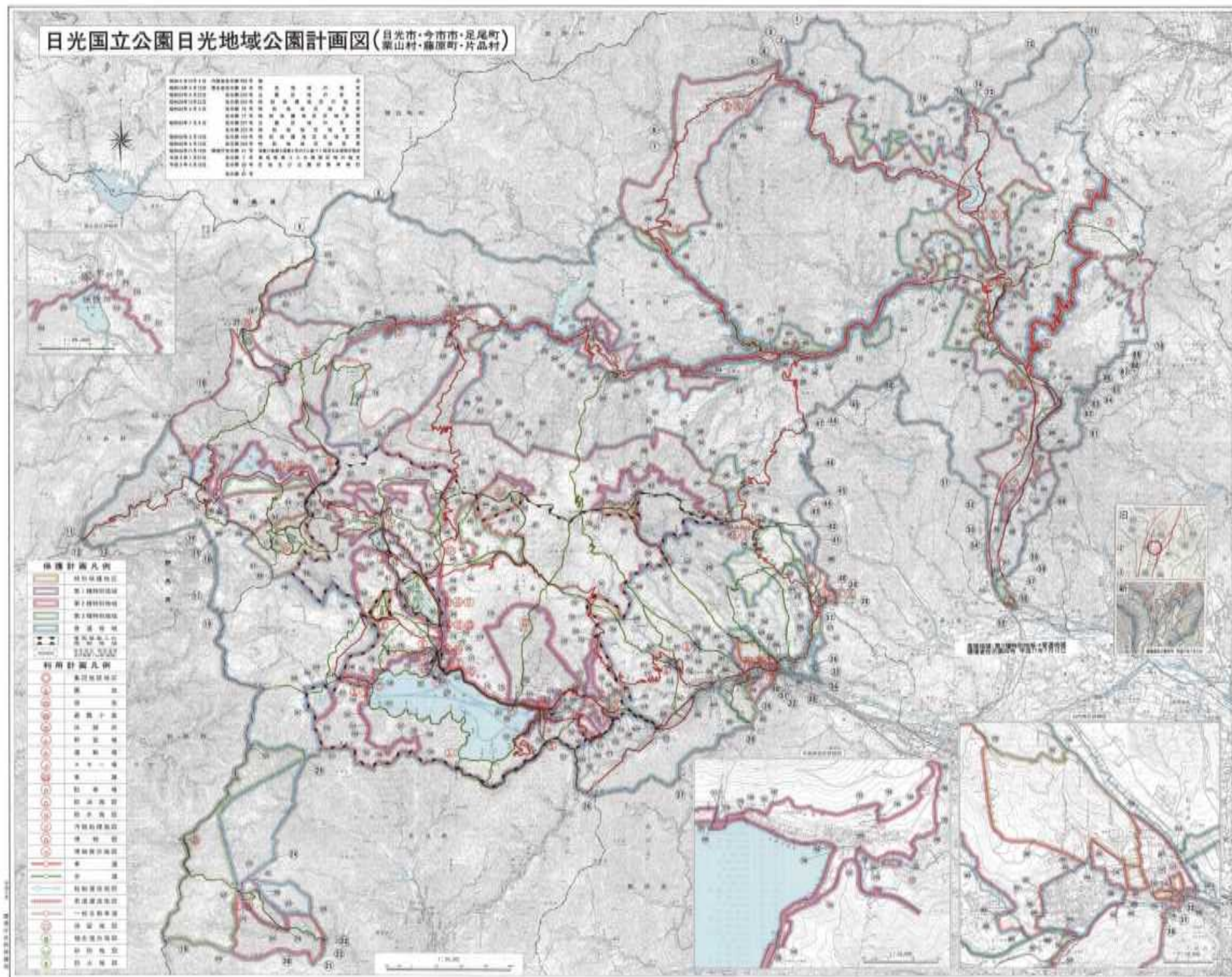
さらに、「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（令和2年1月尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会）」等との整合を図る。

(3) 生態系維持回復事業の実施体制に関する事項

関係行政機関、関係団体等は、本事業に係る情報を共有し、連絡調整を図るとともに、連携・協力して必要な事業を行うものとする。

また、本事業における監視や捕獲等の対策結果については、関係行政機関、関係団体等で構成された「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会」等において情報共有を図るとともに、専門家からの評価や助言を受け、随時事業へ反映することを検討する。



日光国立公園日光地域公園計画図(日光市・今市市・足尾町・  
栗山村・藤原町・片品村)







## 位置

## 植生保護柵の設置エリア



## (1) : 研究見本園

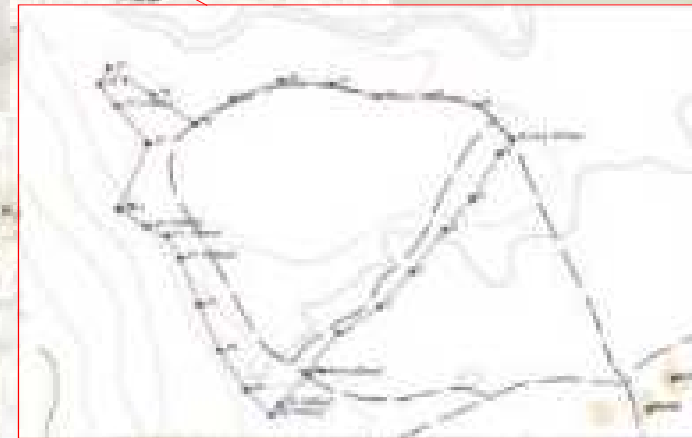
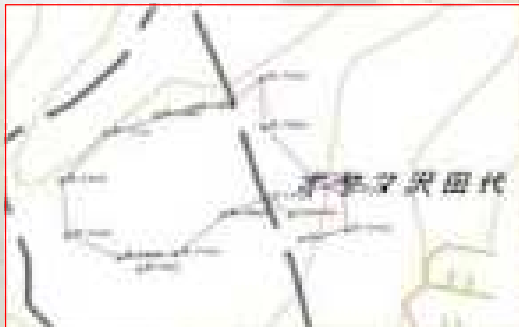
周囲：約1,124m  
面積：約61,286㎡  
標高：約1,450m  
設置開始：令和2年度から

## (3) : 背中アブリ

周囲：約100m  
面積：約625㎡  
標高：約1,450m  
設置開始：平成26年度から

## (2) : オヤマ沢田代

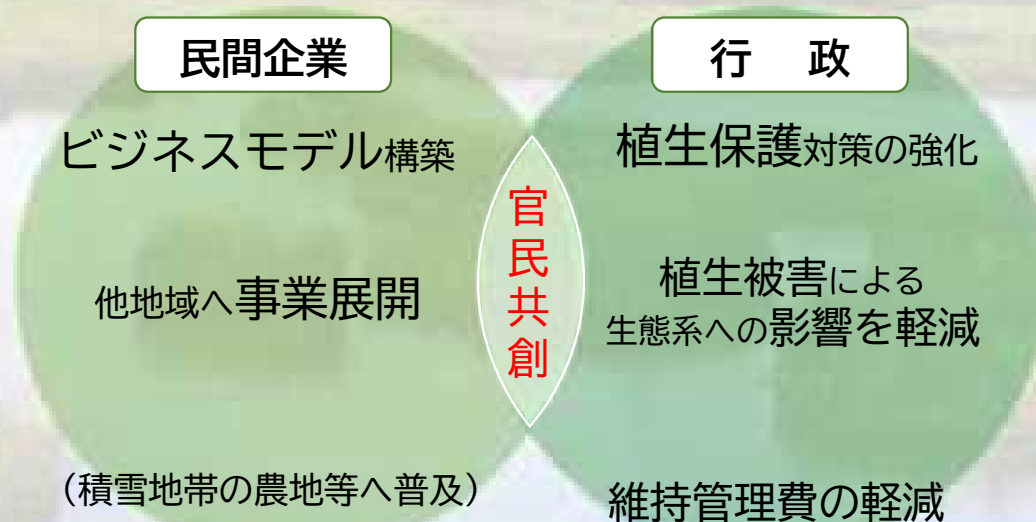
周囲：約305m  
面積：約4,409㎡  
標高：約2,043m  
設置開始：令和2年度から



# 官民共創による群馬県独自の植生保護柵の開発

## 官民共創により「櫓型支柱」を開発し、実証事業を実施

- ・ 資材保管場所の確保により維持管理費の軽減。
- ・ 地表が露出する前に資材を取り出せるため、シカ被害発生前に柵設置可能。雪上作業のため踏圧軽減。



【参考】令和元年度 シカによる農作物被害額 全国 約53億円(農林水産省公表数値)  
森林被害面積 全国 3,469ha(林野庁公表数値)



櫓型支柱の越冬前の様子

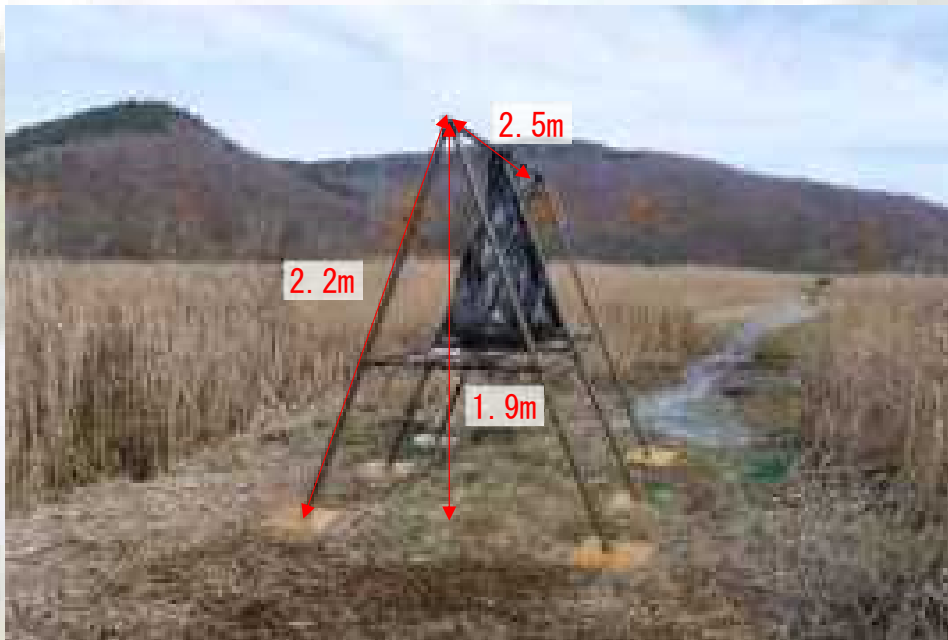


## 構造

# 植生保護柵の基本的な構造

### <櫓型支柱の構造>

- 通年設置。
- 支柱の根元には、木製のフロートの中心に支柱を通し、湿原内に約50cm差し込んで固定。



プラスチックコーティングスチールパイプ  
塗装色：こげ茶（**景観に配慮**）  
規格：φ42mm×2.7m



木製のフロート  
コンパネ：40cm四方×厚さ  
24mm（12mm2枚重ね）

### <ネット等の構造>

- 地上部は約2m、地表部は50cm前後で敷設。
- ネット上下端にロープを通し収納。ネット下裾のロープをプラスチックペグで固定。



イザナスネット（繊維強化）  
色：黒（**景観に配慮**）  
目合い：10cm以下  
サイズ：約2.5m以上×約50m



プラスチック  
製ペグ  
長さ：約40cm

コンボーズパイプ  
塗装色：黒  
規格：φ約33mm×2.7m



## 構造

# 植生保護柵の年間サイクル

冬:越冬



11月～4月: 格納した状態で越冬

春:再設置



5月: 融雪後間もなく再設置

秋:格納



10月末: ネットやパイプ等を櫓内に格納



年間通じてモニタリング

夏:維持管理



6月～10月: 定期的に巡視



柵外でセンサーカメラに撮影された二ホンジカ



群馬県

## 効果

# 植生保護柵の効果（モニタリング中）

- ・ 植生保護柵によりニホンジカの侵入を防止することで植生回復を目指す。



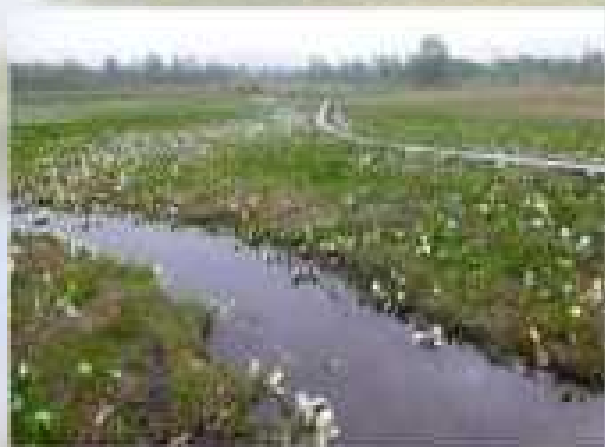
H24.5.27日研究見本園（シカによりヌタ場形成）



侵入防止



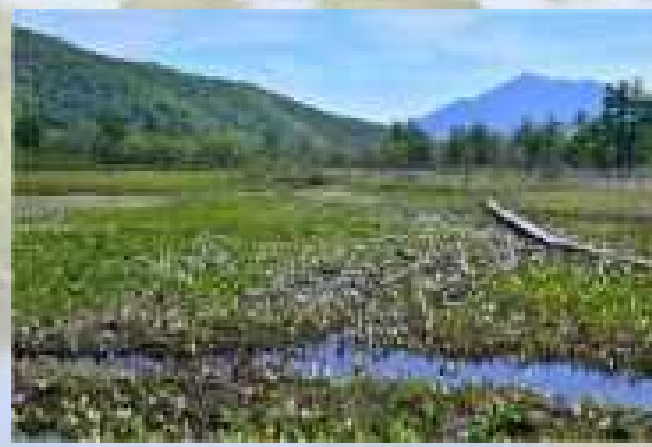
R3.5.11研究見本園（シカ侵入前に柵を設置）



R2.6.7研究見本園の水芭蕉



植生回復



R3.6.3研究見本園の水芭蕉（尾瀬保護財団ブログ引用）

## 櫓型支柱の越冬による損傷

- ・ 1シーズン越冬した「櫓型支柱」は、風雪等の影響によりパイプの変形、ジョイントの離脱が確認された。耐雪性に課題が残る。

▷令和3年6月29日に群馬県庁NETUGENN官民共創ピッチにより、より持続可能な植生保護柵の開発について民間企業等からアイデアを募集。今年度中に既存櫓型支柱の一部を改良予定。



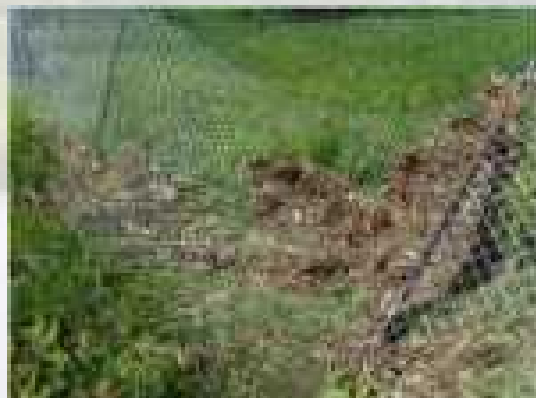
R3.6.30上毛新聞





## 植生保護柵の維持管理

- ・ 定期的な巡視を行っており、異常を確認した際は随時修復している。主な異常は次のとおり。



R3.8増水の影響によりネットに枯草が滞留



R1.5シカの絡まり



R3.8クマやシカによりネット降下



R3.8クマによりカメラ倒壊、支柱破損

- ・ これらの異常によりR2に設置した植生保護柵内への二ホンジカの侵入は確認されていない。
- ・ 時期により巡視頻度や方法の見直しなどの検討が必要。



## 植生保護柵への野生動物絡まり

- ・令和3年5月14日、植生保護柵（山ノ鼻研究見本園）のネットにニホンジカ（オス）の絡まりを確認。
- ・本事例は、自力にてネットより脱出したが、今後も同様の事例が予見される。

▷そのため、以下の対応を実施中。

- ・放獣手続きについて許認可協議。絡まった場合の対応方針や連絡網の作成。



R3.5再設置した柵に絡まったニホンジカ（オス）



## 植生保護柵のゲート開閉

- ・ 植生保護柵内への二ホンジカの侵入を防止するため、ゲートにカラビナを設置。
- ・ しかし、開閉が困難なためか、閉め忘れやカラビナが損壊する事例が散見。

▷カラビナを廃止し、新たな開閉機構を開発し導入。



R2 閉め忘れ



R2 カラビナ損壊



R3.6.7  
新開閉機構導入

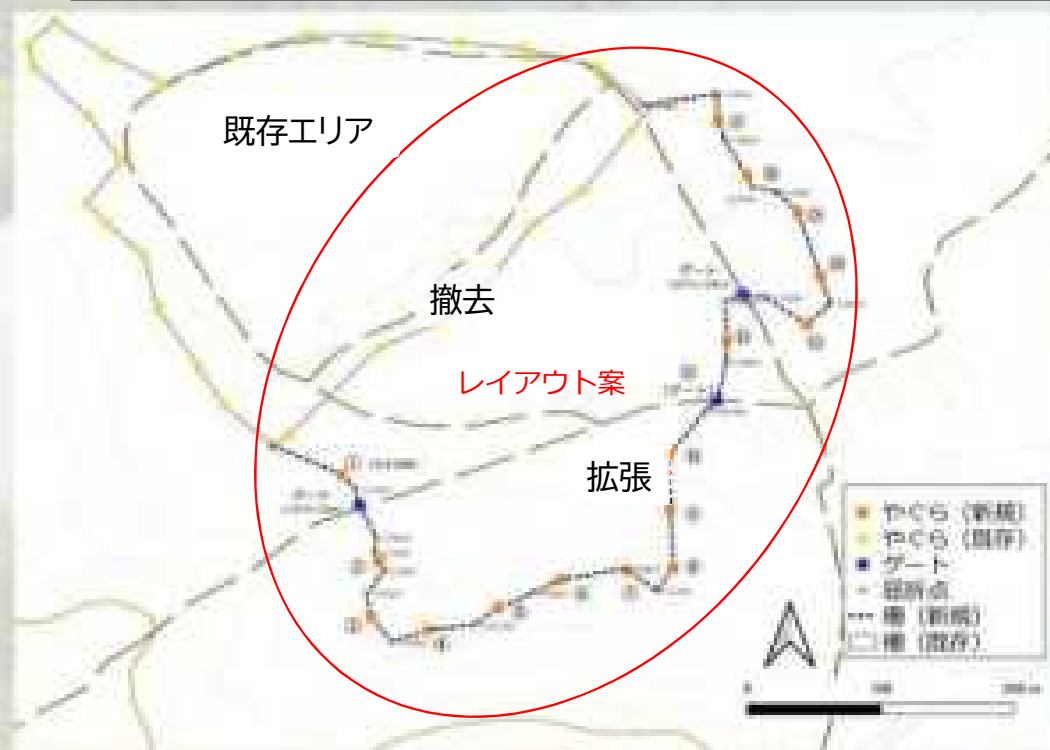


今後

## 令和3年度の植生保護柵拡張予定

- ・令和2年度の試験設置した植生保護柵によりその有効性が確認されたため、研究見本園内の植生保護柵を拡張予定。

- ▷改良型の櫓型支柱を複数機導入。
- ▷景観に配慮し、可能な限り林内に植生保護柵を配置。



R3.8事前踏査の様子 尾瀬保護専門委員により貴重な植生状況を確認





## 背景

二ホンジカの増加・分布域の拡大 × 日光と尾瀬を広域的に移動する個体群の存在



関係機関・団体が広域的に連携して、個体群の管理や各種対策を実施する必要

## 現状と課題

### ■尾瀬ヶ原・尾瀬沼

シカの確認数や被害状況が増加傾向

- 生息密度減少のための捕獲強化
- 植生保護柵の迅速な設置

### ■移動経路上

最も捕獲効率が高いが、捕獲の期間・場所に空白

- 特に春の捕獲強化  
(指定管理鳥獣捕獲等事業を活用)

### ■越冬地

標高の高い越冬地での捕獲不足

- 高標高域越冬地での捕獲強化  
(足尾地域など)

### ■分布拡大域（会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山）

食痕増加・範囲拡大、高山域での捕獲が困難

- モニタリング調査による捕獲適地検討
- 状況を見つつ植生保護柵の検討

## 日光国立公園

シカの生息条件下で成立した生態系

## 尾瀬国立公園

シカによる影響を受けずに成立した生態系

## 最終目標 (ゴール)

シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持

尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持

## 事業目標 (5年目標)

- 植生への影響を低減するため、シカの生息密度を現状より低密度に
- 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、防護柵を適切に設置・維持管理

- 湿原植生への影響を低減するため、指標に基づき、尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減
- 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置

## 捕 獲

### (1) 共通事項

- ・効果的・効率的な捕獲、利用者等の安全対策、自然環境への配慮、捕獲個体の処理、捕獲の実施主体、関連法令等の遵守

### (2) 奥日光・足尾周辺地域

- ・定住型個体(通年)及び移動型個体(晩秋～冬)の捕獲
- ・足尾地域高標高域での捕獲検討
- ・捕獲適地や適期の検討のための情報収集

### (3) 片品・檜枝岐地域(移動型個体の移動経路上)

- ・集中通過地域での効率的・効果的な捕獲
- ・関係機関で連携した効率的・効果的な捕獲
- ・定住型個体の通年捕獲（有害・管理捕獲）

### (4) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼地域

- ・春から晩秋にかけての移動型個体の捕獲

### (5) 会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山周辺地域

- ・生息状況調査の結果に基づき捕獲
- ・捕獲を効果的に実行するための体制整備

## 実施方針

## 植生保護

### (1) 日光国立公園

- ・既存防護柵の維持管理、植生の回復、保全対象種の衰退防止
- ・防護柵の効果検証
- ・防護柵の設置検討(鬼怒沼、女峰山、太郎山)

### (2) 尾瀬国立公園

- ・優先防護エリアのA及びBランク区域への5年以内の防護柵の設置
- ・防護柵の効果検証

## モニタリング

### (1) モニタリング

- ・①生息状況の把握、②植生影響の把握、③対策の効果検証の3つの観点から実施
- ・モニタリングの継続、事業目標の達成に向けた進捗の把握によりPDCAサイクルを回転
- ・データの収集・蓄積が効率的に行える手法、共通様式の導入

### (2) 調査研究

- ・移動型個体群を含むシカの動態や植生への影響等に関する調査研究の推進

# 令和3年度 実施計画

## 1. 現状と課題

- 日光・尾瀬地域とも、シカ生息密度は引き続き高い水準にあり、捕獲困難地域での捕獲の強化が必要。
- 日光地域では、近年GPS追跡調査が行われておらず、詳細なシカ動態が不明。
- 尾瀬地域では、優先防護エリア（特にA・Bランク）への防護柵の設置を進めているが、笠ヶ岳、燧ヶ岳、竜宮、泉水田代、見晴地区への設置が完了していない。
- シカ生息密度調査や捕獲関連データの調査状況や記録様式の一部が地域によって異なっている。

## 2. 重点方針

### 日光国立公園

- 湯元周辺、丸沼菅沼鳥獣保護区、足尾など高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続。
- 夏季の定住個体を対象とした捕獲の強化。さらに効率的な捕獲手法への改善。
- GPS追跡調査による定住個体の行動特性の把握と管理方針の検討。
- 防護柵の設置が必要な具体的エリアの検討。

### 尾瀬国立公園

- 優先防護エリア（特にA・Bランクの湿原、高山帯）への防護柵の設置・継続。
- 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続（雪解けのタイミングに合わせた捕獲の前倒し、新潟県域での捕獲の実施など）。
- 移動経路上での捕獲の強化・継続（移動経路遮断柵の活用、捕獲適期、適地の精査など）。
- 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺でのシカの生息状況の把握。

### その他共通事項

- 捕獲関連データの記録様式の統一化。
- 効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法に関する検討・情報共有。
- センサーカメラなどモニタリング方法・解析方法の統一化。

### 3. 関係機関の取組

資料2-2

#### (1) 捕獲

地域	実施場所	実施主体	手法	制度	R1 年度	R2 年度	R3 目標	本年度からの変更点・課題等（※は補足説明）
栃木県	戦場ヶ原柵内及び周辺	関東地方環境事務所	くくり罠	個体数調整	7頭	34頭	50頭	R3より囲いわなを併用予定
	奥日光	関東地方環境事務所	くくり罠	指定管理	—	16頭	50頭	
	奥日光（千手・菖蒲林道・丸山地区）	日光森林管理署	くくり罠	有害	—	39頭	実施予定	（委託）
	日光（野州原地区）	日光森林管理署	くくり罠	有害	—	—	実施予定	（委託）
	足尾（足尾町湖南国有林）	日光森林管理署	くくり罠・囲い罠	有害	6頭	0頭	実施予定	（直営）R2は囲いわなのみ実施（センサーの不調により終了）
	柳沢林道	日光森林管理署	くくり罠	有害	8頭	12頭	実施予定	（直営）
	白根山（五色沼周辺）	栃木県（林業センター）	くくり罠	有害	実施せず	実施せず	未定	
	千手ヶ原	栃木県（林業センター）	くくり罠	有害	17頭	0頭	50頭	
	奥日光（男体山、社山）	栃木県	銃器	指定管理	150頭	13頭 (12月末時点)	90頭	
	栃木県（対策対象範囲内）	栃木県登録狩猟者	くくり罠・銃器・箱罠	狩猟	1,258頭	実施中	実施予定	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。
	足尾（仁田元沢、久蔵沢、安蘇沢）	日光市	銃器	有害	29頭	—	100頭	R2は新型コロナの影響により中止
	三岳	日光市	銃器	有害	8頭	—	30頭	R2は新型コロナの影響により中止
	男体山南斜面	日光市	銃器	有害	31頭	—	100頭	R2は新型コロナの影響により中止
	市道1002号沿線	日光地域シカ対策共同体	銃器（モバイルカリング）	個体数調整	実施せず	実施せず	未定	
群馬県	沼田市・利根町・昭和村	利根沼田森林管理署	くくり罠	有害	29頭	28頭	実施予定	※対象区域内における捕獲数。沼田市・利根町・昭和村全域では、R1:60頭、R2:69頭の捕獲。
	国道401号・120号	群馬県	くくり罠・銃器	指定管理	237頭	192頭 (11月時点)	155頭	・尾瀬に隣接し、季節移動経路上にある「丸沼菅沼鳥獣保護区」を捕獲区域に追加し実施中。 ・捕獲をより一層推進するため、奥鬼怒林道に設置された移動遮断柵を活用した捕獲を試行。
	片品村	群馬県登録狩猟者	くくり罠・銃器	狩猟	528頭	実施中	実施予定	※狩猟は任意なので、目標頭数は設定していない。
	片品村	片品村	くくり罠・銃器	有害	238頭	251頭	300頭	
尾瀬ヶ原・尾瀬沼	尾瀬ヶ原	関東地方環境事務所	くくり罠・銃器	指定管理	42頭	59頭	65頭	R3は捕獲努力量を増加予定。
	尾瀬沼	関東地方環境事務所	くくり罠・銃器	指定管理	10頭	18頭	25頭	R3は捕獲努力量を増加予定。
	大江湿原	関東地方環境事務所	くくり罠	指定管理	7頭	13頭	20頭	
福島県	南会津地方（尾瀬地域）	福島県	くくり罠・銃器	指定管理	136頭	108頭	実施予定	
	南会津地方（尾瀬地域）	福島県登録狩猟者	くくり罠・銃器	狩猟	0頭	実施中	実施予定	
	南会津町全域	南会津町	くくり罠・銃器	有害	0頭	実施中	実施予定	R1:対象区域内0頭、南会津町全域110頭 R2:12/23時点で対象区域内0頭、南会津町全域140頭

※赤字は、R3年度に目標捕獲頭数が増加しているもの。

## (2) 植生保護

地域	実施場所	実施主体	柵の種類	規模 (周囲長、面積)	開始 年度	R2 年度	R3 年度	本年度からの変更点・課題等
日光	戦場ヶ原	関東地方環境事務所	ネット柵	16,961m、980ha	H13			
	白根山シラネアオイ群生地	栃木県	電気柵	905m、1.6ha	H5			
	白根山シラネアオイ群生地等	群馬県	電気柵	488m、0.4ha	H7			
尾瀬	A	尾瀬ヶ原（ヨッピ川南岸）	ネット柵	964m、3.5ha	H30			
		尾瀬ヶ原（下ノ大堀）	ネット柵	890m、5.3ha	R2			
			ネット柵	40m×2箇所	R1			
			ネット柵	70m×1箇所 40m×1箇所	R2			
		大江湿原	金属網	2,000m	H26			予算確保・活動の継続が課題。 新型コロナの影響により実施方法の検討が必要。
			金属網	1,550m	H29			設置・撤去時期について、関係機関との連携が必要。 新型コロナの影響により実施方法の検討が必要。 例年のボランティアによる設置・撤去は、R2は新型コロナの影響により見合せ。
			ネット柵	70m	H30			
		至仏山	ネット柵	305m、0.44ha	R2			オヤマ沢田代に設置。
		笠ヶ岳	—	—	—			
		尾瀬ヶ原（研究見本園）	ネット柵	0.05ha	H25			R2設置箇所に含まれるため、R3以降設置しない。
	B	尾瀬ヶ原（研究見本園）	ネット柵	1,125m、6.13ha	R2			R3に拡大を検討中。
		尾瀬ヶ原（背中アブリ田代）	ネット柵	0.06ha	H24			
		尾瀬ヶ原（竜宮）	ネット柵	0.03ha	H26			環境省設置箇所に含まれるため、R3以降設置しない。
		尾瀬ヶ原（竜宮）	ネット柵	1,247m、6.0ha	R3			
		尾瀬ヶ原（泉水田代）	—	—	—			
		尾瀬ヶ原（見晴）	—	—	—			
		燧ヶ岳山頂周辺	—	—	—			
		大清水湿原	金属網	644m、0.36a	H30			
	C	御池田代	ネット柵	1,093m	R2			
その他	シカ移動遮断柵（奥鬼怒林道）	関東地方環境事務所	ネット柵	4.5km	H20			R2に当柵を利用した効率的な捕獲を目的に、群馬県による指定管理捕獲場所に追加、捕獲実施。

※赤字は、R3年度からの新規の取組。



### (3) モニタリング

指標	手法	実施主体	実施場所	開始年度	R2年度	R3年度	本年度からの変更点・課題等
シカ生息密度	センサーカメラ	関東地方環境事務所	丸沼（唐沢山）	H26			
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	奥鬼怒林道	H26			
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原	H24			
	センサーカメラ	関東地方環境事務所	田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳	R2			
	センサーカメラ	中越森林管理署	東電小屋付近	H26			
	センサーカメラ	栃木県	千手ヶ原	H22			
	センサーカメラ	南会津町	駒止湿原	H27			R2より柵の効果検証にカメラトラップを実施。R3も継続予定。
	センサーカメラ	南会津町	南会津町、昭和村	R1			R2は新型コロナにより実施見送り（R3は実施予定）
	ライトセンサス	関東地方環境事務所	戦場ヶ原周辺（柵内外道路）	H14			R2以降は調査回数を月2回から1回に変更。
	ライトセンサス	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原、尾瀬沼	H13			
	ライトセンサス	栃木県	鬼怒沼	H10			
	ライトセンサス	栃木県	白根山	H25			
	ライトセンサス	南会津町	田島地域	H28			H28. 11月から現行ルートで実施。H24～28にも複数ルートで実施。
	糞塊密度法	栃木県	栃木県全域	H26			
	糞塊密度法	群馬県	群馬県全域	H25			
	糞塊密度法	福島県	福島県全域	R1			
	区画法	関東地方環境事務所	戦場ヶ原（柵内）	H18			R3実施予定（R2以降隔年実施）
	区画法及び定点観察	栃木県	奥日光、表日光、足尾	H7			
シカ移動経路	GPS移動経路	関東地方環境事務所	奥日光	R3			R3より夏季に日光を利用している個体の生体捕獲によるGPS追跡を予定。
	GPS移動経路	関東地方環境事務所	尾瀬～越冬地	H20			
	GPS移動経路	南会津町、昭和村	南会津町、昭和村	H29			R1より町内で越冬する個体の捕獲を実施。R3以降も継続予定。
植生被害	採食状況	関東地方環境事務所	尾瀬ヶ原、尾瀬沼、至仏山、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山、笠ヶ岳	H19			
	植生回復モニタリング	栃木県	小田代原、千手ヶ原、赤沼	H17			
	下層植生衰退度（SDR）	栃木県	栃木県全域	H29			次回実施の検討
	湿原植生モニタリング	群馬県	尾瀬ヶ原（背中アブリ田代、研究見本園、竜宮）	H24			
	簡易コドラート法	南会津町	南会津町、昭和村	R1			R2はコロナ禍により実施見送り（R3は実施予定）

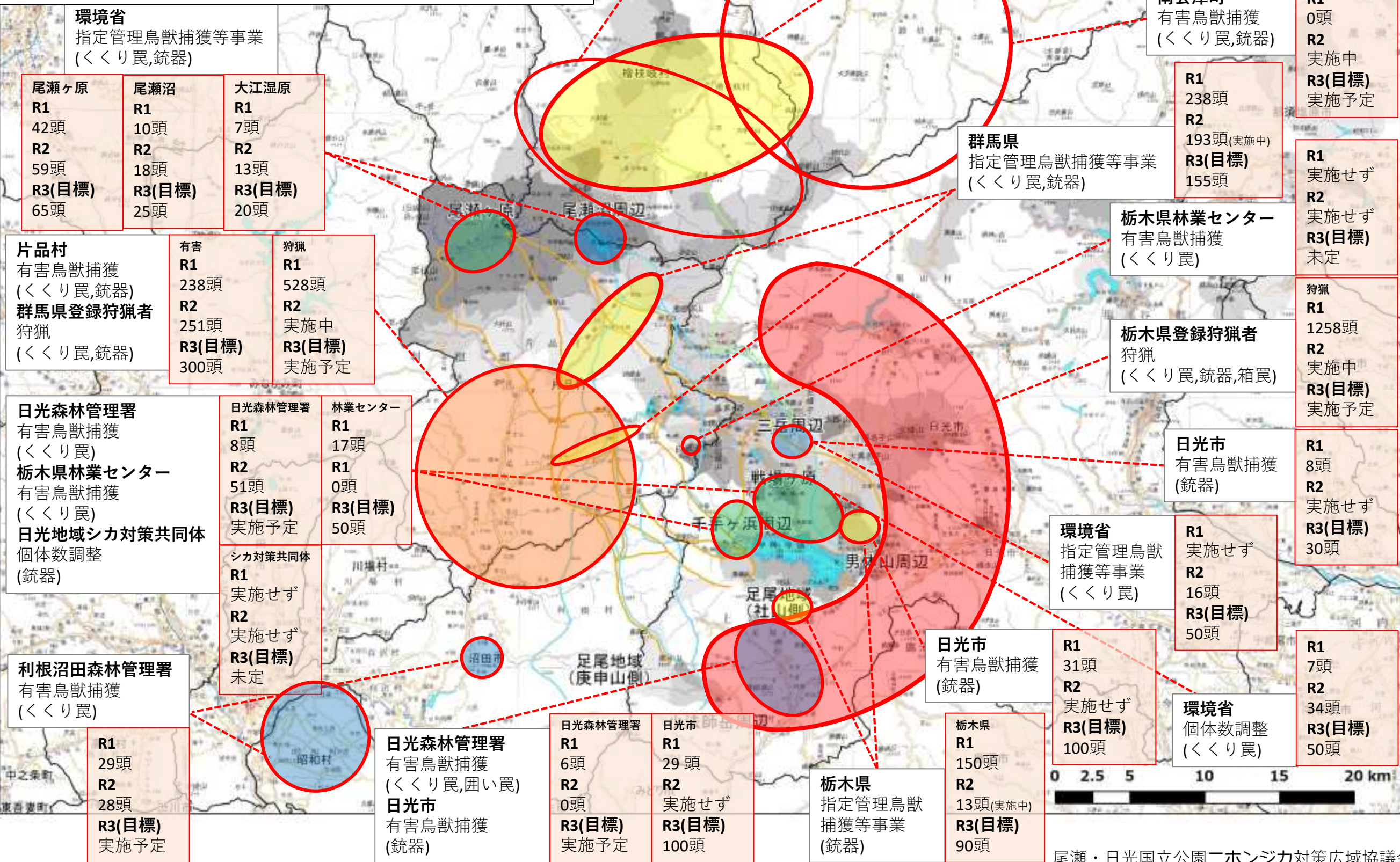
※赤字は、R3年度からの新規の取組。



# 令和3年度実施計画 捕獲位置図

資料2-2

捕獲エリア	GPS首輪 移動経路	国立公園（尾瀬+日光）
<div></div> 1000頭～	<div></div> 尾瀬ヶ原-越冬地	<div></div> 特別保護地区
<div></div> 500頭～	<div></div> 尾瀬沼-越冬地	<div></div> 第1種特別地域
<div></div> 100頭～	<div></div> 檜枝岐-越冬地	<div></div> 第2種特別地域
<div></div> 50頭～		<div></div> 第3種特別地域
<div></div> 1頭～		
<div></div> 0頭		





**太樫・塗りつぶし箇所はシカ柵設置済みまたは予定箇所**

**会津駒ヶ岳**  
 会津駒ヶ岳  
 周長:9437m  
 面積:23.7ha※1

**大津岐峠周辺の稜線**  
 周長:50m×5箇所程度  
 ※2

**燧ヶ岳西山麓**  
 周長:50m程度※2

**御池田代** ✓  
 周長:1093m  
 面積:5.4ha※1  
 檜枝岐村設置 (2020～)

**燧ヶ岳・高山植生**  
 (急峻地形、ササ草原を除くエリア)  
 周長:1678m  
 面積:2.9ha ※2

**イヨドマリ沢**  
 周長・200m程度×1箇所※2

**景鶴山山麓**  
 面積:10ha以上※2

**尾瀬ヶ原・ヨッピ川南岸** ✓  
 周長:964m  
 面積:3.5ha  
 環境省設置 (2019～)

**尾瀬ヶ原・泉水田代**  
 周長:1964m  
 面積:21.0ha

**尾瀬ヶ原・山ノ鼻研究見本園** ✓  
 周長:1690m  
 面積:16.5ha  
 群馬県設置 (2014～, 0.05ha)  
 群馬県設置 (2020～, 6.13ha)

**尾瀬ヶ原・見晴**  
 周長:2047m  
 面積:21.0ha

**尾瀬ヶ原・竜宮** ✓  
 周長:1803m  
 面積:20.6ha  
 群馬県設置 (2013～2020, 0.05ha)  
 環境省設置 (2021～, 6.0ha)

**尾瀬ヶ原・下ノ大堀** ✓  
 周長:890m  
 面積:5.3ha  
 環境省設置 (2020～)

**至仏山・雪田草原** ✓  
 周長:1344m  
 面積:2.9ha ※1  
 群馬県設置 (2020～, 0.4ha)

**笠ヶ岳・雪田草原**  
 周長:1364m  
 面積:4.6ha ※1

**奥鬼怒林道シカ移動遮断柵**  
 長さ:4.5km  
 環境省設置 (2008～)

**大清水湿原** ✓  
 周長:644m  
 面積:0.36a  
 片品村設置 (2018～)

**大江湿原** ✓  
 周長:3620m  
 面積:37.4ha  
 林野庁設置 (2014～)  
 環境省設置 (2019～)

**優先防護エリア**  
 Aランク  
 Bランク  
 Cランク

**尾瀬国立公園**  
 特別保護地区  
 第1種特別地域  
 第2種特別地域  
 第3種特別地域

**周長・面積算出の基準**  
 ※1 環境省25000植生図から算出  
 ※2 現地目測エリアから算出



## R3年度 重点方針の実施状況 ・ R4年度 重点方針(案)

	日光国立公園	尾瀬国立公園	その他共通事項
R3年度 重点方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 湯元周辺、丸沼菅沼鳥獣保護区など<b>高標高域、捕獲困難地域での捕獲の強化・継続</b>。</li> <li>➢ 夏季の<b>定住個体を対象とした捕獲の強化</b>。更に効率的な捕獲手法への改善。</li> <li>➢ <b>GPS追跡調査</b>による定住個体の行動特性の把握と管理方針の検討。</li> <li>➢ <b>防護柵の設置</b>が必要な具体的エリアの検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 優先防護エリア（特にA・Bランクの湿原、高山帯（燧ヶ岳、笠ヶ岳））への<b>防護柵の設置・継続</b>。</li> <li>➢ <b>尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続</b>（雪解けのタイミングに合わせた捕獲の前倒し、新潟県域での捕獲の実施など）。</li> <li>➢ <b>移動経路上での捕獲の強化・継続</b>（移動経路遮断柵の活用、捕獲適期、適地の精査など）。</li> <li>➢ 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺でのシカの生息状況の把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 捕獲関連データの記録項目の統一化。</li> <li>➢ <b>効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法</b>に関する検討・情報共有。</li> <li>➢ センサーカメラなどモニタリング方法・解析方法の統一化</li> </ul>
進捗状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 日光地域シカ対策共同体が湯元周辺での囲いわな捕獲を実施。</li> <li>② 栃木県が足尾地域での銃猟を継続するとともに、新たに囲いわな捕獲を実施。</li> <li>③ 環境省が白根山周辺地域、栃木県が千手ヶ原にてシカにGPS首輪を装着。</li> <li>④ 広域協議会において関係機関から防護柵の設置状況を収集。</li> <li>⑤ 環境省が防護柵の設置が必要なエリアを検討するための植生調査を鬼怒沼湿原にて実施。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 環境省が竜宮（A）に防護柵を新規設置するとともに下ノ大堀（A）の構造改善を実施、群馬県が研究見本園（B）の防護柵を延長（A・Bランク10箇所のうち7箇所に設置中）。</li> <li>② 環境省が尾瀬ヶ原・尾瀬沼での捕獲エリアを新潟県を含めて拡大し、六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲を調整中。</li> <li>③ 群馬県が移動経路上での捕獲を継続。環境省が移動経路上でのモニタリング手法を見直し、新たに通信機能付センサーカメラを設置予定。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 環境省がモニタリング年次レポートの構成を見直し、対策とその効果の対応を見やすく整理。</li> <li>② 群馬県が見本園と至仏山に設置した防護柵を対象に効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法を検討中。</li> </ol>
R4年度 重点方針 (案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 夏季の定住個体を対象とした捕獲を<b>地域主体で効率的に実施</b>。</li> <li>➢ 高標高域、<b>捕獲困難地域での捕獲の強化・継続</b>。</li> <li>➢ 夏季の定住個体に装着した<b>GPS首輪調査で把握した夏季定住地、移動経路や越冬地における最適な捕獲</b>の検討。</li> <li>➢ 日光版の<b>優先防護エリア案</b>を作成を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 優先防護エリアのA・Bランクに<b>防護柵の設置・継続・検討</b>。</li> <li>➢ 燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、田代山、帝釈山周辺の優先防護エリアに<b>防護柵の設置を検討</b>。</li> <li>➢ <b>尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化・継続</b>（捕獲適期の検討。六兵衛堀周辺（河畔林）での捕獲の実施など）。</li> <li>➢ 通信機能付きカメラを利用したリアルタイムの移動状況の共有による<b>移動経路上での捕獲の強化・継続</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <b>出猟カレンダー（指定管理・有害捕獲）の普及</b>。</li> <li>➢ 防護柵や優先防護エリア、過去の季節移動経路等の<b>位置情報をGISに集約</b>し、協議会構成員で共有する。</li> <li>➢ <b>効果的・効率的な防護柵の設置・維持管理の手法</b>に関する検討・情報共有。</li> <li>➢ <b>捕獲目標数は捕獲実績、対策方針を踏まえて設定</b>。</li> </ul>



令和3年8月23日

第1回尾瀬日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

# 栃木グループ意見交換会



# 栃木会場グループ

## テーマ①: 植生保護について

### 奥日光の植生について

奥日光の森林植生は「野外調査の聖地」といわれるほど植物学者たちを魅了してきた素晴らしい森林植生です。

現在はシカの採食影響により、下層植生が衰退し、植物層は単一化してしまっています。

しかし、日光地域にはまだ希少な植物や重要な森林群落が残っています。



優先防護エリアを作りたい

# 優先防護エリアを作りたい

今回は  
ここまで！

## Step1: かつての植生と現状を知る

シカの植生影響がそれほどなかった時代(1970年代ごろ)と最近の植生状況を写真とデータで比較してみましょう。

## Step2: 優先防護エリアの候補地を選定する

これまでの「手作りGIS」の情報や既存文献の情報から、優先防護エリアの候補地を選定します。

## Step3: 優先防護エリアを決定する

希少植生の残存状況の確認や重要な森林群落の確認を行い、優先防護エリアを決定します。

# テーマ①: 植生保護について

- メモ:

# 栃木会場グループ

## テーマ②: 捕獲について

### 奥日光の現状

例えば

- ・夏季に湯元スキー場に出没するシカ  
⇒日中にもかかわらず大群で出没。
- ・夏季に1002号線に出没するシカ  
⇒夜間に大群で出没。

そして

⇒近年シカの食害による奥日光の植生の衰退が著しい。



夏に日光で被害を出しているシカを減らしたい



# 夏に日光で被害を出しているシカを減らしたい

## Step1: 現状の共有

撮影されたシカや食害の様子を動画と写真で紹介します。

## Step2: 湯元で行っている捕獲について共有

環境省事業で行っている湯元での捕獲について共有します。  
(スキー場でのわな捕獲、白根山での生体捕獲)

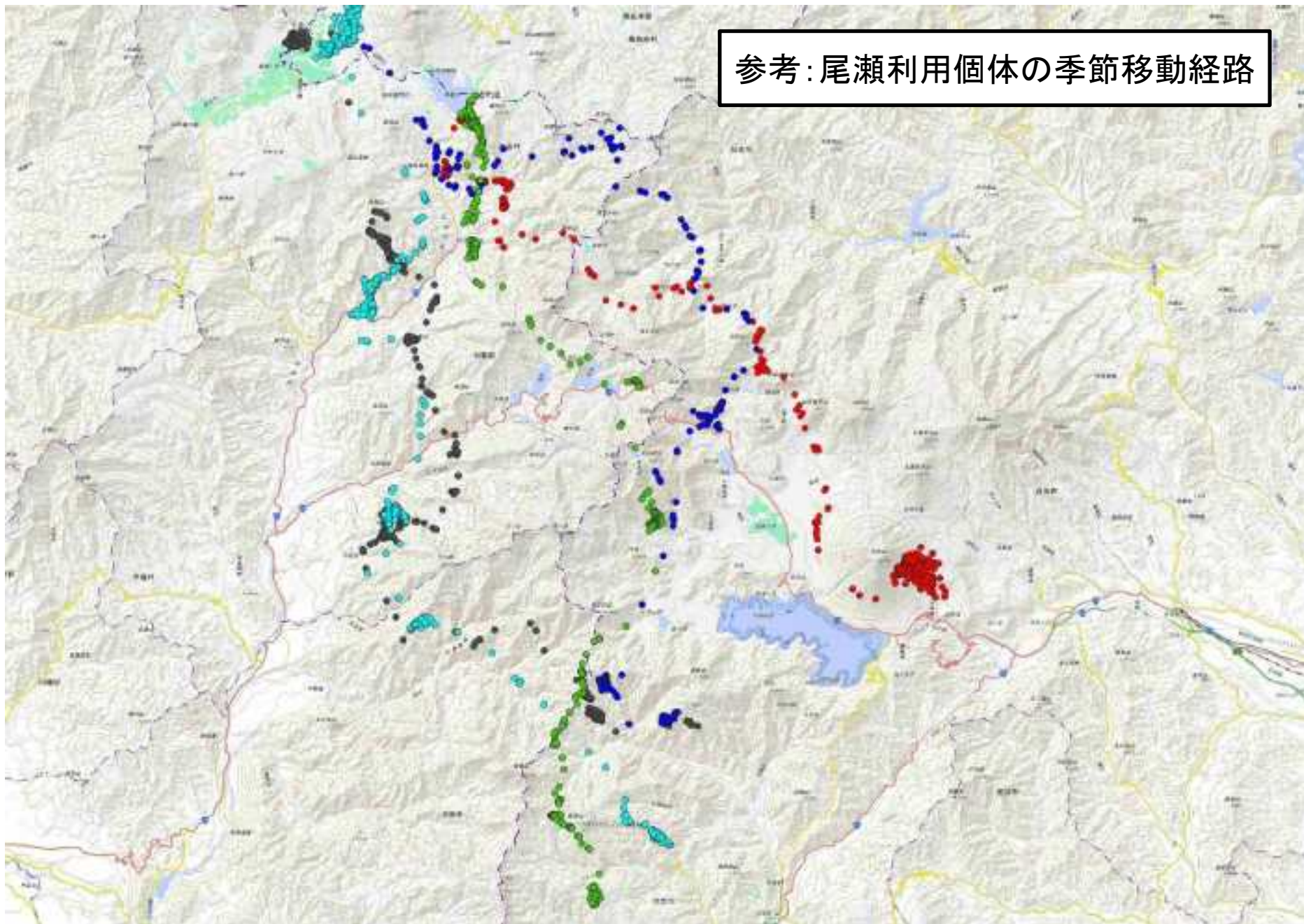
## Step3: 今後の奥日光の捕獲について

今後より効果的な捕獲を進めていくために、どのような場所、方法、体制で実施するのが望ましいのか、皆さんで議論しましょう。

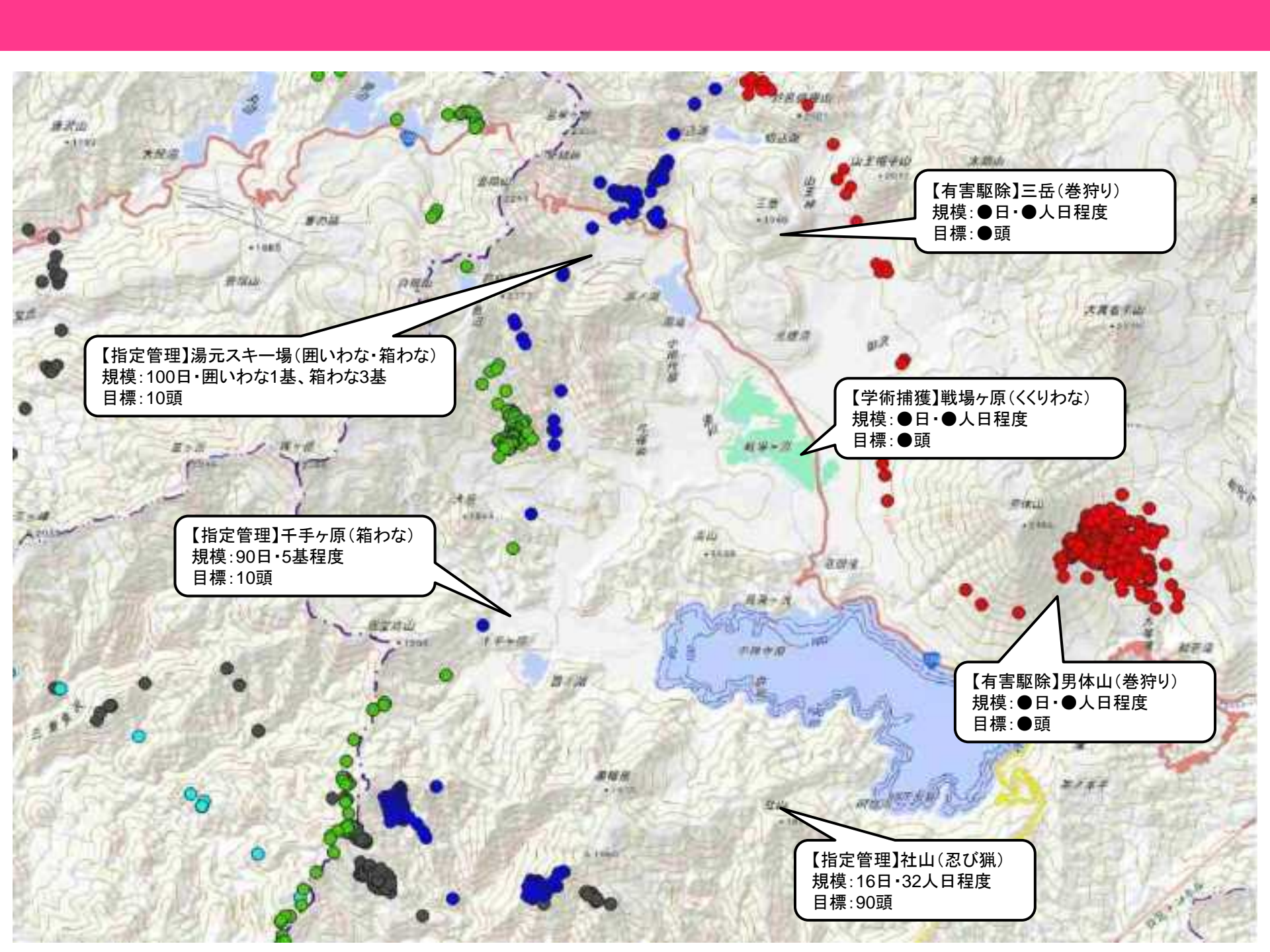
例) スキー場の捕獲は続けるべきか？ その場合指定管理事業で行うべきか？  
どこが担うのか？ 捕獲の効果検証はどのように行うか？

1002号線のシカを効果的に捕獲するには？ 夜間銃猟を試行してみては？

参考：尾瀬利用個体の季節移動経路







【有害駆除】三岳(巻狩り)  
規模: ●日・●人日程度  
目標: ●頭

【指定管理】湯元スキー場(囲いわな・箱わな)  
規模: 100日・囲いわな1基、箱わな3基  
目標: 10頭

【学術捕獲】戦場ヶ原(くくりわな)  
規模: ●日・●人日程度  
目標: ●頭

【指定管理】千手ヶ原(箱わな)  
規模: 90日・5基程度  
目標: 10頭

【有害駆除】男体山(巻狩り)  
規模: ●日・●人日程度  
目標: ●頭

【指定管理】社山(忍び猟)  
規模: 16日・32人日程度  
目標: 90頭

## テーマ②:捕獲について

- メモ:

# 湯元スキー場わな捕獲

捕獲実施期間 7/1～実施中



# 箱わな設置(6/8)



# 囲いわな設置(6/9)





## 設置場所は以下の観点より選定：

- ・登山道から見えない
- ・わな資材の搬入、捕獲個体の搬出が容易である
- ・平坦である(特に囲いわな)
- ・携帯電波圏内である
  - ICTゲートはネット接続が必須
- ・日当たりが良い(囲いわな)
  - ソーラー発電が必要なシステム
- ・シカ大量出没ゾーンから離れている
  - 人立ち入りによる攪乱の回避



箱わな・囲いわな捕獲の大前提：

**餌で誘引できること**

# 捕獲実績

目標頭数 10頭

捕獲進捗 5頭 進捗率50%

## 【捕獲内訳】

- |        |      |     |    |
|--------|------|-----|----|
| ・ 7/5  | 囲いわな | 3歳+ | メス |
| ・ 7/8  | 囲いわな | 3歳+ | メス |
| ・ 7/10 | 箱わな  | 3歳+ | メス |
| ・ 7/13 | 囲いわな | 1歳  | オス |
| ・ 7/31 | 箱わな  | 1歳  | オス |

# 捕獲試行からわかったこと

今回使用したわな

- ・ 囲いわな

楽おりBig＋クラウドまるみえホカクン

- ・ 箱わな

楽おり＋アニマルセンサーリモート

**どちらも自動捕獲とリモート操作による手動捕獲が可能**



# 捕獲試行からわかったこと(困いわな)

- 柵内2頭、柵外2頭、複数頭捕獲まであと少し…
- 自動捕獲機能もあるが、確実に複数頭捕獲を狙うのであれば手動捕獲になる
- 深夜にリアルタイム監視をしながらの手動捕獲は負担が大きい



# 捕獲試行からわかったこと(囲いわな)

- 複数頭捕獲を成功させるには、高頻度、大量の餌まきが必須
  - 1頭で食べ切れてしまう餌量ではダメ
  - 複数頭がわな内に入るまでは時間がかかる
  - 餌まき要員、地元の人確保必須
- 1頭だけ捕獲するのは非常に簡単
  - 囲いわなの本領は発揮できていないが...

# 捕獲試行からわかったこと(箱わな)



# 捕獲試行からわかったこと(箱わな)





# 捕獲試行からわかったこと(箱わな)

- クマ錯誤捕獲が怖いので手動捕獲せざるをえない  
→クマスルーがあれば自動捕獲も可能？
- 箱わなの床部分のメンテナンスが大事  
→メッシュワイヤーがむき出しになると入ってこず
- 捕獲があったわなにも継続的に入ってくる  
→スキー場での箱わな捕獲は比較的簡単
- 1度に1頭しか捕獲できないが、数多く設置できれば捕獲頭数を伸ばせるかも  
→囲いわなと違い広いスペースを必要とせず、  
林内にも設置できるのはメリット  
→移設も比較的容易

# 捕獲試行からわかったこと(その他)

- ・ 現状、指定管理による捕獲体制がネック  
→ 餌まき：現地アルバイト、捕殺：WMO職員



有害駆除であれば現地の人材で捕殺まで担えた

- ・ 夏でも餌誘引が可能で、簡単に捕獲ができる。  
→ 特別な技術は必要なく、安全に捕獲できる



コストの高い専門業者を使うのはもったいない？

# 白根山生体捕獲

捕獲実施期間 7/26～8/6

# 捕獲実績

目標頭数 2頭

捕獲進捗 2頭 **目標達成**

作業日数 5日間×2回(計35人日)

## 【捕獲内訳】

- 8/3 麻醉銃 3歳+ メス(群馬県域)
- 8/5 麻醉銃 3歳+ メス(栃木県域)







# GPS首輪装着(8/3)



# GPS首輪装着(8/5)



# GPS首輪データ

当日データ公開予定

# 白根山生体捕獲・所感

---





# 白根山生体捕獲・所感



# 白根山生体捕獲・所感

## 捕獲従事者からのコメント：

- スキー場ほどではないが、かなりの数のシカがおり、4頭程度の小さい群れがあちこちにいる。
- 登山道を歩いているとシカはあまり警戒しない。登山道を逸れると急に警戒される。思いの外警戒心の高いシカが多かった。
- とにかく登山客が多い。装薬銃を使った捕獲は慎重に考えたほうが良さそう。
- クマも多い。夕方登山客がいなくなると登山道付近を堂々とうろついている。
- 物資の荷揚げ、ライフラインの確保が課題。1人あたり40kg近い荷物を背負わなければならない。

# 群馬会場グループ

## テーマ：これまでの振り返りと今後の戦略

### これまでの協議会で聞こえてきたこと

植生保護柵：尾瀬や高山で設置・維持管理することの苦勞

モニタリング：役割分担の再整理が必要

捕獲の効果は出ているのか？

捕獲：季節移動経路での捕獲を強化したい



これまでの対策とその効果を振り返り、  
今後の戦略を検討する。

# 本日お話しするテーマ

## テーマ1：植生保護柵の設置と管理に関する工夫

- ・群馬県 10分
- ・テンドリル 10分
- ・全体議論 10分

## テーマ2：季節移動経路上での捕獲

- ・現状と課題：群馬県 10分
- ・全体議論： 30分

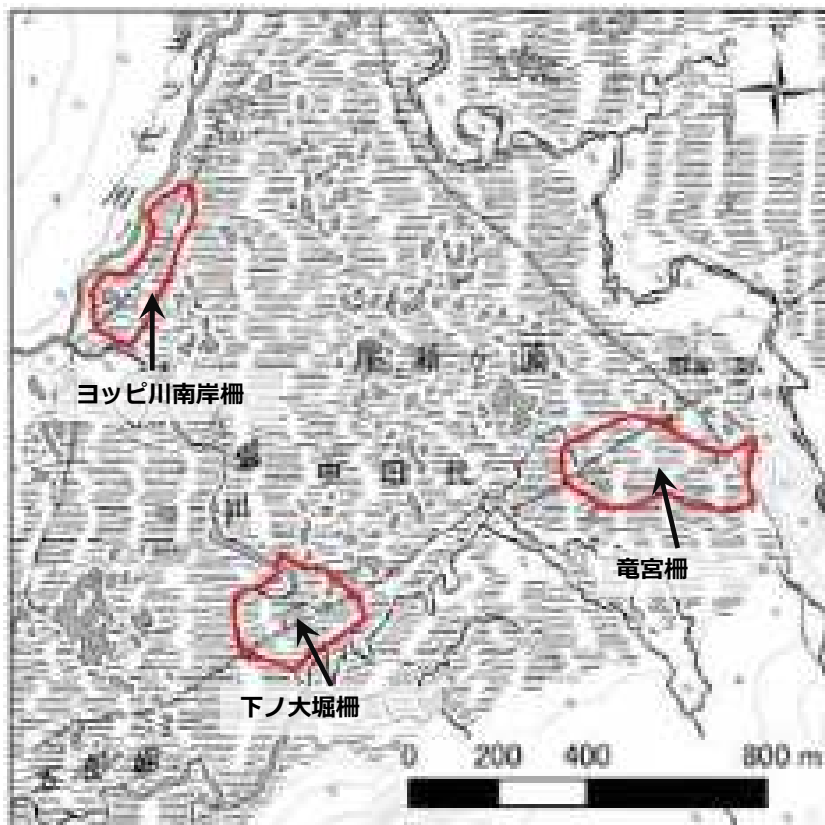


テンドリル

植生保護柵の設置と管理に関する工夫

## 柵の基本的な構造

- ネット以外は、最寄りホームセンターで入手・代用可能な資材で建設した。
- 誰でも設置できるように簡単な構造で計画・実施した。



高さ：1.6～1.8m 支柱間隔：2.5m  
 支柱資材：イボ竹33mm(一部26mm) (セキスイ樹脂製)  
 ネット目合(正和商事 ステン入りナイロン)  
 ■下ノ大堀、竜宮 5cm(高さ0.8mより下)、10cm(高さ0.8より上)  
 ■ヨッピー南岸 5cm  
 支柱ベース 塩パイプ (VP40)  
 プラスチック杭 (490mm)  
 張ロープ3～4mm



ネット下部は杭で固定



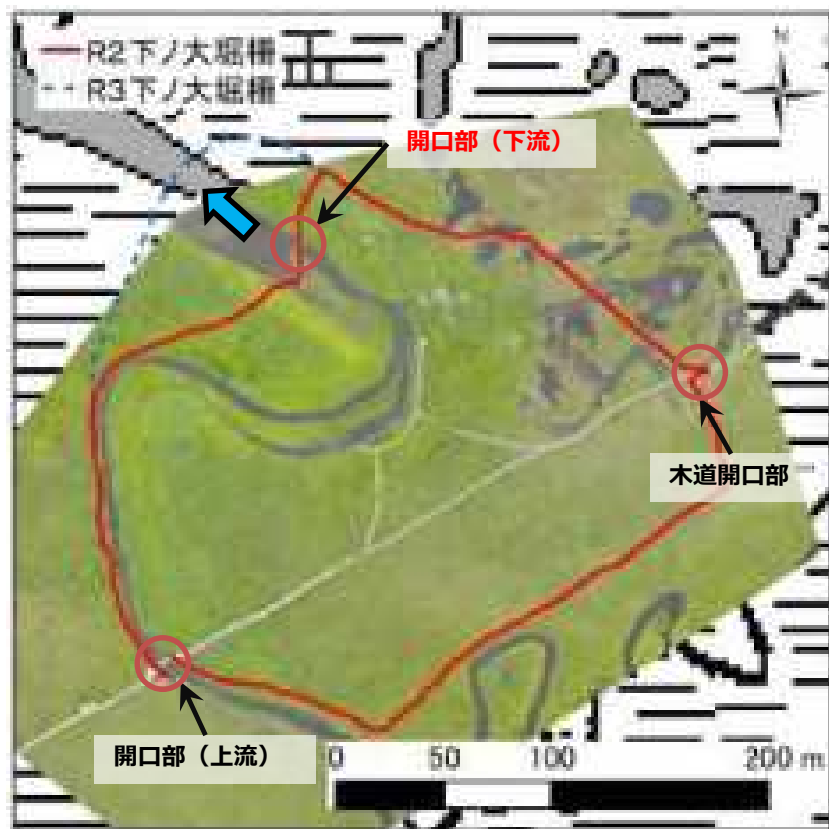
ほぼ全周に張ロープを設置  
 外側からの押し圧力を強化  
 3～4mmロープ



# 尾瀬

## 下ノ大堀柵の改善と新たな課題（増水時の対策）

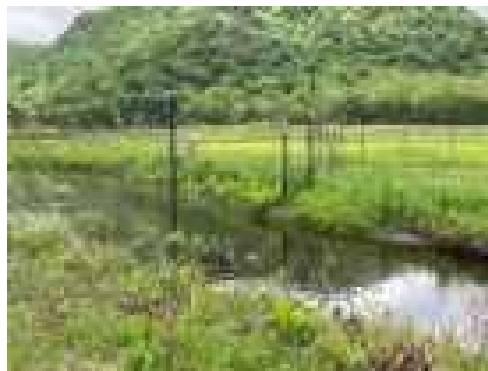
- R2年度、河川下流部の開口部からシカの侵入が多くあり、内側からの支柱破損が多く認められた。
- R3年度は、河川横断部の位置変更及び、河川横断部をネットで遮断した。



高さ 1.8m

支柱間隔2.5m

ネット目合 5cm(高さ0.8mより下)、10cm(高さ0.8より上)



R2.6.12  
開口部（下流）



R3.5.14  
改善後



# 尾瀬

## 下ノ大堀柵の改善と新たな課題（増水時の対策）

- 増水時ネットに植物破片が滞留し、支柱が破損しかけていた。
- 改善策としてネット下部に「浮き」と「スカートネット」を設置した。

R3.5.17 気温上昇により増水



ネット下部を杭で固定していたため、葉や枝等の植物破片がネットに付着。水流の抵抗が増大し支柱が斜めになっていたため、杭を外し、植物破片を撤去、水面より上に引き上げた。

R3.6.1 浮きの設置 R3.6.23 スカートネットの設置



増水時の植物破片の滞留を防ぐため、ネット下部に浮きを設置し、増水時はネット下部が浮くようにした。下部に少し、隙間ができてシカが潜りぬける可能性があったため、スカートネットを設置した。

**河川部下流部を遮断したことにより、R2年度より大幅にシカの侵入を抑制することができている。**



- 低木群落、ミツガシワ群落の回復は顕著

R2



柵内で食べられてしまったエゾリンドウ

R3



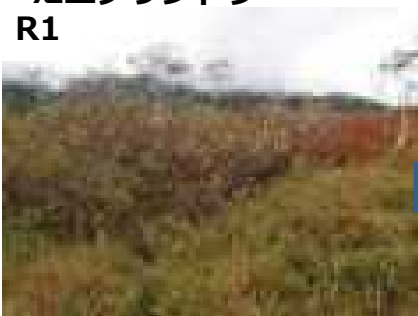
R3は食べられず改善

R3



ニッコウキスゲの開花はまだ疎ら

R1



下枝の葉が食べられ葉量が減少していた低木群落

R3



ディアラインが薄くなり回復しつつある低木群落

柵外  
R1



柵外の低木群落は、食害が継続し衰退傾向  
紅葉が美しいヤマウルシ、ナナカマド、ノリウツギなどへの食害が継続し、紅葉景観の損失は大きい

R3



R1



ミツガシワ・ミズトクサの群落は矮小化

R3



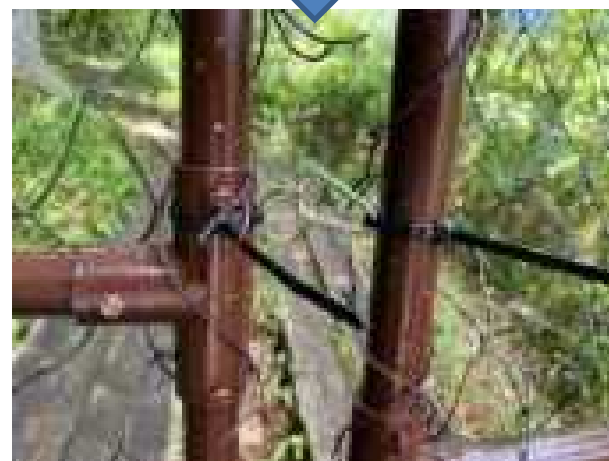
ミツガシワ・ミズトクサの群落が回復しつつある

- ・ 扉周辺では、シカやクマが多く撮影された。
- ・ 侵入防止対策として扉部にカラビナを設置した。
- ・ 木道開口部から侵入する様子は撮影されなかった。

### R3.5.28 設置完了



### シカやクマが扉周辺で多く撮影された



### R3.7.8 侵入防止対策（カラビナ設置）

- 水路部5箇所は、下に隙間ができるため金網で隙間を塞ぎ侵入防止対策を実施。

### R3.5.28 設置完了



高さ 1.8m  
支柱間隔2.5m  
ネット目合 5cm(高さ0.8mより下)、10cm(高さ0.8より上)



植物破片が滞留するため、週1回の巡視時に除去

- シカの嗜好性が高い植物のサイズ回復が顕著（木道沿いに限る）

ミツガシワ



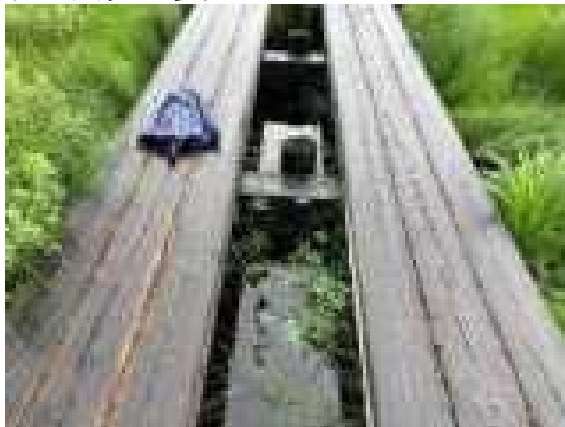
ヤナギトラノオ



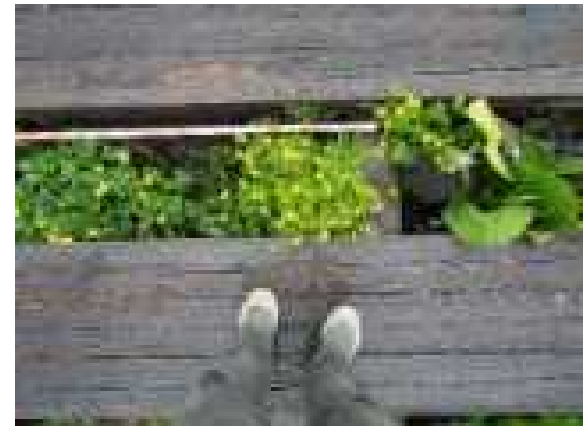
ドクゼリ



クロバナロウゲ



リュウキンカ



## ヨッピ南岸柵の課題

- ・ 竜宮や下ノ大堀と異なり、支柱ベースを設置していないため再設置と撤収がやや困難
- ・ 融雪時期や大雨時、頻繁に河川が氾濫するので、資材撤収時の資材固定は必須

支柱ベース（塩ビパイプ）\_竜宮と下ノ大堀には設置



支柱ベースを設置することにより再設置と撤収の手間が大幅に改善（竜宮と下ノ大堀）



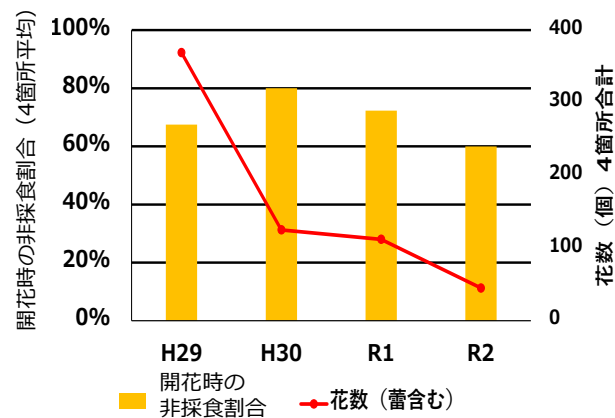
ヨッピ川南岸柵は、支柱を直挿しなので、既設の穴の搜索や引き抜き作業が非常に重労働。





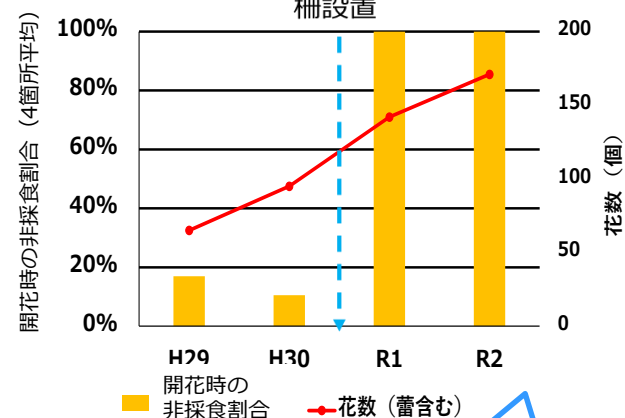
- 柵外では開花時の非採食割合、花数が低下。
- 柵内の花は採食されず、開花時の非採食割合は100%。花数が増加・回復。

柵外調査区（4箇所）



柵外

柵内

柵内調査区（1箇所）  
柵設置

**花の採食なし  
開花時の非採食割合100%  
花数増加**

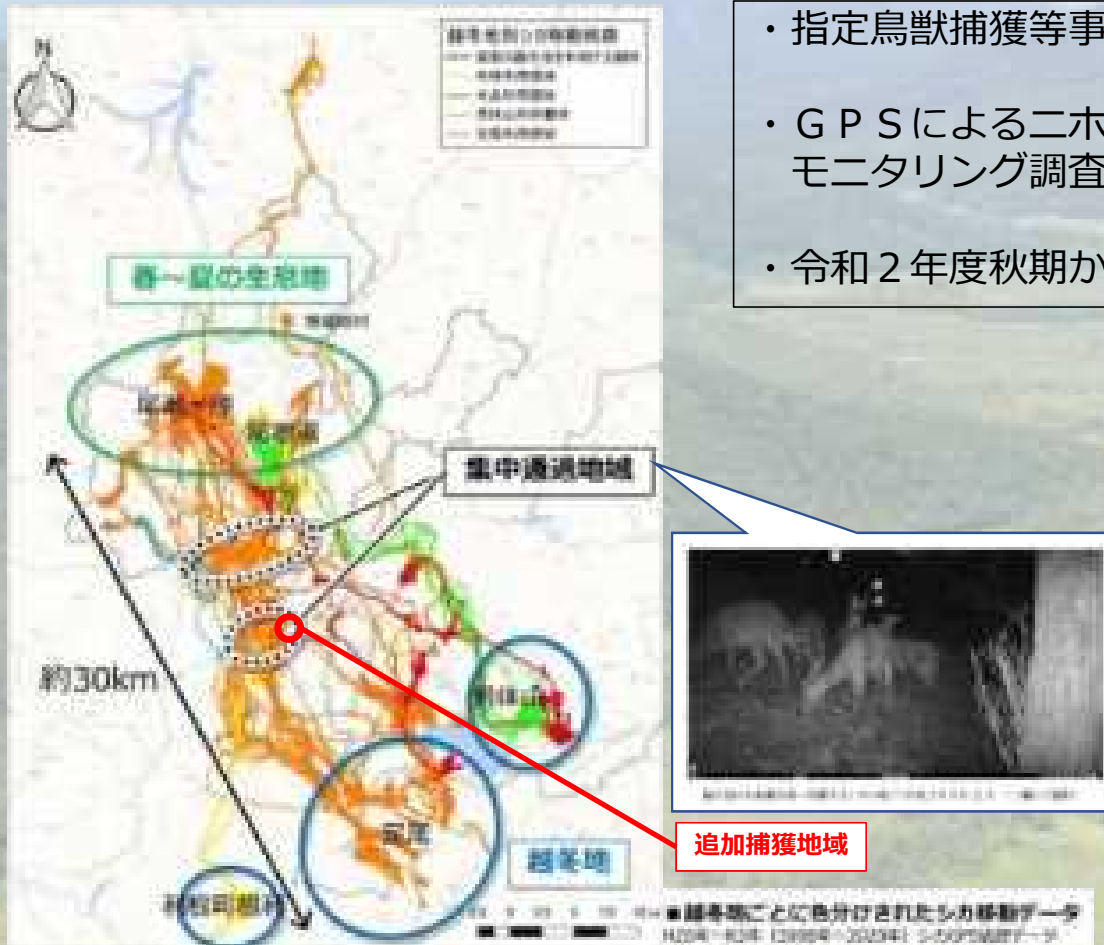
# テーマ1：植生保護柵の設置と管理に関する工夫

## 議論のポイント

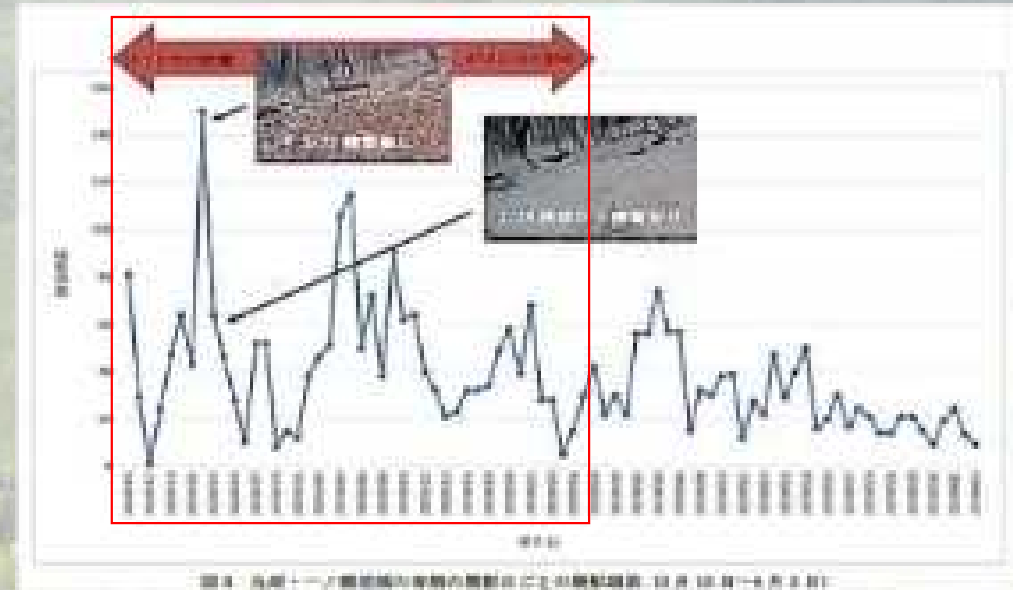
- ・群馬県やテンドリルの手法に質問があれば
- ・群馬県やテンドリルのほうで悩みがあれば
- ・他の関係機関で工夫や悩みがあれば

# 群馬県によるニホンジカの捕獲状況

- ・ 指定鳥獣捕獲等事業により移動経路上での捕獲を実施。
- ・ GPSによるニホンジカの行動調査（環境省）や生息状況等調査業務等のモニタリング調査の結果を活用し、集中通過地域での捕獲を実施。
- ・ 令和2年度秋期から丸沼菅沼鳥獣保護区の一部でも捕獲開始。



出典：尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会 会議資料（令和2年9月30日）



出典：令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業（尾瀬地区）  
ニホンジカ生息状況等調査業務報告書



# 移動経路上（大清水地域、丸沼・一ノ瀬地域）の生息状況



## ・大清水地域の撮影頭数：

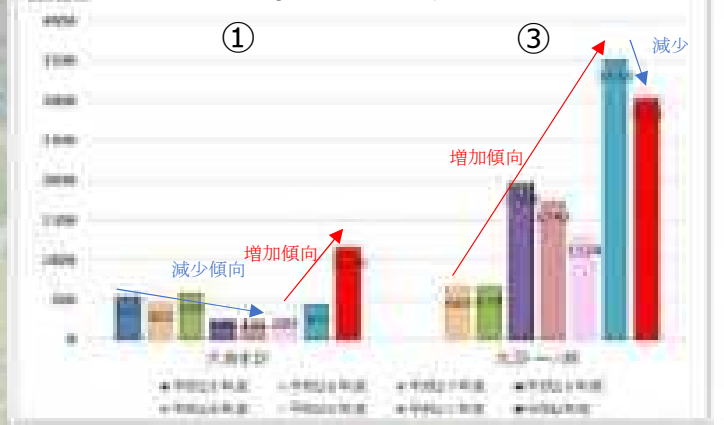
- ①春期 平成29年度までは**減少傾向**。ここ数年は**増加傾向**。
- ②秋期 過年度同様**減少傾向**。

【減少要因】緩急斜面（伐採や道路工事等）のため、季節移動ルートが分散。

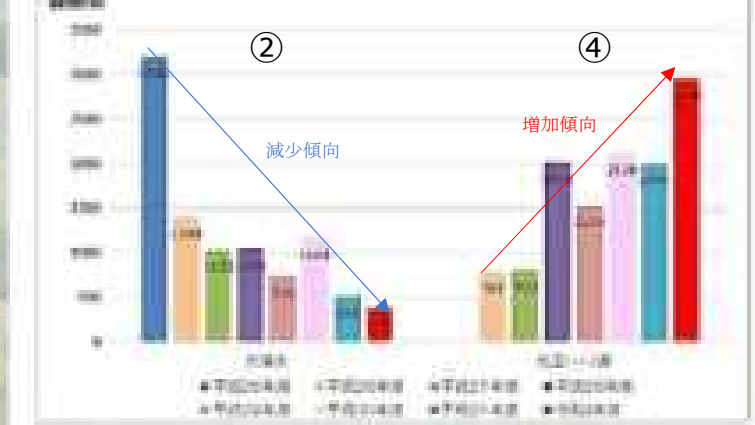
## ・丸沼・一ノ瀬地域の撮影頭数：

- ③春期 過去度まで**増加傾向**。令和2年度は**減少**したが、過去2番目に**多い**。
- ④秋期 過年度同様**増加傾向**。

春期の撮影頭数の経年比較



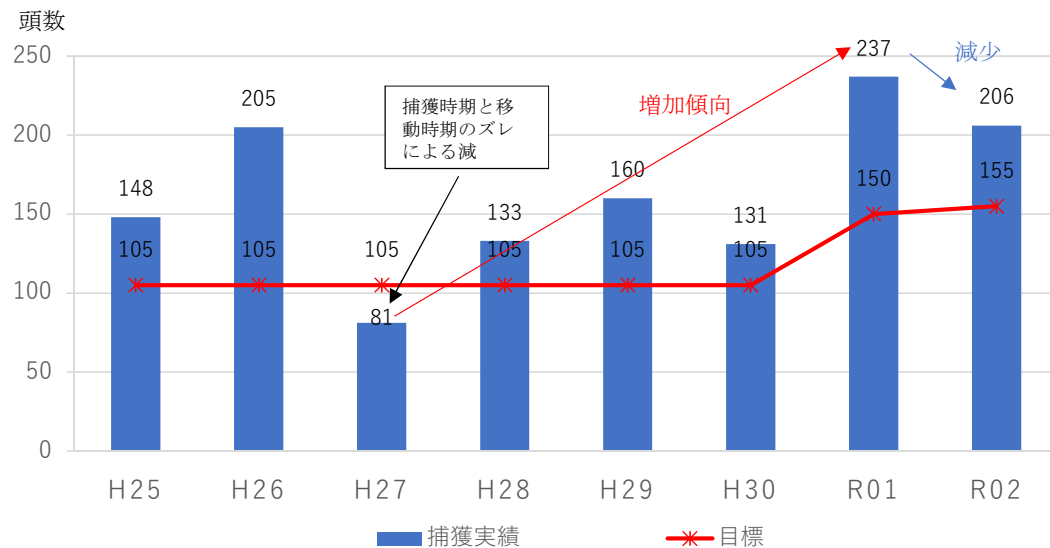
秋期の撮影頭数の経年比較



出典：令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業（尾瀬地区）ニホンジカ生息状況等調査業務報告書

## ニホンジカの捕獲目標

- 令和元年度より捕獲目標をこれまでの105頭から150頭に増加。令和2年度においても更に155頭に増加。
- 令和2年度秋期から丸沼菅沼鳥獣保護区の一部でも捕獲開始。
- 移動経路上のセンサーカメラによる撮影頭数は増加傾向（丸沼・一ノ瀬地域）。今後更に関係者による捕獲を強化していく必要がある。



捕獲されたニホンジカ（オス）



捕獲されたニホンジカ（メス）





## テーマ2：季節移動経路上での捕獲

### 議論のポイント

- ・捕獲目標数をどのように設定しているか？
- ・捕獲の効果をどのように評価しているか？
- ・その他

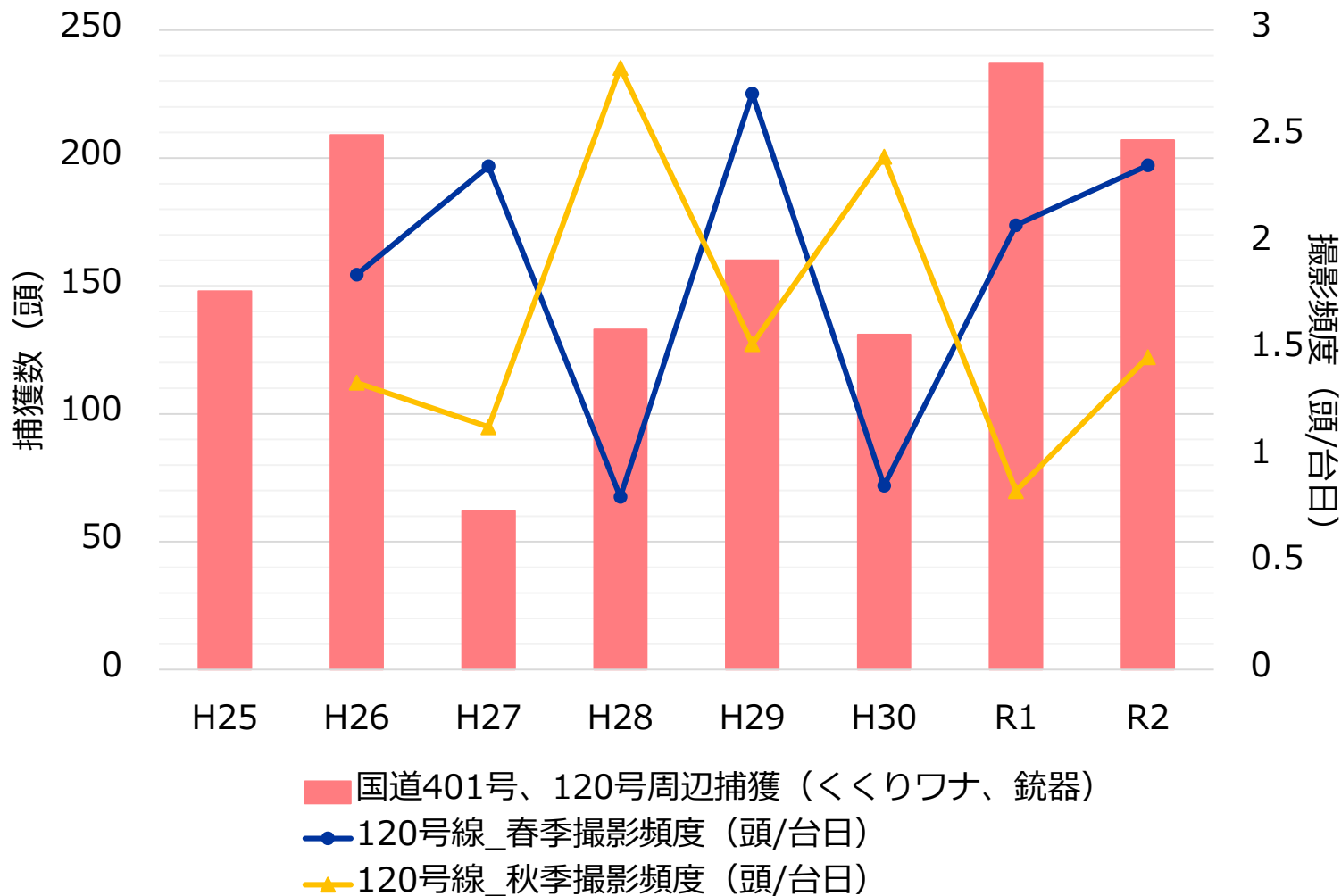
# 移動経路上での捕獲の効果検証



# 片品

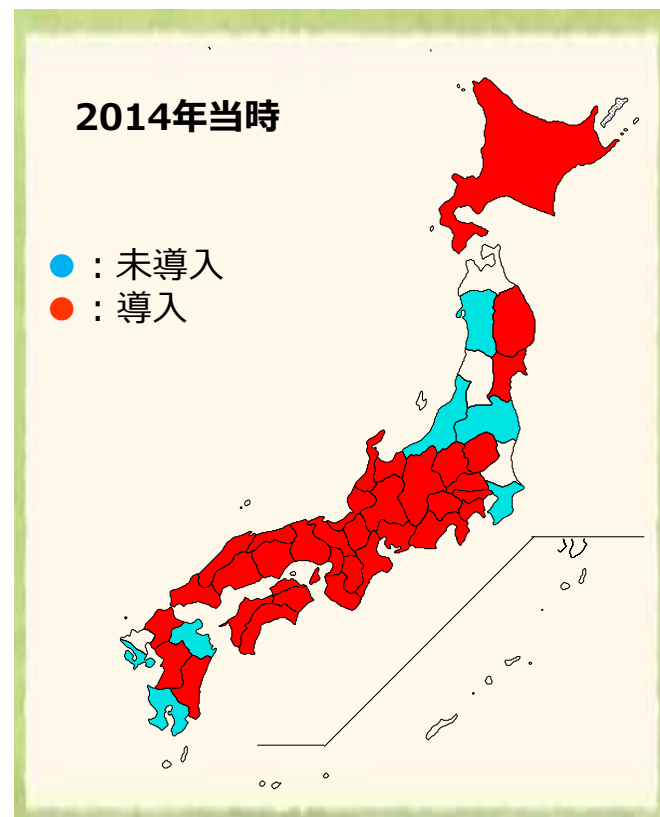
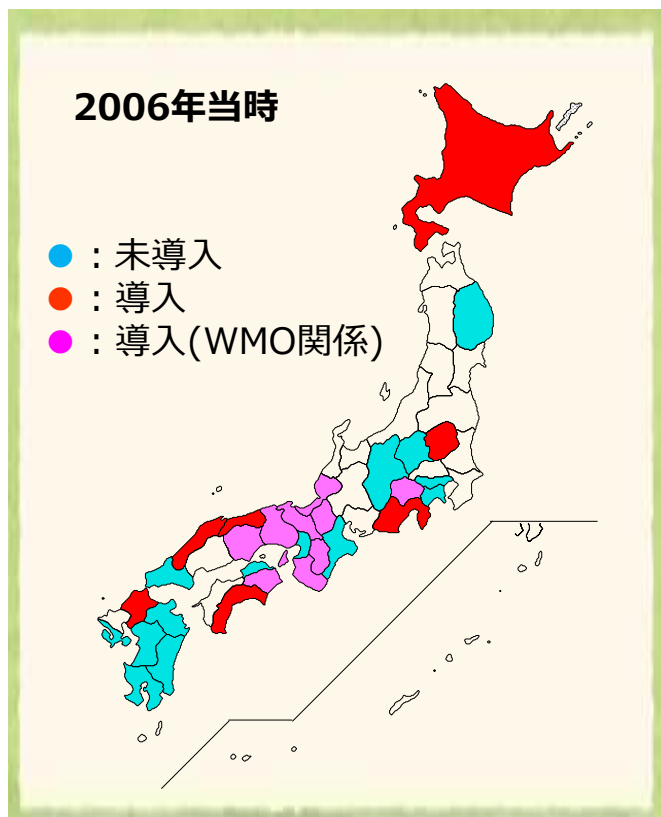
(季節移動経路)

## 捕獲数と生息状況の推移



# 出猟カレンダーの必要性

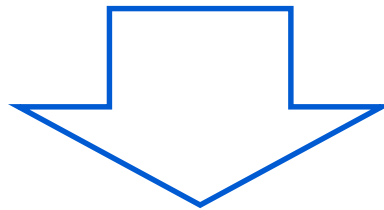
# 狩猟における出猟カレンダー調査の実施状況





## 出猟カレンダー どんなものか

- 都道府県単位でやっている(場合が多い)
- (大物猟に出猟した)狩猟者が記入する(場合が多い)
- 銃猟とわな猟で分けられたものが多い
- 狩猟カレンダーは猟期中の出猟について記入する



猟期外や鳥獣保護区内の情報を得るためには、  
指定管理・有害捕獲においても導入が必要

# 出猟カレンダー どんなものか～記入項目～

銃  
猟

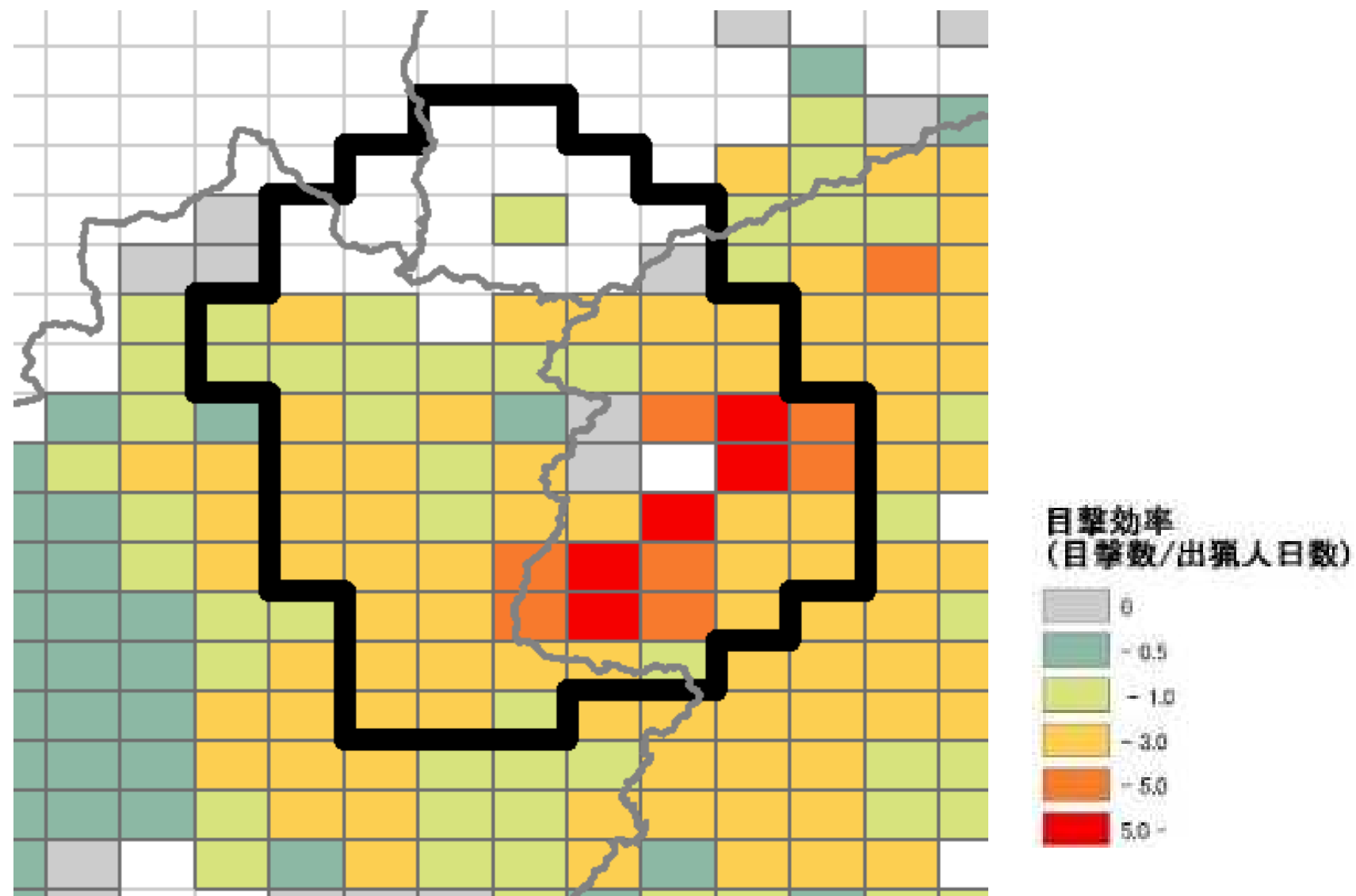
出猟 月日	出猟した地域の メッシュ番号			シカ 目撃数			シカ 捕獲数			イノシシ 目撃数			イノシシ 捕獲数			備考
				♂	♀	不明	♂	♀	不明	成獣	幼獣	不明	♂	♀	幼獣	
12/10	1	1	4	1	2	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	皮膚病1
1/24	0	2	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
1/30	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

わ  
な  
猟

罾設置期間	罾を設置した メッシュ番号			罾の種類	罾の台数	シカ 捕獲数			イノシシ 捕獲数			備考
						♂	♀	不明	♂	♀	幼獣	
11/16～11/30	0	9	6	くくり 箱罾・囲い罾	7	1	2	1	1	0	0	
11/2～11/30	0	9	6	くくり 箱罾・囲い罾	2	1	1	0	0	0	0	
12/1～12/10	1	1	0	くくり 箱罾・囲い罾	5	0	0	0	0	0	0	

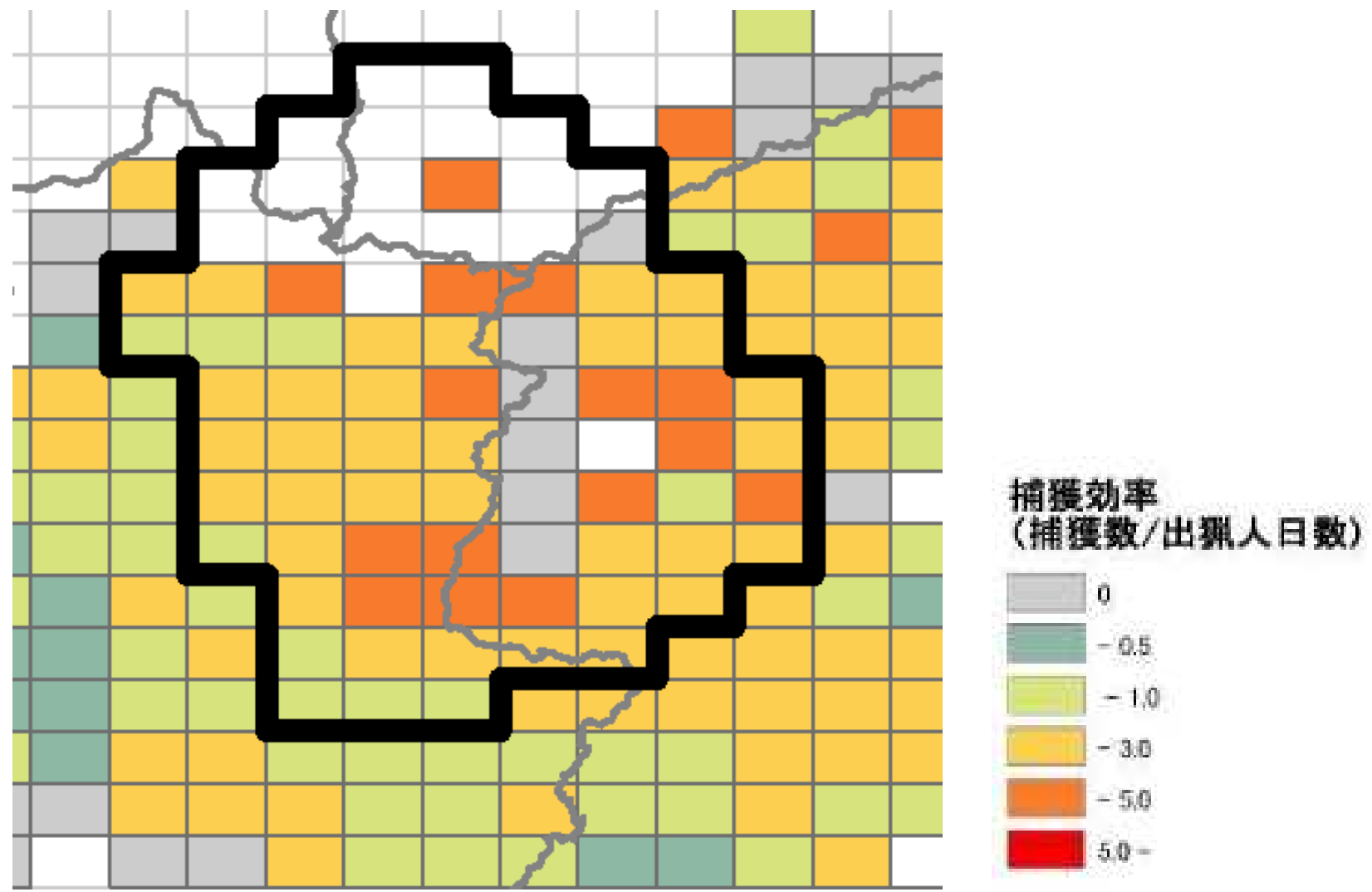
2020年度

# 銃器の狩猟者一人が一日に見たシカの数



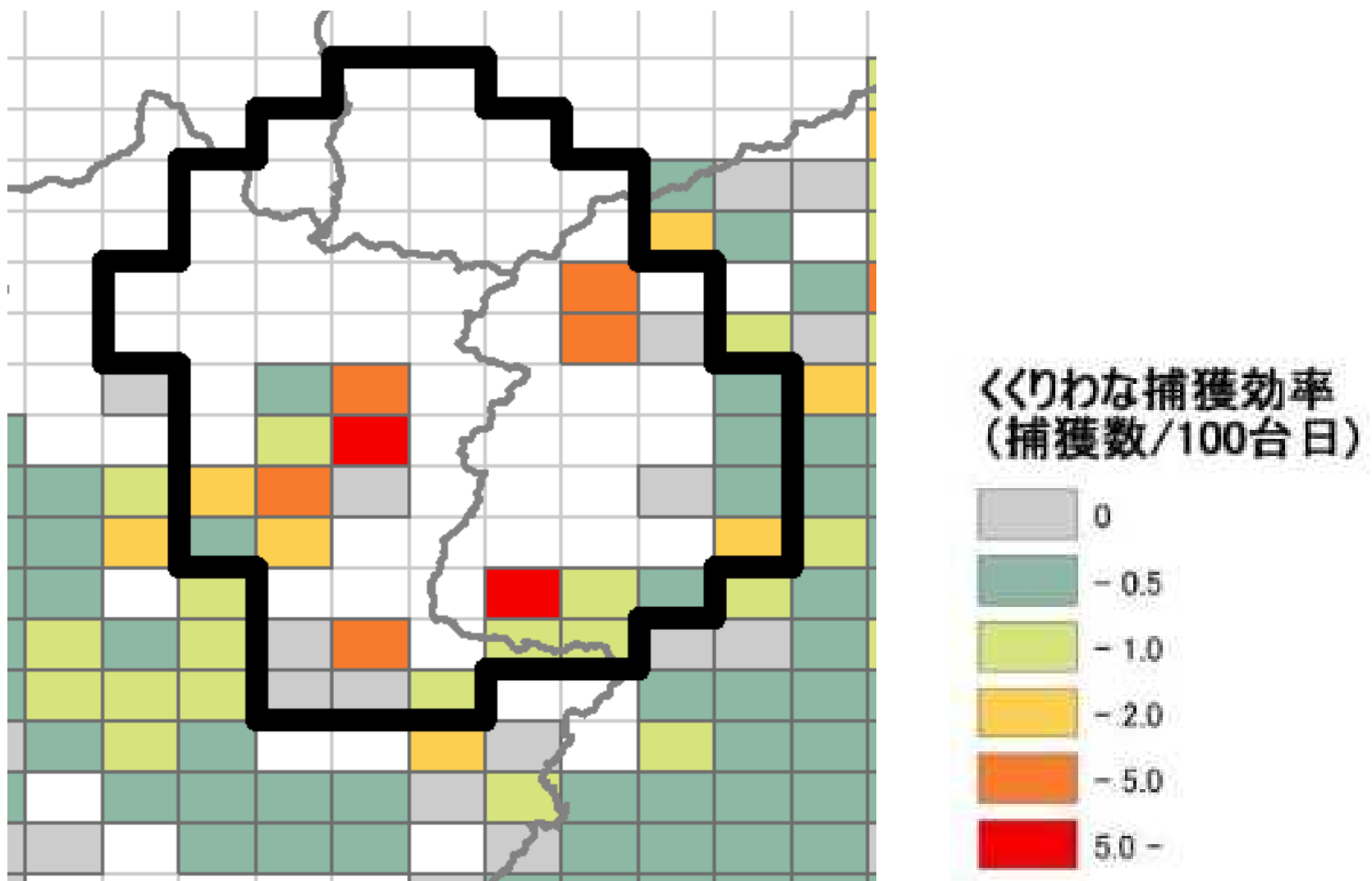
2020年度

# 銃器の狩猟者一人が一日に捕ったシカの数



2020年度

# くくり10基を10日かけた場合の捕獲数





## 発展例：メッシュごとの個体数推定（関東山地）

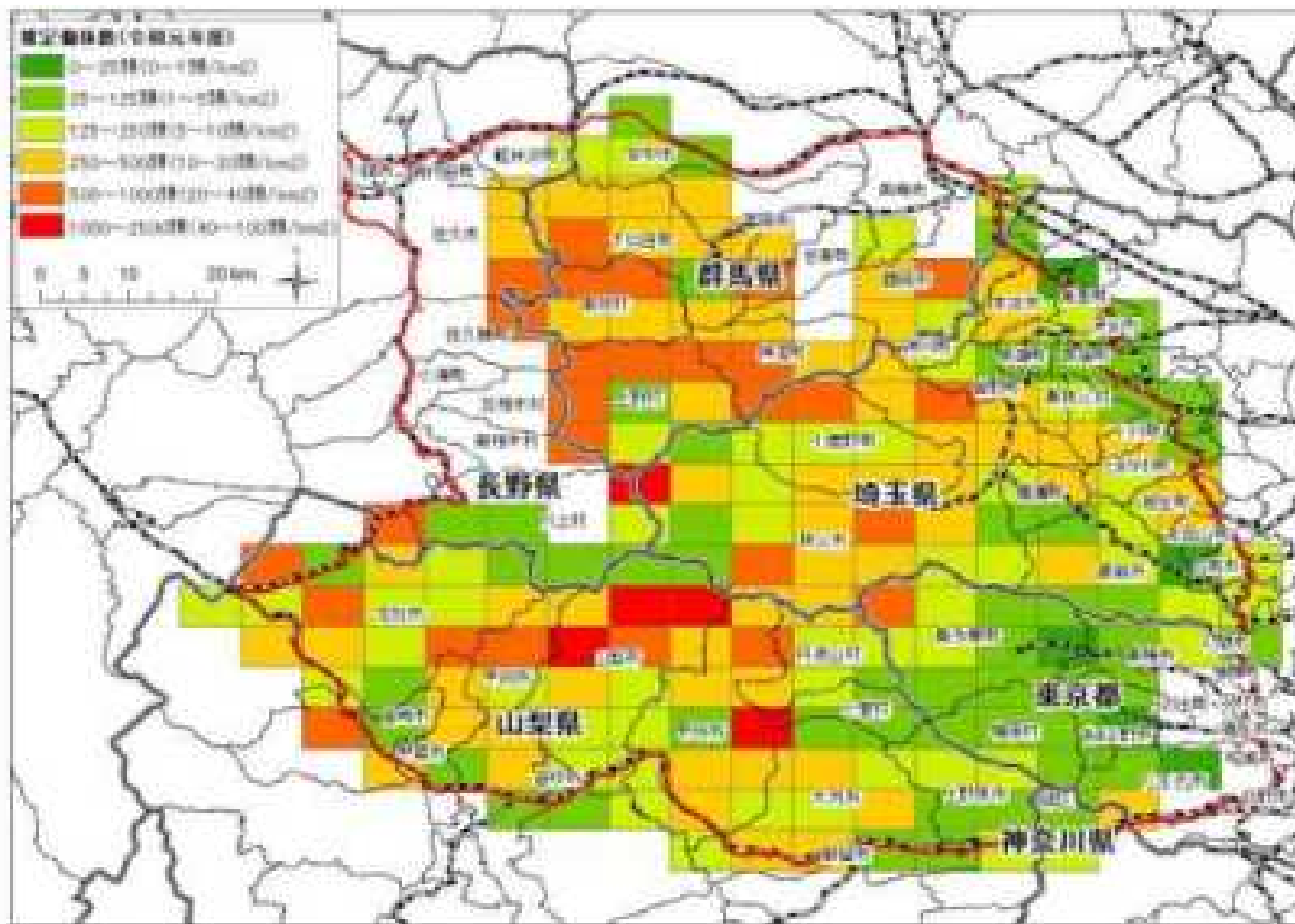
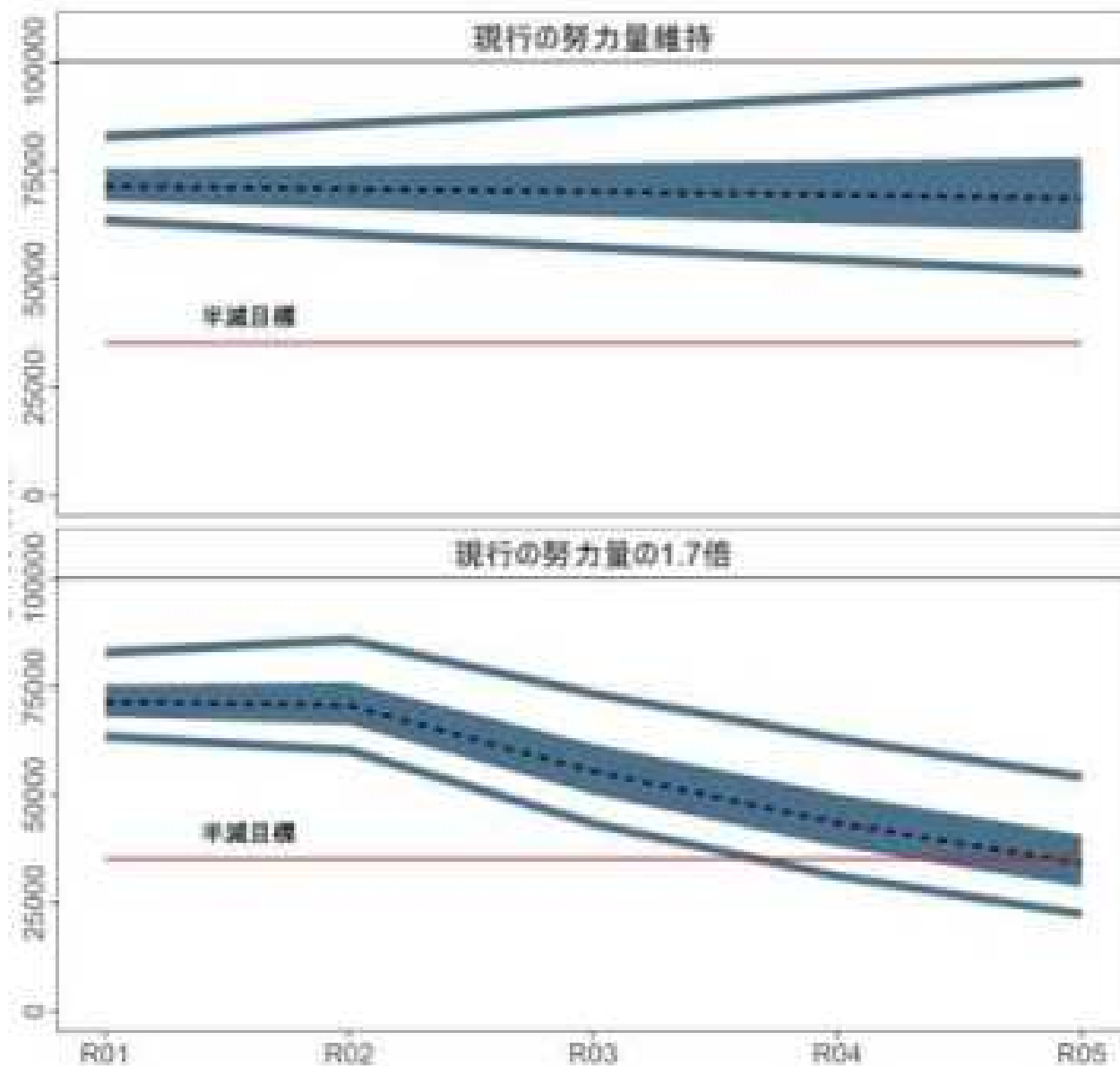


図4-2 推定されたメッシュ別のニホンジカの個体数（平成30年度）

# 発展例: 個体数の将来予測(関東山地)



## 議論のポイント

- ・群馬県が県猟に発注している指定管理捕獲でも、出猟カレンダーを導入することは可能か？
  - ・環境省や林野庁等が実施する事業的な捕獲でも出猟カレンダー情報を収集するようにしたい。
- ⇒群馬県のほうで、県内で行われた事業的な捕獲の出猟カレンダーを受け付けて保管してもらえないか？
- ⇒事業実施者のほうは出猟カレンダーへの記入は対応できそうか？

連携捕獲協議会という選択肢

# 指定管理鳥獣捕獲等事業費

【令和3年度予算額 100百万円（2,300百万円）】

【令和2年度第3次補正予算額 2,400百万円】

都道府県等が計画に基づき行う指定管理鳥獣（ニホンジカ、イノシシ）の捕獲等を支援します。

## 1. 事業目的

- 令和5年度末までにニホンジカ・イノシシの個体数を半減させる目標の達成及びCSFウイルスの拡散防止を目的とした野生イノシシの捕獲強化に向けて、都道府県等が行うニホンジカ・イノシシの捕獲事業等を交付金により支援する。

## 2. 事業内容

ニホンジカ及びイノシシの半減目標の達成及びCSFウイルスの拡散防止に向けてなお一層の捕獲を行う必要があることから、都道府県等が行う以下の取組の一部又は全部について、交付金により支援する。

- ①指定管理鳥獣捕獲等事業に係る実施計画策定等
- ②指定管理鳥獣の捕獲等
- ③効果的な捕獲の促進（捕獲手法の技術開発・市町村連携による捕獲）
- ④認定鳥獣捕獲等事業者等の育成（捕獲技術向上のための研修会等）
- ⑤ジビエ利用拡大を考慮した狩猟者の育成（食肉衛生の講習会等）
- ⑥ジビエ利用拡大等のための狩猟捕獲支援（捕獲個体の搬入への支援及び捕獲強化のための狩猟捕獲経費補助等）

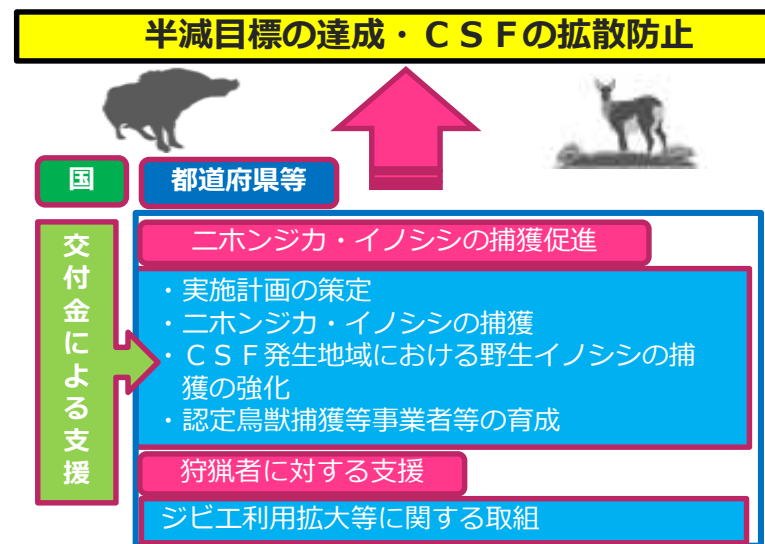
## 3. 事業スキーム

■事業形態 交付金（補助率 1 / 2、2 / 3、定額）

都道府県、**協議会**

■実施期間 平成26年度～令和5年度（予定）

## 4. 事業イメージ



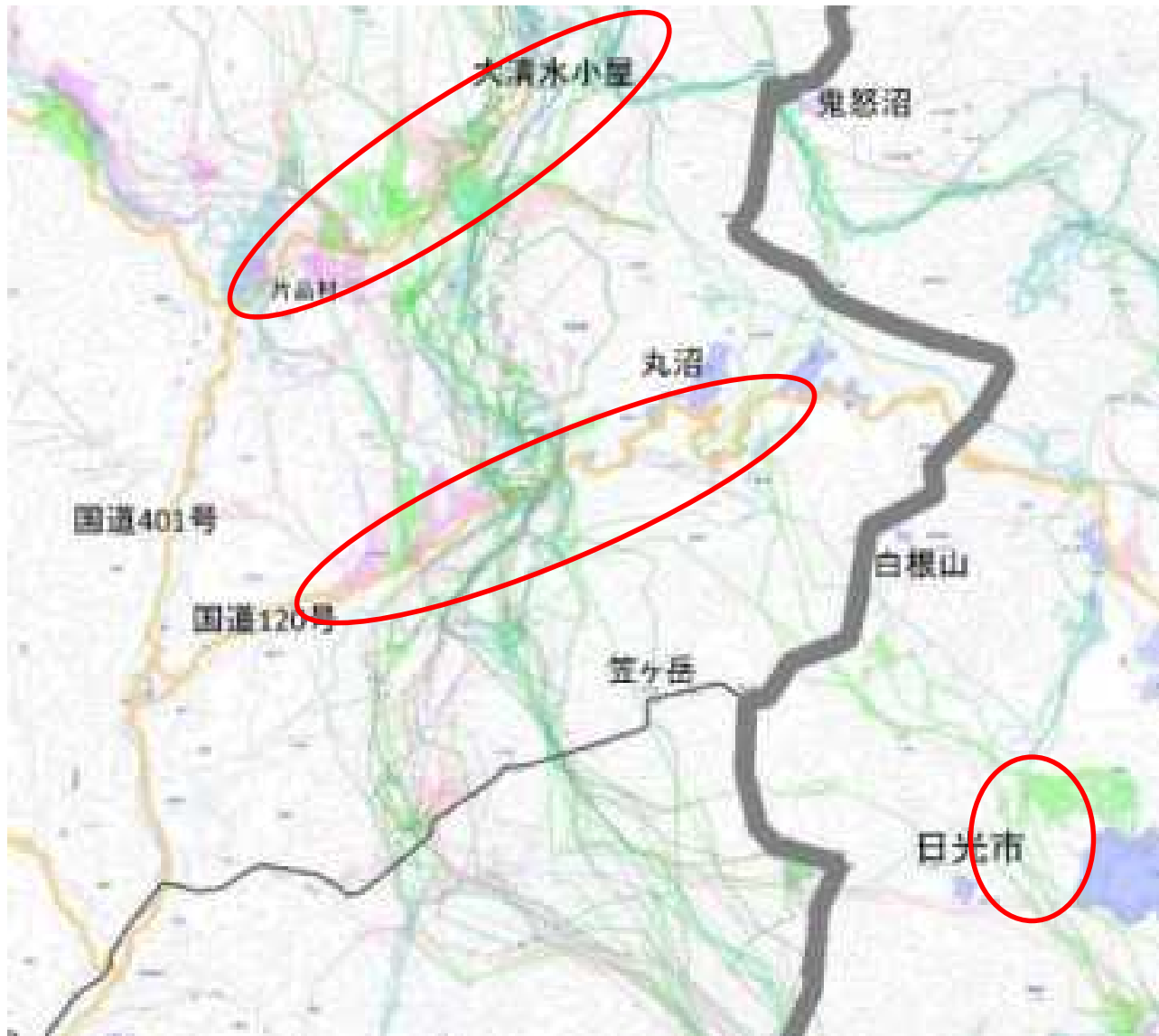
年度	事業概要
R4	半減目標の達成に向けた捕獲等の促進
R5	半減目標の達成に向けた捕獲等の促進



# 指定管理鳥獣捕獲等事業（交付対象メニュー）

交付対象メニュー	内 容	交付対象事業者	交付割合
① 指定管理鳥獣捕獲等事業 実施計画策定等事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 指定管理鳥獣捕獲等事業に関する<b>実施計画の策定</b>等及びそれに必要な<b>調査</b>並びに②及び③の実施に伴う<b>捕獲情報の収集</b>等及び<b>事業評価</b>の実施</li> </ul>	都道府県 協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 協議会は<b>事業費10,000千円</b>を上限とする定額 （定額を超える事業費分は1 / 2以内）</li> </ul>
③ 効果的捕獲促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 効果的な捕獲手法の技術開発等</li> <li>➤ 市町村と連携した効果的な捕獲等の実施</li> <li>➤ <b>広域捕獲計画に基づく捕獲等の実施（協議会のみ実施可能）</b></li> </ul>	都道府県 協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <b>事業費10,000千円</b>を上限とする定額</li> </ul>

# 群馬と栃木の協議会、作いませんか？



# 連携捕獲協議会の要件

- (1) 国の機関及びその職員が当該協議会の会員に含まれていないこと。
- (2) 当該協議会としての意思決定の方法、事務処理及び会計処理の方法及び責任者、財産の管理方法及び責任者、公印の管理及び使用方法並びに責任者、内部監査の方法等 について、運営に係る規約等を定めていること。
- (3) 当該協議会の事務局は、都道府県が担うこととし、都道府県の職員1名以上が会計処理において責任のある立場にあること。

## 議論のポイント

- ・連携捕獲協議会に魅力を感じるか？
- ・設立にあたって障壁はあるか？
- ・予算があったら新たに実施してみたい事業・地域はあるか？

# 福島会場グループ

## テーマ：R4年度の対策に向けて

### 1：モニタリング結果の共有（20分）

#### ①R3年度の植生被害調査結果速報

- ・群馬県域の被害状況
- ・会津駒ヶ岳、大江湿原、御池田代、田代山・帝釈山の被害状況

### 2：捕獲の方針（50分）

#### ①尾瀬ヶ原の河畔林での対策

- ・R3年度の生体捕獲、シカ出没状況結果速報

#### ②大江湿原での柵内対策

- ・R2年度自動撮影カメラ結果（会津森林管理署南会津支署）
- ・R3年度追い払い状況（檜枝岐村）



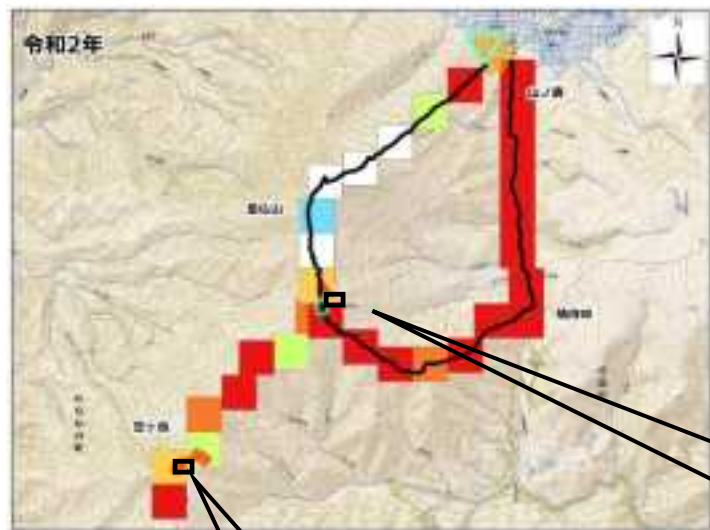
# 福島会場グループ

## テーマ：R4年度の対策に向けて

### 1：モニタリング結果の共有（20分）

#### ①R3年度の植生被害調査結果速報

- ・群馬県域の被害状況
- ・会津駒ヶ岳、大江湿原、御池田代、田代山・帝釈山の被害状況



## イワイチヨウの根の採食

- 広範囲で掘り返されるため大きな裸地ができる
- 雨が降ると泥炭層が流出し、回復が困難
- その他の植生の基盤が失われる

笠ヶ岳山頂周辺(R1年)



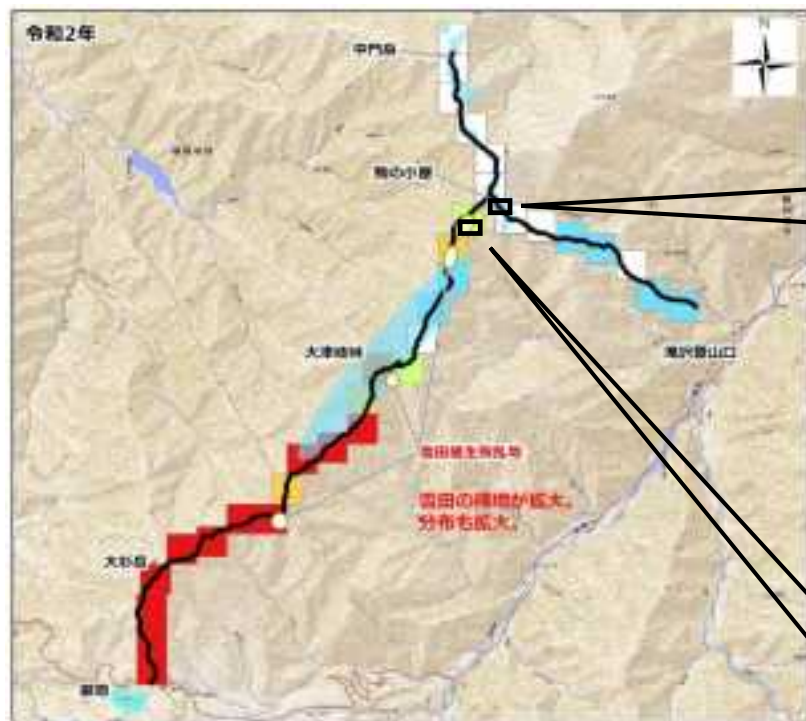
オヤマ沢田代周辺(R1年)





# 尾瀬

# 会津駒ヶ岳



- ・ 山頂直下までイワイチョウの根の採食を確認 (R1年～)
- ・ 山頂湿原でイワイチョウの葉の採食(R3年)







# 尾瀬

# 大江湿原

- ・ 早春期のニッコウキスゲ採食(R3年6月1日)



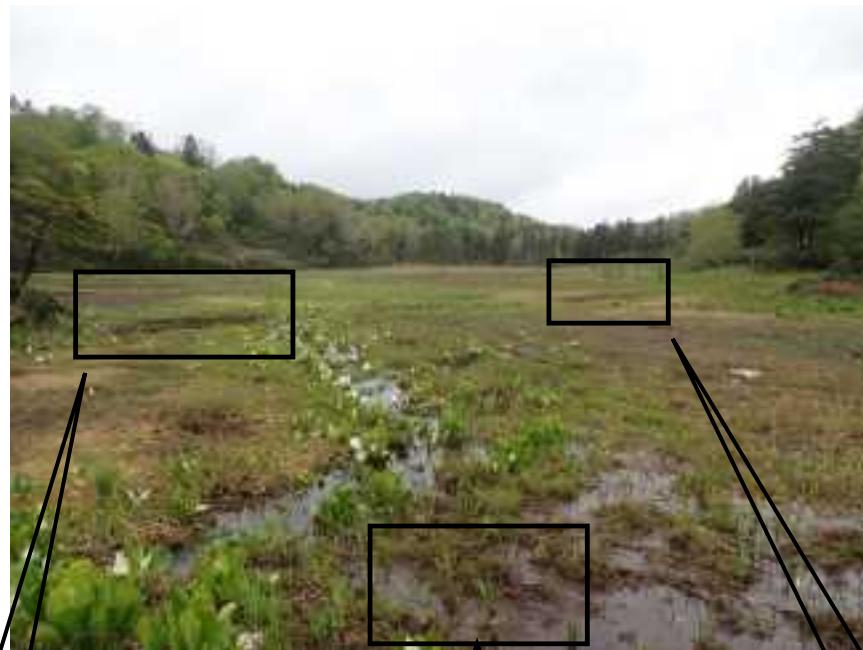
- ・ 開花状況(R3年7月22日)



参考：尾瀬ヶ原(柵内)の開花状況(R3年7月13日)



ミツガシワの掘り返し(R3年6月4日)

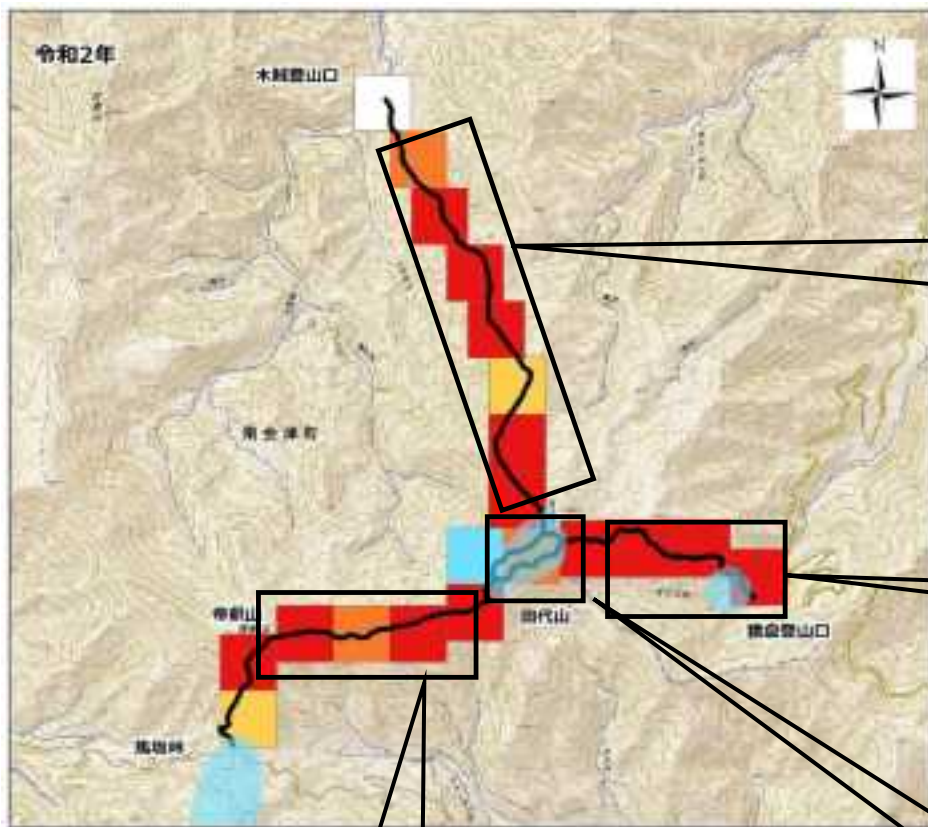






# 尾瀬

## 田代山・帝釈山



- ・主にオオカメノキやノリウツギ、オオバスノキ、コヨウラクツツジ等の低木類の採食が多い
- ・木賊方面では[REDACTED]、猿倉登山口付近でセンジュカンピといった希少種が生育



- ・ヤマソテツ、ゴヨウイチゴ、アキノキリンソウ等の採食が年々増加
- ・R1年以降ゴゼンタチバナの採食
- ・稀にオサバグサの採食痕跡あり



- ・主にニッコウキスゲの採食が顕著
- ・近年キンコウカの採食が確認されている



# 福島会場グループ

## テーマ：R4年度の対策に向けて

### 2：捕獲の方針（50分）

#### ①尾瀬ヶ原の河畔林での対策

- ・ R3年度の生体捕獲、シカ出没状況結果速報

#### ②大江湿原での柵内対策

- ・ R2年度自動撮影カメラ結果（会津森林管理署南会津支署）
- ・ R3年度追い払い状況（檜枝岐村）



尾瀬

# 河畔林の麻醉銃捕獲



ツリースタンド設置状況



# 尾瀬 河畔林のドローンによる撮影



六兵衛堀（5月下旬）

## ニホンジカ生息状況調査（会津森林管理署南会津支署）

シカの撮影回数

箇所	回数	箇所	回数
①	7	⑥	13
②	4	⑦	3
③	24	⑧	3
④	10		
⑤	40	計	104

※設置期間：令和2年7月13日～10月15日

センサーカメラ設置箇所（大江湿原）



令和2年9月7日撮影



令和2年8月2日撮影



令和2年8月30日撮影



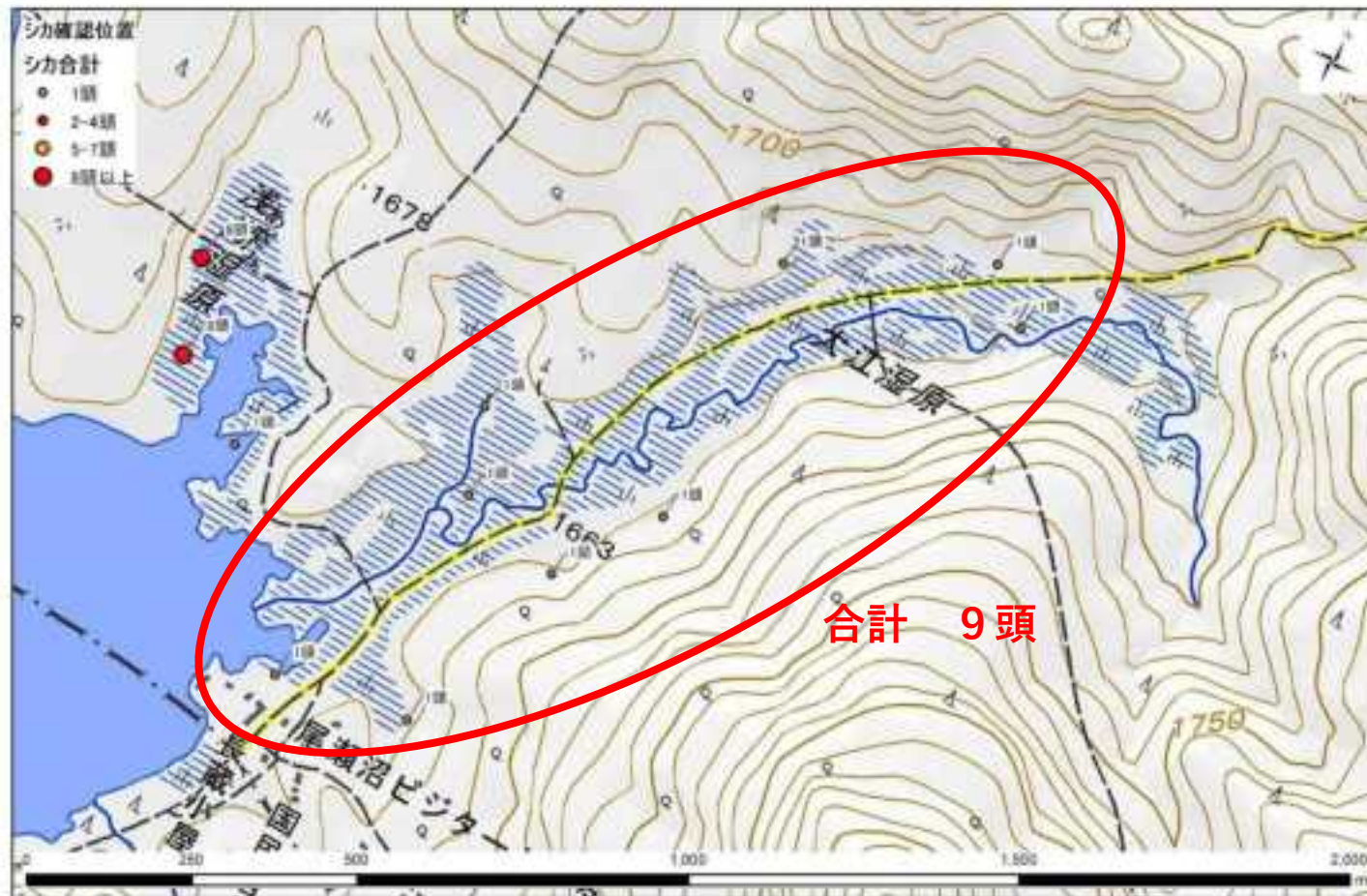
# 大江湿原柵内のシカ 追払い実施報告

檜枝岐村

# ○実施経緯

## 問題発生

6月22日のライトセンサス（環境省業務）で柵内に9頭の侵入を確認  
→ 情報共有（南会津支署 + 檜枝岐村）



# ○対策検討

## 対策検討

- ・ 湿原内は立木少なく、くくりわな運用は困難
- ・ 湿原で銃器捕獲の想定がなかったため、緊急的に実施することは不可能
- ・ 轟音玉の持続的な忌避効果も期待できない（御池田代対策での知見より）



○ 部に小灌木が散在するが径細い。  
平坦な地形であるため、獣道の選定が難しい。

他の選択肢もないこともあり・・・

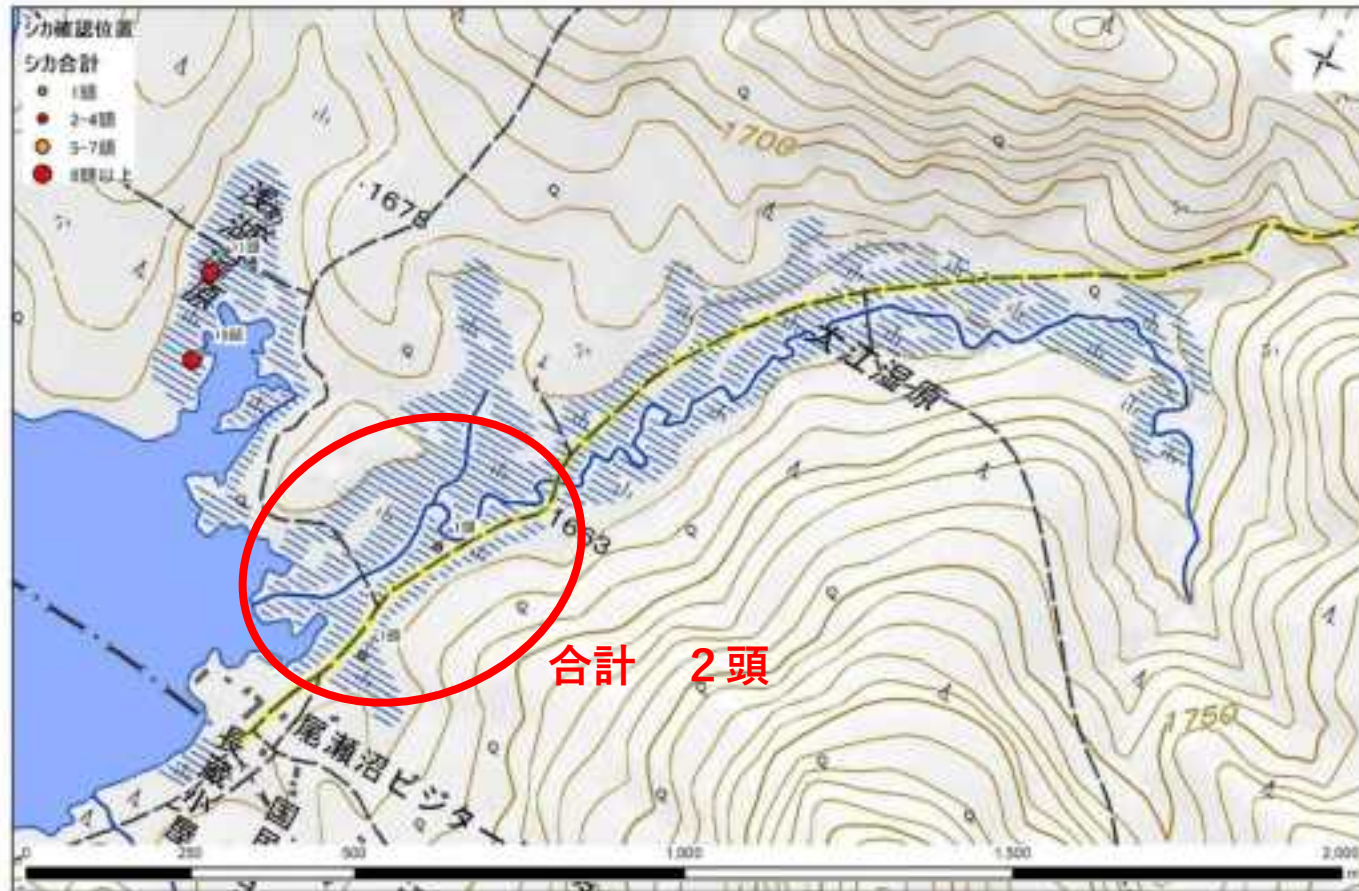
→ 追払い実施を決定（6月29日）





# ○追払い実施後のモニタリング結果

その後のモニタリング結果（7月5日）



令和3年度 7月尾瀬沼ライトセンサス結果

■実施日時：7月5日 19:06～20:58 ■合計頭数：32頭

→ 柵内2頭 一定の効果あり



# ○追払いを実施する上での課題

## 課題

- ・実施に大人数が必要。  
　　＜－緊急的な対応はかなり困難、  
　　人手の参集に時間が掛かっては被害拡大リスク↑
- ・現場での実行確認が難しい  
　　＜－柵沿いは藪が濃いため、柵開放部からシカが出たのか確認が難しい  
　　（ライトセンサスの結果待ち・・・）
- ・大人数で湿原を歩くことへの懸念  
　　＜－複数回の実施になれば、大人数による踏み荒らしの影響は看過できない

## 求められる対策

- ・少人数で実施可能　（人の参集面＋踏み荒らしへの懸念）
- ・実行確認が容易

# 福島会場グループ

## テーマ：R4年度の対策に向けて

### 2：捕獲の方針（50分）

#### ①尾瀬ヶ原の河畔林の対策

論点：R3年度の結果とR4年度の対策の検討

#### ②大江湿原の柵内の対策

論点：日中の対策（捕獲（銃器・わな）、柵、追い払い）の検討

# 令和2年度 実施計画の課題の整理、評価及び改善案

## 関係構成機関

1. 環境省
2. 関東森林管理局
3. 栃木県
4. 群馬県
5. 福島県
6. 新潟県
7. 日光市
8. 片品村
9. 南会津町
10. 檜枝岐村
11. 魚沼市
12. 東京電力リニューアブルパワー株式会社
13. 公益財団法人尾瀬保護財団
14. 尾瀬山小屋組合

## 記載内容の構成

1. 令和2年度のシカ対策実施状況:捕獲
2. 令和2年度のシカ対策実施状況:植生保護
3. 令和2年度のシカ対策実施状況:モニタリング
4. 令和2年度のシカ対策実施状況:その他
5. 1～4の課題の改善案
6. 令和4年度の重点方針関する構想

環境省

# 環境省

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲(1/2)

地域	実施場所	手法	制度	目標	R2年度結果
尾瀬	尾瀬ヶ原	銃器	指定管理	60頭	59頭
	尾瀬沼	銃器・ くくり罠	指定管理	15頭	18頭
	大江湿原	くくり罠	指定管理	15頭	13頭
日光	戦場ヶ原 柵内及び周辺	くくり罠	個体数調整	計10頭	柵内 4頭 柵外 31頭
	湯元スキー場 三岳周辺	くくり罠	指定管理	20頭	16頭



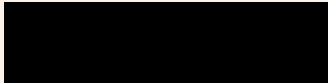


## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲(2/2)

### 評価・課題

- 尾瀬
- 早期発注により捕獲適期(5月中旬～6月上旬)での捕獲を実施
  - 福島県域の捕獲実施地域を拡大  
→ 捕獲数を伸ばすことができた
  - 日中に多数のシカが尾瀬ヶ原の河畔林に滞在している可能性があることがわかった
  - 捕獲効率はわな捕獲より銃器捕獲の方が高かった(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)
- 日光
- 戦場ヶ原シカ柵内外での捕獲頭数は前年度より大きく増加  
...捕獲時期を食物資源が乏しく、罠の凍結の恐れがない時期に設定したため、誘引効果が高くわなの作動不良が減って捕獲数増加に繋がった
  - 夏季のくくり罠捕獲はクマの錯誤捕獲リスクが高く、観光地(＝捕獲困難地)では実施場所の配慮・手法の精査が必要

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護(1/4)

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
尾瀬	尾瀬ヶ原ヨツピ川	ネット柵	964m、3.5ha	平成30年度～
	尾瀬ヶ原下ノ大堀	ネット柵	890m、5.3ha	令和2年度～
		ネット柵	40m × 2箇所	令和元年度～
		ネット柵	70m × 1箇所 40m × 1箇所	令和2年度～
	大江湿原	ネット柵	70m	平成30年度～

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護(2/4)

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
日光	戦場ヶ原	ネット柵	16,961m・980ha	平成13年度～
その他	奥鬼怒林道	ネット柵	4.5km	平成20年度～



## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護(3/4)

### 評価・課題

尾瀬

#### ■ヨッピー川

柵外と柵内ではニッコウキスゲの開花状況が大きく異なり、一定の回復効果が得られた。

#### ■下ノ大堀

柵設置以前の採食影響が大きく、ニッコウキスゲの株は回復に至っていなかった。また、河川開口部からのシカの侵入が多く確認された。

#### ■

柵設置以前に希少種の採食が確認された。柵設置後は、希少種の採食は認められなかったが、シカの侵入が認められ、一部希少種以外の採食が確認された。希少種の株数・開花株数は、昨年度と比較すると回復傾向が認められた。

#### ■

柵設置以前に希少種の採食が確認された。柵設置後は、希少種の採食は認められなかった。より早い時期、雪解け直後に合わせた柵設置が必要。

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護(4/4)

### 評価・課題

尾瀬

#### ■大江湿原

柵内への侵入が確認されており、その頭数は増加傾向にあることから、柵内への侵入防止対策および早期設置が必要。

#### ■奥鬼怒林道

柵に到達したシカは、柵沿いを移動せずに他の経路を辿って柵を迂回している可能性や、最寄りの柵を破壊して越える、または他個体・他獣種が破壊した箇所を利用して通り抜けている可能性が示唆された。

日光

#### ■戦場ヶ原

開放部からのシカの侵入頭数が増加。同一個体による出入りが原因であるが、頻繁な侵入が確認された場合即時の対応が必要。また、イノシシによる破損頻度の増加が深刻化してきており、柵の巡視頻度を増やしたが対応しきれなくなってきた。



## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング(1/3)

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ生息密度	センサーカメラ	【尾】尾瀬ヶ原	撮影頭数は増加傾向 イノシシの撮影頭数も増加傾向
		【尾】奥鬼怒林道	H29まで増加傾向、その後横ばい
		【尾】丸沼(唐沢山)	H28まで増加傾向、その後減少傾向
		【尾】会津駒ヶ岳 田代山	R2.11月から調査開始 R3.5月に調査終了 駒ヶ岳山麓:シカは4月中旬から確認 田代山:6月上旬から小田代で確認
	ライトセンサス	【尾】尾瀬ヶ原 尾瀬沼周辺	確認頭数は増加傾向
		【日】戦場ヶ原周辺 (柵内外道路)	全域的には微増傾向 柵内の年間平均目撃頭数が10年ぶりに1.0頭を上回った

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング(2/3)

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ移動経路	GPS追跡	尾瀬～越冬地	全個体において季節移動が確認された。 R2年度装着個体のうちの1頭は、尾瀬ヶ原で装着後、20km以上北の地点を夏の生息地としていた。
植生被害	採食状況	尾瀬ヶ原、尾瀬沼、 至仏山、燧ヶ岳、 会津駒ヶ岳、 田代山、帝釈山、 笠ヶ岳	高山帯においても植生被害が拡大傾向。 湿原の掘り返しに伴い植生攪乱地が発生、裸地化の分布が拡大。



## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング(3/3)

### 評価・課題

#### 尾瀬

##### ■ライトセンサス(尾瀬ヶ原)

これまでは初回の5月下旬に年間の最大頭数が見られたが、R2は5月上旬に最大頭数が確認された。正確な年間最大頭数を把握するためには調査開始時期を早めることが望ましい。

##### ■採食状況

既設調査地点での嗜好性種の衰退が確認され始め、今後餌場の変化が予想されるため、新たな餌場となるような地点の追加設定など、柔軟な対応が必要。高山帯では採食が増加傾向で、危機が迫っている状況であることから、調査による経過観察を継続し、保全対策の要否・手法の検討が必要。

#### 日光

##### ■ライトセンサス(戦場ヶ原)

柵内では、生息密度の変化を他のモニタリング調査結果と合わせて多角的に捉え、捕獲や開放部対策などに活かしているが、柵外の結果は現状対策に繋がれておらず、活用する仕組み作りが必要。

## \* 4. 令和2年度のシカ対策取組状況：その他

取組み	
日光	日光湯元ビジターセンターにて、展示や捕獲したシカ皮を利用したワークショップ等を通して、シカによる問題や対策について普及啓発を実施



### 評価・課題

ワークショップは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。展示はどの程度の利用者が見ているか効果がわかりにくい。

# 環境省

## \* 5. 課題の改善案(1/2)

尾瀬

### 捕獲の改善案

- 新潟県域でも捕獲を開始した。
- 尾瀬ヶ原、尾瀬沼ともに捕獲効率の高い銃器捕獲を中心に実施。
- 河畔林での捕獲実施可否について調整中。生息状況をセンサーカメラにて調査中。
- 捕獲効率の高い、銃器捕獲に集中させて実施。

### 植生保護の改善案

- 尾瀬ヶ原竜宮(優先防護エリアBランク)に、シカ柵を新設した。
- [REDACTED]のシカ柵を、採食リスク低減のために融雪後速やかに設置。
- 下ノ大堀のシカ柵について、河川部の延伸・改良を実施。

### モニタリングの改善案

- 尾瀬のライトセンサスについて、調査開始時期を例年より早め、5/6に第1回を実施した。
- 各関係機関の移動経路上(国道401号、120号)のセンサーカメラ位置とこれまでのシカの季節移動軌跡の重ね合わせ図の作成、整理。

### その他の取り組みの改善案



# 環境省

## \* 5. 課題の改善案(2/2)

日光

### 捕獲の改善案

- 戦場ヶ原シカ柵内外捕獲は、捕獲適期(4月上旬～)での捕獲を実施。
- 奥日光での捕獲は錯誤捕獲リスクが少ない方法で対象個体群を絞って実施。

### モニタリングの改善案

- ライトセンサスによる柵外の調査結果を柵周辺での捕獲や奥日光での捕獲計画に反映させる方法を検討。

### 植生保護の改善案

- イノシシによる破損対応として、柵自体の強化を検討。有識者よりヒアリング等行い情報を収集する。

### その他の取り組みの改善案

- どの程度の利用者が展示を見ているのか効果を把握するため、利用者からのレスポンスを得る展示を追加するなどを検討。

## \* 6. R3年度の重点方針に関する構想

### 重点方針

R4年度の  
重点方針  
(案)

#### 日光国立公園

- 夏季定住個体を対象とした捕獲の強化。R3年度定住個体に装着するGPS追跡調査により移動経路を把握し、効果的な捕獲時期や場所、手法を計画に落とし込む。
- 防護柵の設置が必要なエリアを検討するための植生被害状況把握調査の継続・情報の蓄積。

#### 尾瀬国立公園

- 尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺での捕獲の強化(河畔林での捕獲の実施など)。
- 高山帯への防護柵の設置。
- 季節移動の正確な時期の把握(通信機能付きカメラの活用など)。

#### その他共通事項

- 許可捕獲における捕獲努力量の記録(出猟カレンダーの配布)。

關東森林管理局

# 関東森林管理局(日光森林管理署)

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況: 捕獲

地域	実施場所	手法	制度	実績(目標)	R1年度結果
奥日光・足尾 周辺	奥日光	くくりわ な	有害鳥獣	51頭(80頭)	8頭
奥日光・足尾 周辺	足尾	囲いわ な	有害鳥獣	0頭(50頭)	6頭



### 評価・課題

足尾: 囲いわなのセンサー不調により、早期に終了となった。

# 関東森林管理局(利根沼田森林管理署)

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況: 捕獲

地域	実施場所	手法	制度	実績	R1年度結果
片品・檜枝岐	沼田市利根町、 昭和村	くくり罠	有害	105頭	69頭




評価・課題



# 関東森林管理局(福島森林管理署南会津支署)

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況: 植生保護

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
尾瀬ヶ原・尾瀬沼	大江湿原(会津森林管理署南会津支署)	金属柵	2,300m	平成26年度
尾瀬ヶ原・尾瀬沼	大江湿原(南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会)	金属柵	1,250m	平成29年度
				

### 評価・課題

平成26年度から防護柵を約3,500m設置(冬季は撤去)している。その後、平成29年度からは南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会と連携し、一部をボランティア等の協力を得て設置や撤去を対応している。(※令和2年度はコロナ禍の影響によりボランティアによる作業を取り止め、関係機関の職員により対応した。)

今後も予算の確保を行いつつ、活動を継続していくことが肝要である。

なお、この取組によりニッコウキスゲなどの植生が回復しつつある。

# 関東森林管理局(日光森林管理署)

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況: 植生保護

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
奥日光・足尾 周辺 (日光市内)	一円	ネット柵 テープタイプ ネットタイプ	13,510m 112,830本 14,170本	令和2年度 実績



### 評価・課題

- ・ネット柵は修繕が必要なダメージを受けることがある。
- ・単木保護タイプでは、苗木が枯損することがある。

# 関東森林管理局(利根沼田森林管理署)

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況:モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ生息密度	センサーカメラ	群馬県利根郡 昭和村	



### 評価・課題

--

# 関東森林管理局(中越森林管理署)

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況:モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ生息密度	センサーカメラ	新潟県魚沼市 尾瀬ヶ原・東電小屋 付近	撮影頻度は前年度より増加



### 評価・課題

## \* 4. 令和2年度のシカ対策取組状況：その他

### 取組み

他県において、ICTを活用した捕獲対策の推進としてLPWA(特定小電力広域無線)による通知システムを構築・試行。見回り負担の軽減などに取り組んだ。



### 評価・課題

1. 見回り負担の軽減が図れる。
2. 機器や電波が原因の誤報や通知漏れがみられた。
3. 誤報などは、設置方法の工夫や改善により、通知の精度を上げることができる。



# 関東森林管理局(福島森林管理署南会津支署)

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
	・防護柵の設置時期等の情報について南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会と連携を進めるとともに、実行体制を強化する。
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案

# 関東森林管理局(利根沼田森林管理署)

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
・くくり罠事業地において、誘引捕獲や小林式捕獲法に取り組んだ。	
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案

# 関東森林管理局

## \* 6. R3年度の重点方針に関する構想

### 重点方針

日光国立公園

尾瀬国立公園

その他共通事項

R4年度の  
重点方針  
(案)

ICTを活用した捕獲の可能性について検討する。

栃木県

# 栃木県

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

地域	実施場所	手法	制度	目標	R2年度結果
	社山	銃器	指定管理	100頭	45頭
栃木県 (林業センター)	千手ヶ原	くくりわ な	有害	50頭	0頭



### 評価・課題

新型コロナウイルスの影響により、登山客が増加したためシカの警戒心が高まっている可能性がある。



# 栃木県

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
栃木県	シラネアオイ群生地	電気柵	905m・1.6ha	平成5年度～



### 評価・課題

電気柵で囲うことにより、シカの採食圧が減少し、他の植物に被圧され、シラネアオイが衰退する可能性があるため、試験的に刈り払いの面積を増やした。

# 栃木県

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
植生回復	植生回復モニタリング	小田代原、千手ヶ原、赤沼	取りまとめ中
シカ生息密度	センサーカメラ	千手ヶ原	近年はほぼ横ばい
シカ生息密度	ライトセンサス	鬼怒沼	出現頭数は減少傾向
シカ生息密度	ライトセンサス	白根山	出現頭数は減少傾向、但しR2年度は増加
シカ生息密度	糞塊密度法	県内全域	近年はほぼ横ばい
シカ生息密度	区画法及び定点観測	奥日光、表日光、足尾	表日光では今年度確認できなかった 奥日光、足尾では横ばい



### 評価・課題

調査項目を総合的に評価し、今後考察予定

# 栃木県

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
引き続き季節移動を考慮し、効率的な捕獲を実施する。	刈り払いの効果を検証し、今後の対策を検討する。
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案

群馬県

# 群馬県尾瀬保全推進室

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

### ヒアリングシート1：捕獲の取組内容の説明

地域	実施場所	手法	制度	目標	R2年度結果
群馬県片品村	一ノ瀬(丸沼地区)	くくり罠銃器	指定管理	155頭	125頭
群馬県片品村	戸倉(国道401号) いずれも片品村 (移動経路上)				81頭



### 評価・課題

- ・環境省の実施しているGPSのデータ及び指定鳥獣捕獲事業ニホンジカ生息状況等調査業務の結果を活用することで、ニホンジカが季節移動してくるタイミングで指定鳥獣捕獲事業を開始し、目標を上回る結果となっている。
- ・過去の捕獲実績や地域の実情を踏まえ捕獲目標を設定しているが、「尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針」の5年目処の事業目標である「尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカ个体数の概ね半減」に基づくものではない。



# 群馬県尾瀬保全推進室



令和2年度捕獲実施区域

令和2年度より「丸沼 菅沼 鳥獣保護区」の一部も 捕獲対象地域に追加



越冬地から尾瀬方面へ移動するシカの様子(令和2年4月12日 一ノ瀬にて撮影)

# 群馬県尾瀬保全推進室

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
尾瀬ヶ原	植物研究見本園 (山ノ鼻)	ネット柵	約1,124m ・約6.1ha	令和2年度～
尾瀬ヶ原	オヤマ沢田代 (至仏山)	ネット柵	約305m ・約0.4ha	令和2年度～
尾瀬ヶ原	背中アブリ	ネット柵	約100m・0.06ha	平成26年度～



### 評価・課題

令和2年度より大規模植生保護柵を研究見本園とオヤマ沢田代に設置しているが、越冬による損壊が確認された。また、維持管理費が高額である。この他、植生保護柵への野生動物の絡まりが懸念される。

# 群馬県尾瀬保全推進室



櫓型しか柵



# 群馬県尾瀬保全推進室

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
生息状況等調査	センサーカメラ ・踏査調査	丸沼・一ノ瀬・丸沼 菅沼地域	春期・秋期ともに、撮影頭数は増加傾向（大清水地域を除く）
植生保護柵動態等モニタリング業務	センサーカメラ ・無人航空機	研究見本園・至仏 山オヤマ沢田代	撮影頭数は研究見本園82頭、オヤマ沢田代2頭。
同上（越冬）	センサーカメラ	同上	柵格納後においてもいずれの地域でも撮影された（見本園12／1、オヤマ沢11／9）。



### 評価・課題

- ・大清水地域は季節移動ルート分散化が顕著になっているため、自動撮影カメラによる調査でシカの動向を評価するのは年々困難になっている。
- ・自動撮影カメラの撮影結果から個体数を抑制することができていないものと推測。
- ・植生保護柵が効果的に機能している等を効果検証するために、モニタリング調査を継続。

# 群馬県尾瀬保全推進室

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング

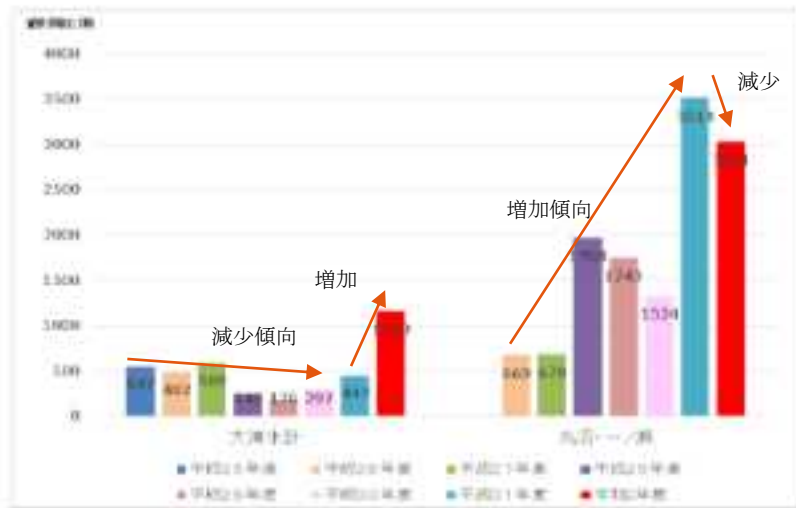


図 15 春期の撮影頭数の経年比較

注 1) 丸沼・一ノ瀬地域の平成 25 年度は、設置場所が大きく異なることから比較せず

注 2) 丸沼・一ノ瀬地域の平成 30 年度は、道路工事のため自動撮影カメラが設置できない箇所があり、

正しく評価できていない可能性が高い



図 16 秋期の撮影頭数の経年比較

注 1) 大清水地域の平成 25 年度は、初めてネットを設置して防護をしたことから、シカが柵沿いを移動して複数のカメラで重複撮影された可能性が高い

注 2) 丸沼・一ノ瀬地域の平成 25 年度は、設置場所が大きく異なることから除外

### <考察>

大清水地域は 季節移動ルートの分散化 が顕著になっている。そのため、自動撮影カメラによる調査でシカの動向 を 評価するのは、年々困難 を極めている。

一方で、急峻な地形で国道 120 号線の コンクリートのり面が連続する 丸沼・一ノ瀬 地域は、季節 移動ルート が制限されることから、撮影個体の漏れが少ない。



# 群馬県尾瀬保全推進室

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
・捕獲目標数の増加(R2 155→R3 170頭)	・越冬仕様の改良(官民共創事業により実施)
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案
・調査時期の前倒し(昨年度10月開始)	・尾瀬の入山者向けにシカ柵等に関するアンケートを実施 ・植生保護柵設置のゲート開閉機構の見直し

# 群馬県尾瀬保全推進室

## \* 6. R3年度の重点方針に関する構想

### 重点方針

R4年度の  
重点方針  
(案)

#### 日光国立公園

- ・丸沼菅沼鳥獣保護区での捕獲を継続する。
- ・捕獲目標数を地域の実情、捕獲実績の他、事業目標(5年目処)を踏まえたものとする。

#### 尾瀬国立公園

- ・優先防護エリアでの植生保護柵の設置及びモニタリングを継続する。

#### その他共通事項

- ・植生保護柵の維持管理の手法等を見直す。

福島県

# 福島県

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

地域	実施場所	手法	制度	目標	R2年度結果
福島県	尾瀬国立公園	銃器、 わな	指定管理	—	108頭



### 評価・課題

指定管理鳥獣捕獲等事業により捕獲業務を実施した。  
令和2年度について、尾瀬国立公園に近接する南会津町舘岩地域で多数のシカが捕獲された。（指定管理において678頭捕獲）

南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会  
(事務局：南会津地方振興局)

\* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
尾瀬	尾瀬国立公園 大江湿原	金属網	1,200m	平成29年度～



評価・課題

会津森林管理署南会津支署が行う防鹿柵の設置・撤去について、ボランティアの協力を得て活動を支援しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ボランティアの募集を中止とした。今後のボランティア参加について、慎重な判断が必要であり、作業人員の確保が課題となる。

また、設置時期については、関係機関との連携が必要。



# 福島県

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ生息状況調査	糞塊密度調査	福島県全域	主に南会津地方で相対的に高い糞塊密度を確認



### 評価・課題

令和元年度より調査を実施しており、令和3年度も継続して調査を実施する。

# 福島県

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
ニホンジカの出産期(5月下旬頃)より前に捕獲を開始できるように、指定管理鳥獣捕獲等事業の各種手続きを速やかに行い、捕獲従事者が活動できるようにした。	防鹿柵の設置・撤去について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ボランティアの募集を中止とした。 そのため、感染症対策を講じた上で、関係機関で協同し、防鹿柵の設置を実施した。
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案
早期に委託契約を締結し、9月には調査を開始できるようにした。 原則、昨年度と同地点を調査し比較できるようにしている。 次年度も継続して調査ができるように予算の確保に努める。	

新潟県

新潟県

該当なし

日光市



# 日光市

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

地域	実施場所	手法	制度	目標	R1年度結果
日光市	日光国立公園 高山	銃器	有害捕獲	10頭	—



### 評価・課題

★新型コロナウイルスの影響により、例年実施している足尾・三岳・男体山南斜面での大規模な捕獲が実施できなかったことから、規模を縮小し、研修会を兼ねた有害捕獲を実施。従事者は初心者であったが、シカ2頭・イノシシ4頭を捕獲した。

片品村

# 片品村

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

地域	実施場所	手法	制度	目標	R2年度結果
片品村	尾瀬国立公園 周辺地域	わな猟 銃器	指定管理	155頭	193頭
片品村	片品村内	わな猟 銃器	有害	400頭	278頭



### 評価・課題

評価：指定管理の捕獲については、2年度も目標以上の成果を上げることができており、従事者の効率的な捕獲体制の結果によるものです。

課題：植物への被害は依然深刻な状況が続いているので、年間を通しての捕獲の強化が必要だと思われます。

南会津町

# 南会津町

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

地域	実施場所	手法	制度	目標	R1年度結果
福島県	田代・帝釈山		個体数調整		0頭



### 評価・課題

町全体を特定計画に基づく市町村管理事業実施計画の実施区域として個体数調整に取り組んでいるが、当該地域内で捕獲実績は無く、町事業として当該地域内の捕獲を実施することは困難。

# 南会津町

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ生息密度	スポットライトカウント	田島地域	令和元年度と同水準の結果となり、高止まり状況にある
シカ移動経路	GPS行動追跡	南会津町・昭和村	南会津町・昭和村内に越冬する個体が複数確認され、それらの個体の中には季節移動をしない定住個体も確認された



### 評価・課題

田代・帝釈山地域では上記モニタリングを実施できておらず、生息状況の把握が急務であると認識している。しかしながら町単独ではこれ以上の調査に着手することが難しことから、関係機関と連携を図りたい。



# 南会津町

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案
田代・帝釈山地域のモニタリングを実施するため、檜枝岐自然保護官事務所の取組を支援した。今後もモニタリングデータの解析等で協力していく。	

檜枝岐村

# 檜枝岐村

## \* 1. 令和2年度のシカ対策取組状況：捕獲

地域	実施場所	手法	制度	目標	R1年度結果



### 評価・課題

町全体を特定計画に基づく市町村管理事業実施計画の実施区域として個体数調整に取り組んでいるが、当該地域内で捕獲実績は無く、町事業として当該地域内の捕獲を実施することは困難。

# 檜枝岐村

## \* 2. 令和2年度のシカ対策取組状況：植生保護

地域	実施場所	柵の種類	規模 (周囲長・面積)	設置開始 年度
檜枝岐村	御池田代	ネット柵	1,093m・0.11ha	令和2年度～



評価・課題

# 檜枝岐村

## \* 3. 令和2年度のシカ対策取組状況：モニタリング

指標	手法	実施場所	結果・傾向
シカ生息密度	センサーカメラ	御池田代	ネット柵を設置する前は夜間に何度も撮影できていたが、設置後は写らなくなってきている。



### 評価・課題

# 檜枝岐村

## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
	ネット柵の補修
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案
御池田代内のシカが写らなくなっている ので、設置場所の検討	大江湿原内にシカが侵入した時に、 人数を集めてシカを追い出しを しているが、効果があると思え ないため、銃器での捕獲等を 検討したいと考えている。



魚沼市

魚沼市

該当なし

東京電力リニューアブルパワー  
株式会社

# 東京電力リニューアブルパワー

## \* 4. 令和2年度のシカ対策取組状況：その他

### 取組み

当社所有地内で各自治体等が取り組むシカ柵等設置に関して、土地管理面で円滑に設置が進められるよう協力（円滑な契約等）



### 評価・課題

特になし

公益財団法人尾瀬保護財団

## \* 4. 令和2年度のシカ対策取組状況：その他

### 取組み

群馬県が尾瀬ヶ原（研究見本園）に設置する植生保護柵について、令和3年度の設置・撤去作業へのボランティア参加の呼びかけを行った。



### 評価・課題

- ・複数の企業から意欲的な反応を得られた。
- ・残雪期の設置作業では、現地までの行程が無雪期より困難であり、ボランティア受け入れ可能人数が限られる。



## \* 5. 課題の改善案

捕獲の改善案	植生保護の改善案
モニタリングの改善案	その他の取り組みの改善案
	研究見本園での植生保護柵の設置作業について、ボランティアツアーを計画した(新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)。撤去作業についてもボランティア参加の呼びかけを行う予定。

尾瀨山小屋組合

尾瀬山小屋組合

該当なし